第十八輯・第二十號・昭和十年十二月一日

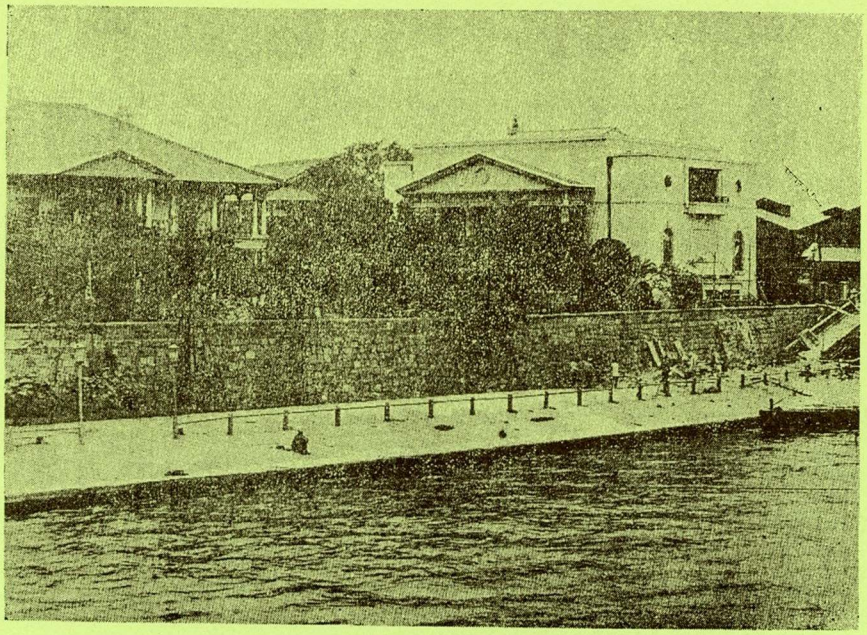
大正六年九月十四日第三種郵便物認可・昭和十年十一月二十五日印刷納本・昭和十年十二月一日發行(毎月一回一日發行)

建築雜誌

昭和十年度調査研究報告

常設委員會

日本建築協會



明治天皇記念館

御設計　大阪市役所殿

御施工　池田榮三郎殿

弊社製スチールドアー納入

製品種目

瀬川式特許スチールサッシ
瀬川式特許スチールドアー
朝日式特許スチールシヤター
瀬川式スチールパーチション
瀬川式特殊高級鋼製建具
並ブロンズドアー及メールシユート
其他一般的建築金物類

朝日建材株式會社大阪支店

大阪市東區高麗橋二丁目九番地(高麗橋野村ビル内)
電話北濱(23)㈹4714・4715・5227(3)

本　社　東京市麹町區丸ノ内二丁目二番地(丸ノ内ビル内)
電話丸ノ内(23)679・876

工　場　東京市城東區北砂町三丁目一二番地
電話本所(73)2157・2158・2159

大阪支店出張所　福岡市東長洲八丁目六三番地
電話福岡7290番

出張所
- 名古屋市中區南大津町一丁目九ノ二(共濟ビル内)
  電話中2776・2777
- 札幌市南一條西八丁目　電話4776番
- 奉天市千代田通二五番地

特約店　大連市山縣通二一三　三祐公司

會　告

本協會定款第十七條及第十八條に依り監事二名、評議員半數改選に付昭和十年十一月二十九日開會の通常總會に於て選擧を執行致しました其結果下記の通りであります。

監　事

當選	498票	津田敏雄氏	同	494票	松本禹象氏
次點	4票	小川陽吉氏	同	4票	富士岡重一氏

（以下略）

評議員

當選	89票	中村義雄氏	同	88票	加田安彦氏
同	79票	小川陽吉氏	同	78票	吉本政次郎氏
同	78票	新名種夫氏	同	76票	鳥井信氏
同	75票	清水榮二氏	同	74票	內藤亮一氏
同	73票	谷民藏氏	同	73票	久保田種吉氏
同	73票	堀口甚吉氏	同	73票	猪瀨幸太郎氏
同	72票	酒井勇三郎氏	同	72票	松浦松之助氏
同	72票	中西六郎氏	同	72票	三浦茂氏
同	72票	黑田茂氏	同	72票	本多正道氏
同	71票	阪口芳三郎氏	同	71票	鳥井捨藏氏
次點	16票	武田經一氏	同	6票	森本藤吉氏

（以下略）

昭和10年12月

社團法人 **日本建築協會**

建築と社會

第18輯第12號　昭和10年12月發行

常設委員會昭和十年度調査研究報告

目　次

建築物法其他に關する討議研究 …… 法制委員會（16）

實業教育振興委員會に關する件 …… 教化委員會（18）

建築に關する映畫目錄 …… 教化委員會（25）

本年度に於ける災害研究報告 …… 災害强度委員會（37）

建築工事場假設備に要する重なる器具機械の研究及附帶工事中主に水道衞生工事に就て …… 設備委員會（46）

住宅構造座談會記錄 …… 住宅委員會（50）

昭和十年度阪神防空演習に於ける夜間操業中の工場の燈火管制狀況調査報告 …… 都市武裝促進委員會演習部（61）

木材市場品規格調査委員會報告 …… 木材市場品規格調査委員會（75）

昭和10年6月29日30日大阪府下水害報告 …… 松井清之助 元吉勇太郎（78）

豪雨による大阪府下再度の水害 9月2日堅下村の水禍 …… 中井新一郎 勾坂弘美 元吉勇太郎（84）

第二回四建築聯合大會略記 四建築會聯合大會臺灣瞥見記 …… 清水榮二（96）

建築法規に關する質疑應答欄 ……（102）

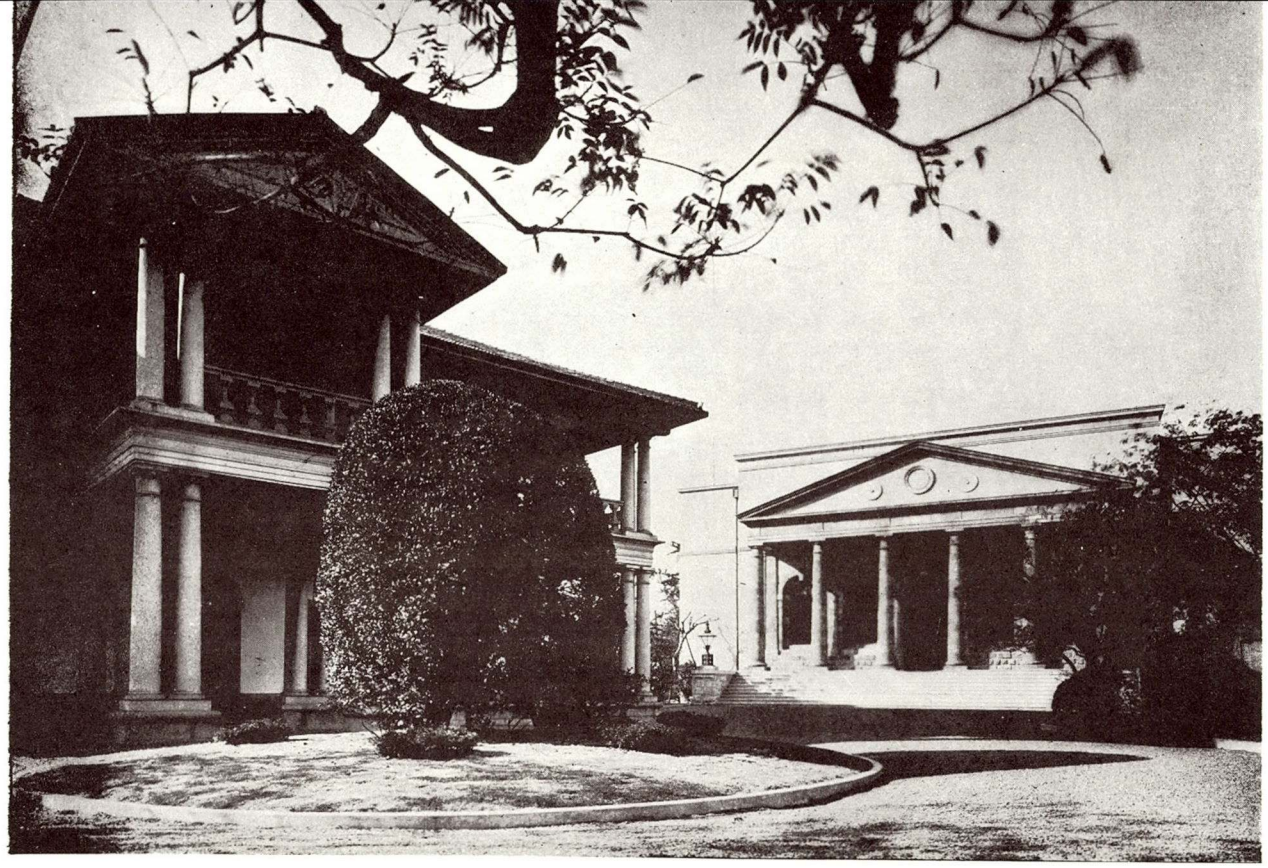
明治天皇記念館・泉布觀寫眞 ……（1）

帝塚山學院新築寫眞 ……（7）

大阪市水道部新築廳舍寫眞 ……（10）

國際新建築 ……（103）

會　報 ……（119）

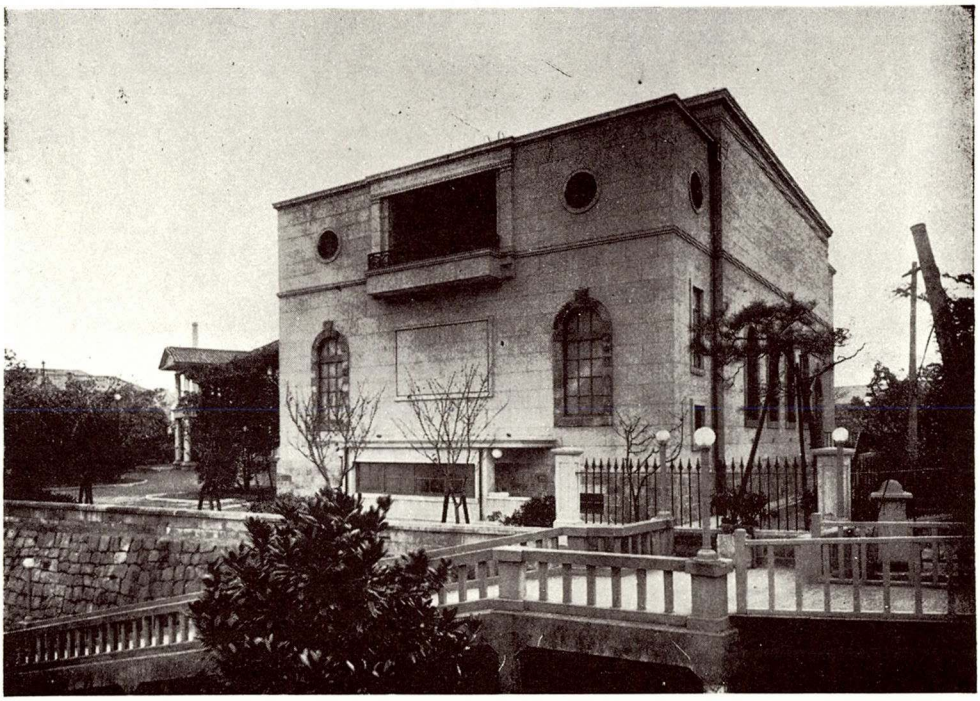


泉布觀正面より記念館遠望

明治天皇記念館・泉布觀　・　設計監督・大阪市三郎
施工・池田榮



正　　面

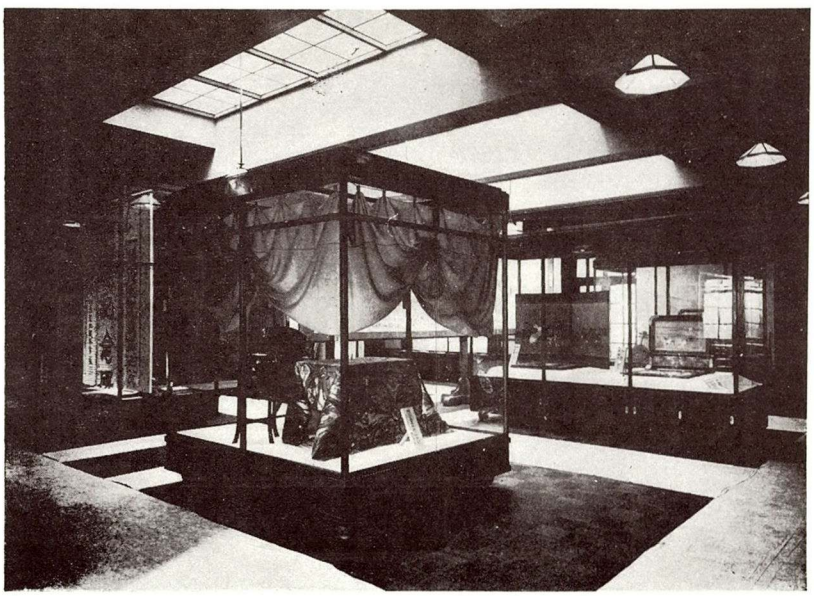


南 側 面

明治天皇記念館・泉布觀　・　設計監督・大阪市
施　　工・池田榮三郎

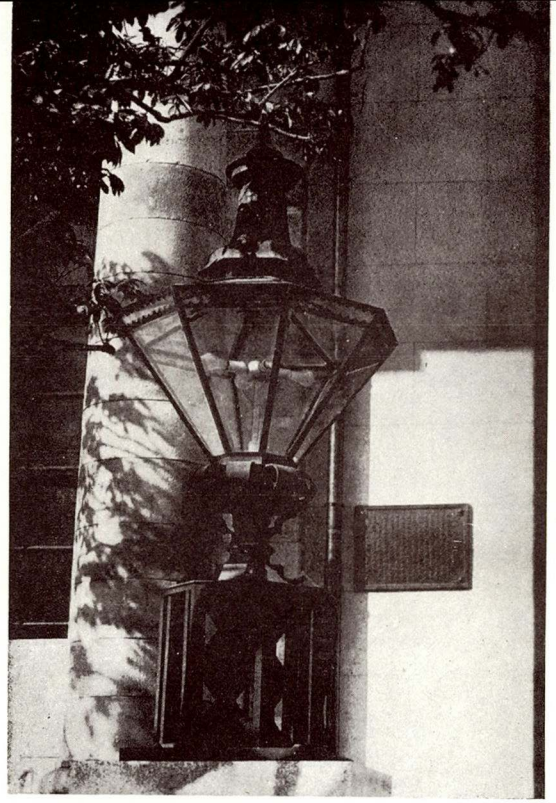
正面柱列





2階陳列室

明治天皇記念館・泉布觀　・　設計監督：大阪市
施工：池田榮三郎



正面玄關スタンド



裏非常口スタンド



2階露臺ブラツケツト



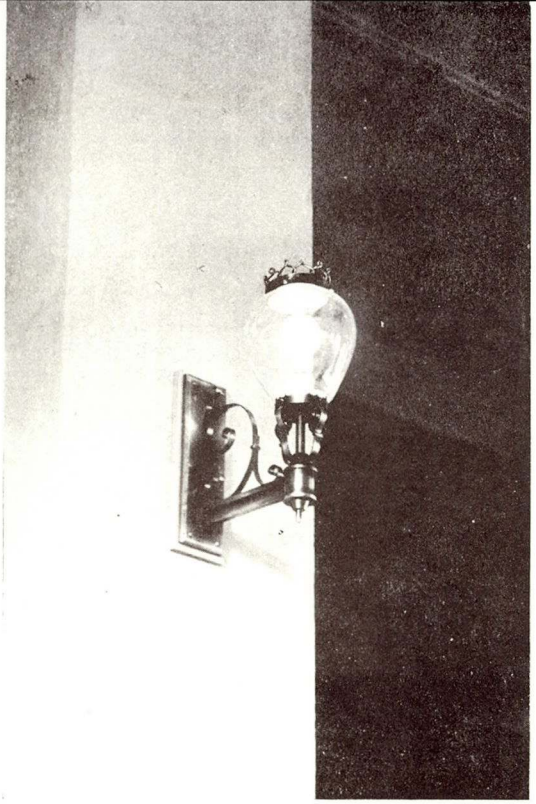
1階講堂背面ブラツケツト

明治記念館照明器具 照明器具は明治3年造幣局創設の際、應接所として建設せられた泉布觀内の、當時の瓦斯照明器具の俤を採つて電燈照明の器具に應用したもので、何れも眞鍮製、仕上げは應接室の金古味仕上のほか凡て銀古味仕上である。

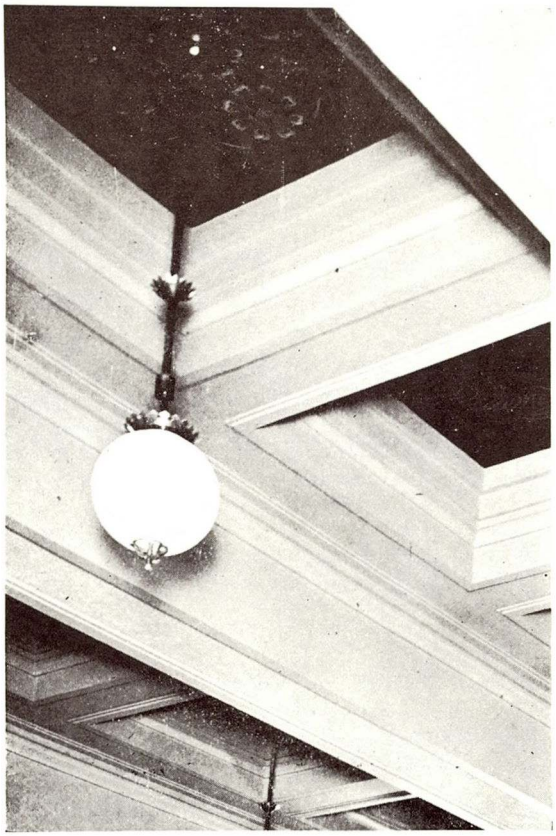
明治天皇記念館・泉布觀 ・ 設計監督・大阪市 施工・池田榮三郎



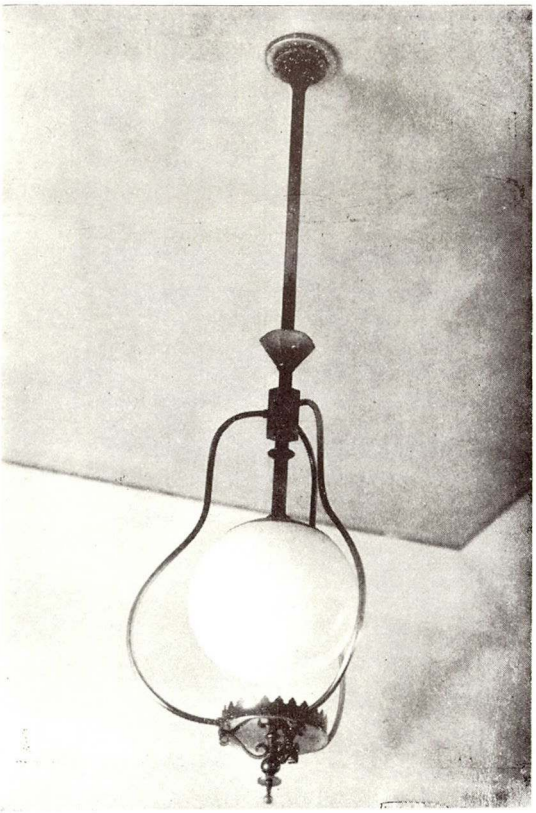
2階休憩室電燈



1階演壇ブラツケツト

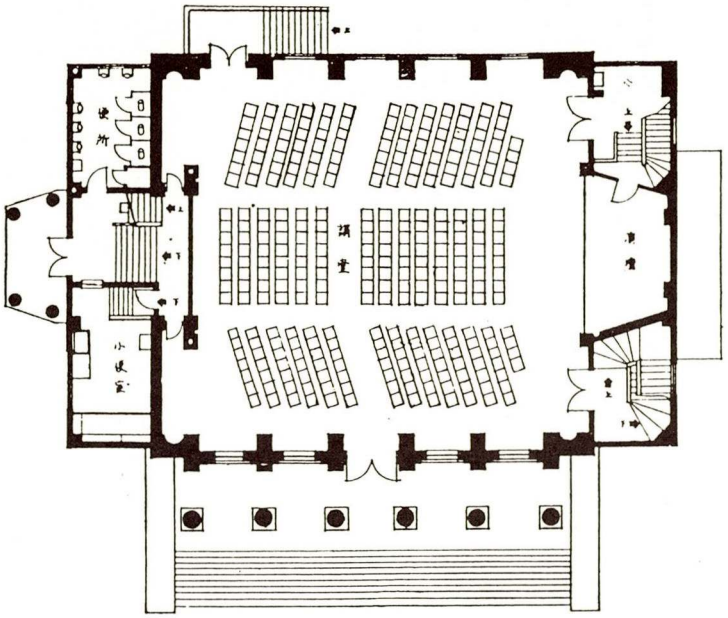


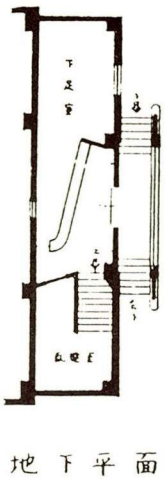
1階講堂天井

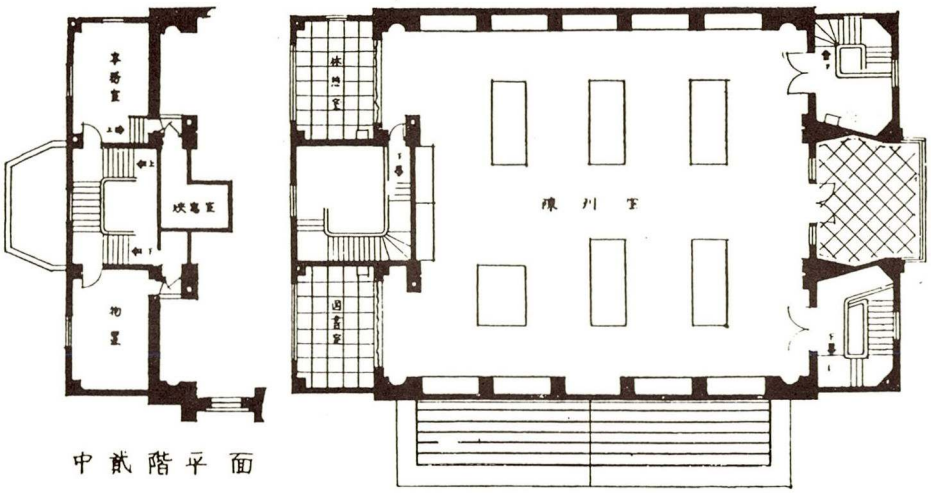


階段室電燈

明治天皇記念館・泉布觀 ・ 設計監督・大阪市
施　工・池田榮三郎







明治天皇記念館新築工事並設備概要

位置　大阪市北區新川崎町泉布觀苑内

建築面積　延坪 1010.5 平方米（但し玄關、廻廊石階を含む）

内譯

地階	64.80 平方米
1階	455.77 平方米
中2階	86.01 平方米
2階	403.92 平方米

建物高さ

軒高地盤線より

中央部分	13.15 米
兩側部分	11.75 米

各室の配置

地階	下足室、物置、電氣室
1階	講堂、控室、小使室、便所
中2階	事務室、物置、映寫室
2階	陳列室、應接室、圖書室、ヴェランダ

正面玄關の概要

正面玄關の石造柱列、ペディメント腰廻り、入口窓廻りは元造幣寮鑄造所の玄關にして、造幣局改築に當り讓り受けしものなり、之は明治3年の建築に關り、我が國最初の洋風建築として珍重すべきものなると共に、數度行幸に當り叡覽を給はりたる由緒深き記念物なり

構造大要

樣式　古典式

構造　鐵骨鐵筋混凝土造2階建一部中2階及地階付

基礎　布基礎鐵筋コンクリート地形とす

外裝　正面玄關石造（元造幣寮鑄造所のもの）
外壁　人造石小叩き仕上
腰　石張（元造幣寮鑄造所のもの）

屋根　陸屋根　アスファルト防水層を施し　玄關屋根　銅板瓦棒葺き、モルタル目地切一部天窓屋根

窓及出入口　玄關扉は元造幣寮鑄造所のものにして石材と共に讓り受けしものなり
其の他入口及窓は總て鐵網入硝子を嵌め込む

講堂室内仕上

講堂　天井はプラスターペンキぬり仕上にして、スタンプ模樣入り壁防音材塗り、腰、麻布張りペンキ床フロアリングブロック敷き

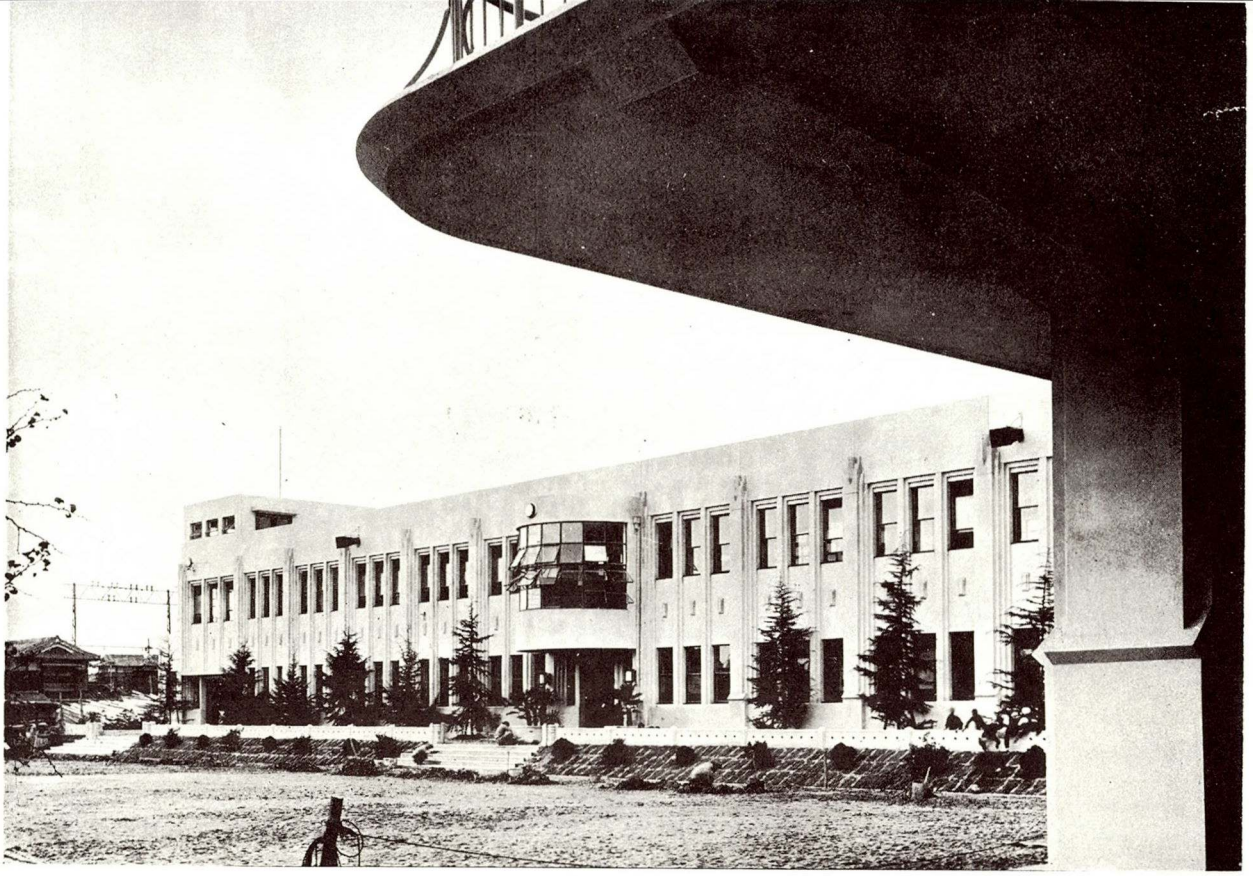
2階陳列室　天井テックス張り、ペンキ仕上其の他講堂に同じ

應接室並圖書室　陳列室同樣にして、床はリノリユムタイル敷きとなす

其他事務室及物入　天井白セメント吹付壁プラスター仕上にして便所腰タイル張とす

設計並に監督　大阪市
施工　池田榮三郎

明治天皇記念館・泉布觀　・　**設計監督：大阪市　施工：池田榮三郎**



外　　觀

帝塚山學院・設計・岡部建築事務所・施工・藤木工務店



前　　面



運動塲より見たる背面

帝　塚　山　學　院　・　設計・岡部建築事務所・施工・藤木工務店

帝塚山學院
新築工事概要

位置　大阪市住吉區帝塚山中3丁目
着工　昭和10年4月1日
竣工　昭和10年11月9日
鐵筋混凝土造2階建一部3階地階塔屋附
樣式　近世式
各階面積
地　階　47.2平方米（14坪278）
第1階　1670.07平方米（505坪196）
第2階　1563.732平方米（473坪029）
第3階　140.51平方米（42坪504）
塔　屋　96.25平方米（29坪116）
延面積　3517.762平方米（1064坪123）

高さ
講堂（地盤面より軒上端まで）　13.06米
校舍（地盤面より軒上端まで）　9.27米
塔屋（地盤面より軒上端まで）　15.25米

室名稱
地階　ボイラー室
第1階　表玄關、女學部通用門、小學部通用門、ホール、廊下、階段、受付及事務室、應接室、職員室、校長室、會議室、衞生室宿直室兼抹茶室、靴傘置場、待合所、小使室、湯沸場、職員便所、生徒便所、洗面所工藝室、教室、物置
第2階　講堂、舞臺、貴賓室、御眞影奉安室、音樂室同窓會室、標本室、ホール廊下、教室、バルコニー、便所
第3階　映寫室、電動機室、電氣室、物置
塔屋　校旗室、階段室

仕樣の概要
外壁は既設女學部校舍に倣ひ花崗石人造洗出とし表玄關、通用門には裝飾に金玉石を一部使用す、室内床、表玄關及通用門は金玉石敷及人造研出とし便所はタイル敷、其他は寄木敷、フローリングブロック及榊板張とす
腰は「パネル」羽目板張、ベニヤ市松張横張、竪張としワニス仕上便所はタイル貼とす
壁天井、講堂、音樂堂はキルク入モルタル塗の上ペイント仕上とし其他は白漆喰仕上とし主要なる室は壁紙張及ペイント仕上とす
屋根は陸屋根とし防水層を施し「ゲオンライト」を以て押へとす露臺床、庇屋根、地階防水は硅精及「シーカ」防水とす

設計　岡部顯則氏　　施工　藤木工務店



貴賓室



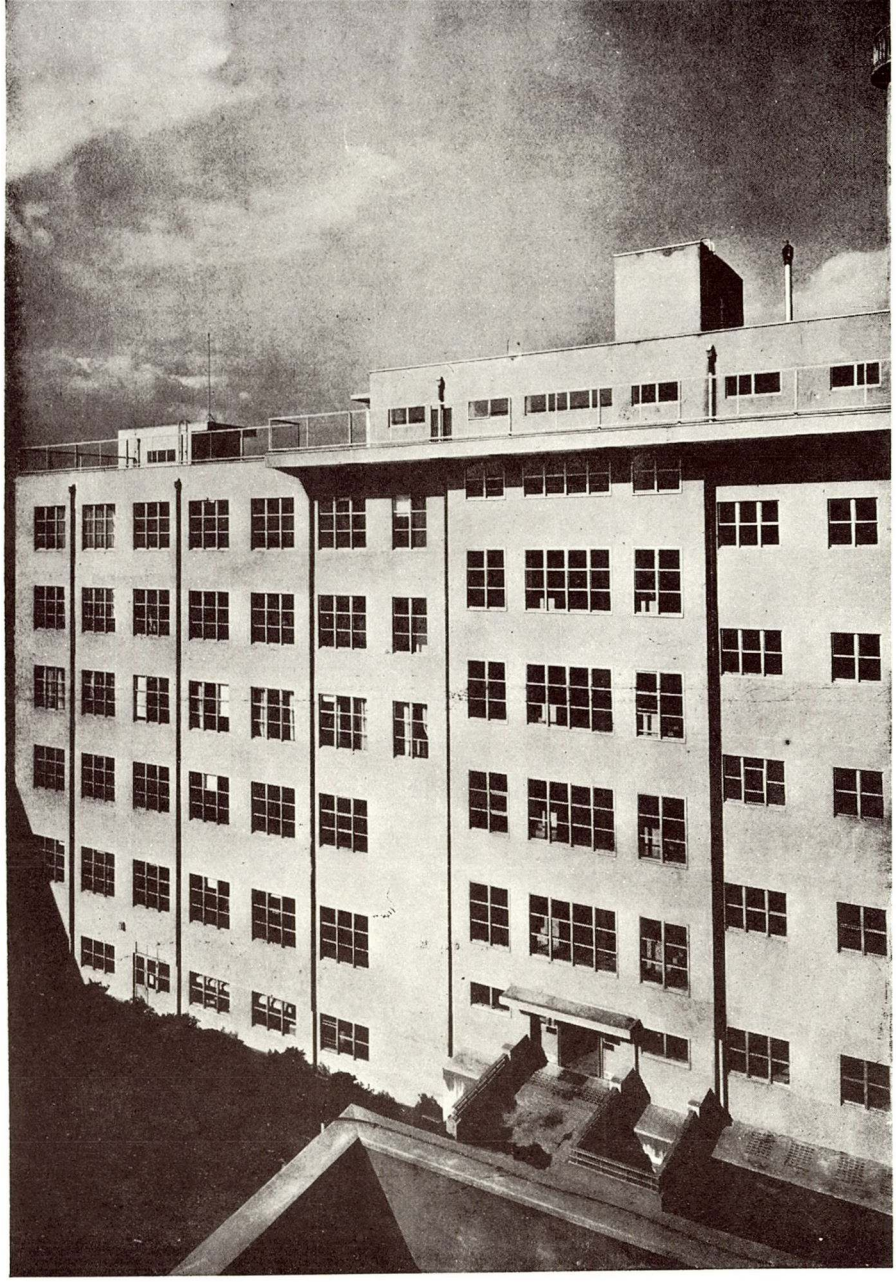
講堂内部

帝塚山學院・設計・岡部建築事務所・施工・藤木工務店



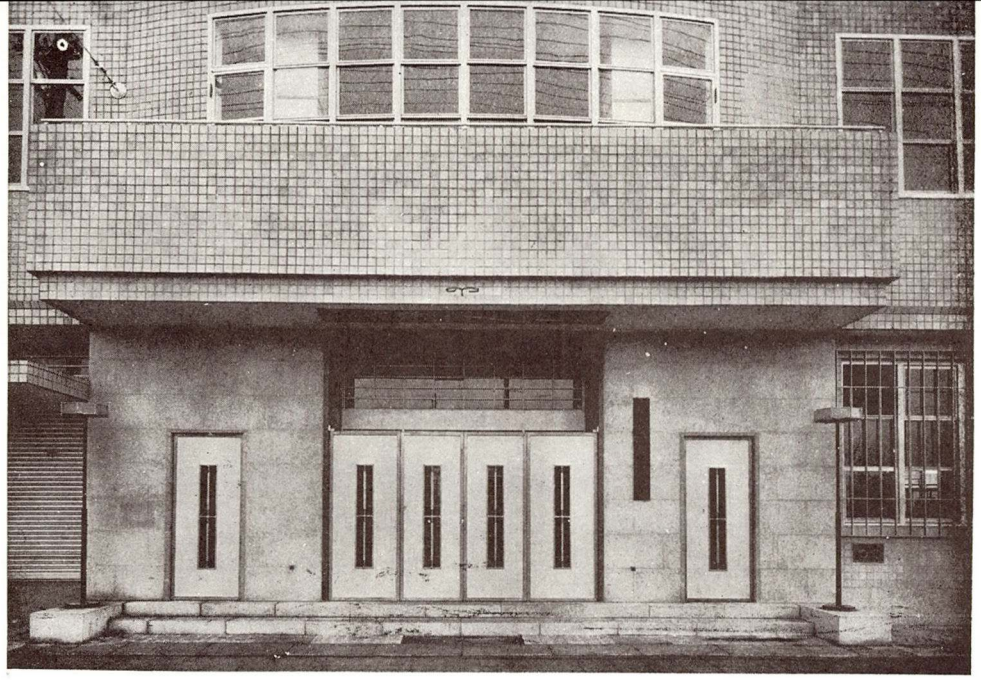
道 路 側 外 觀

大 阪 市 水 道 部 新 築 廳 舍 ・ 設計・大阪市 • 施工・小阪井組



背面外觀

大阪市水道部新築廳舍 • 設計·大阪市 • 施工·小阪井組



正面玄關

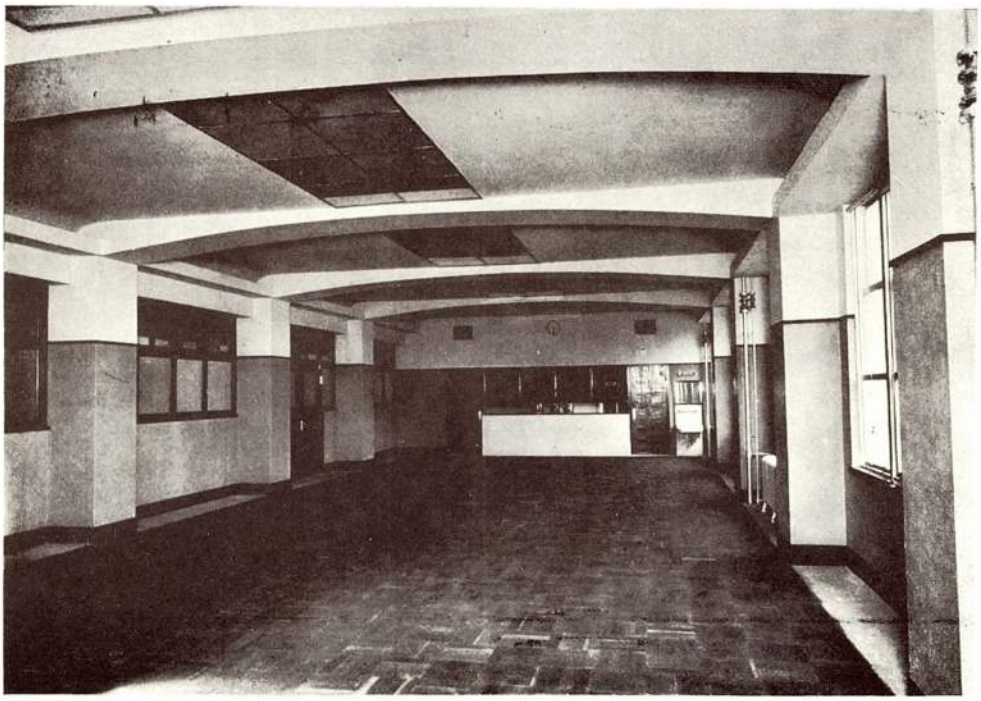
側面入口



大阪市水道部新築廳舍・設計・大阪市・施工・小阪井組

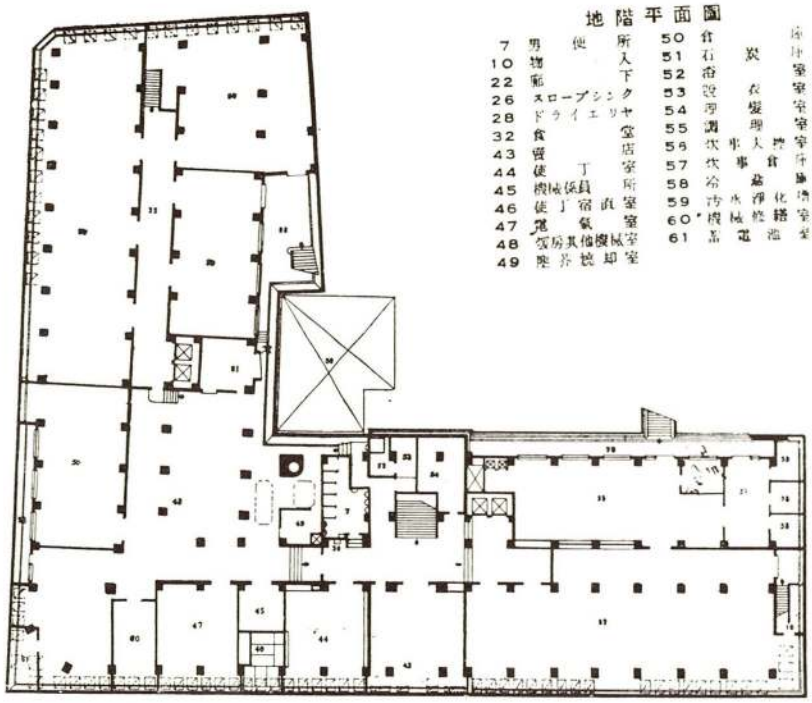


部長室



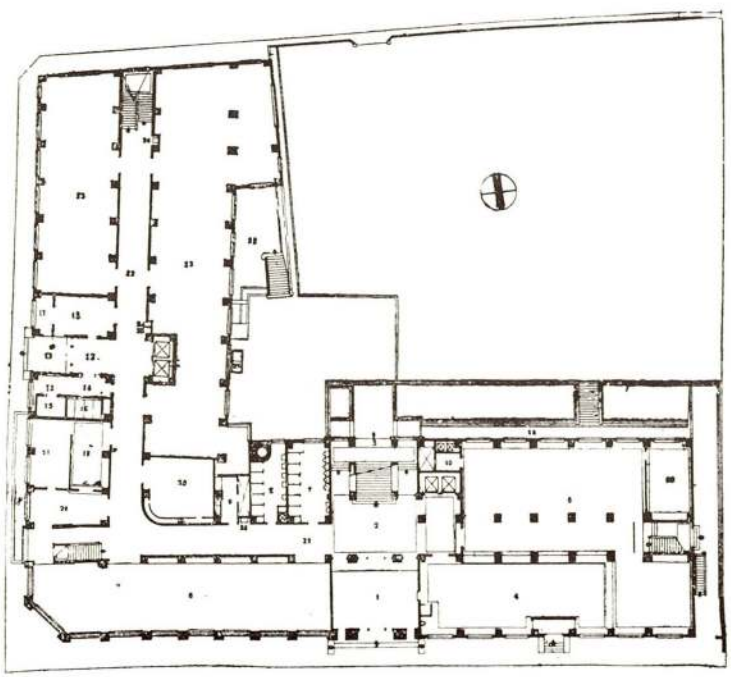
食堂

大阪市水道部新築廳舍 • 設計・大阪市 • 施工・小阪井組



地階平面圖

1. 所入
2. 下クヤ
3. 堂
4. 店
5. 室
6. 室
7. 男物部
10. スロープシンク
22. ドライエリヤ
26. 食堂
28. 使丁
32. 機関員宿直室
43. 使丁係
44. 電気溶接機
45. 他
46. 焼却炉
47. 房
48. 氷冷機
49. 室
50. 倉庫
51. 石炭投入口
52. 給湯設備
53. 浄化槽
54. 調整池
55. 炭庫
56. 揚炭機
57. 電動機室
58. 電気室
59. 電話交換室
60. 守衛詰所
61. 守衛宿直室



1階平面圖

1. 正面玄關
2. 正面玄關ホール
3. 裏出入口
4. 一般控室
5. 業務室
6. 陳列室
7. 男便所
8. 女便所
9. 湯沸場
10. 物入
11. 東玄關
12. 東玄關ホール
13. 受付室
14. 守衛詰所
15. 吏員宿直室
16. 守衛宿直室
17. 一般下足置場
18. 吏員下足置場
19. 待合室
20. 薬局
21. 診療室
22. 廊下
23. 事務室
24. メールシュート
25. 手洗
26. スロープシンク
27. 石炭投入口
28. ドライエリヤ
29. 書庫

大阪市水道部新築廳舍平面圖・設計・大阪市・施工・小阪井組

大阪市水道部廳舍建築概要

位置　大阪市北區南扇町16番地

敷地面積　4,185平方米 3884

建築面積

地階	2,292.122
1 階	1,974.027
2 階	1,985.727
3 階	1,985.727
4 階	1,903.979
5 階	1,847.783
6 階	430.308
7 階	28.603
計	12,448.276

建物高　地盤より屋根パラペツト上端迄22米85、塔屋上迄27米95

工事期間

起工　昭和9年6月1日(地鎭祭)

竣工　昭和10年11月15日

建築様式　近世式（ビルデイグ式事務所建築）

構造　基礎は地盤面より4米8乃至6米の總掘の1枚基礎にして柱、梁、床、壁等を鐵筋コンクリート造とし建物を一體の耐震架構とす

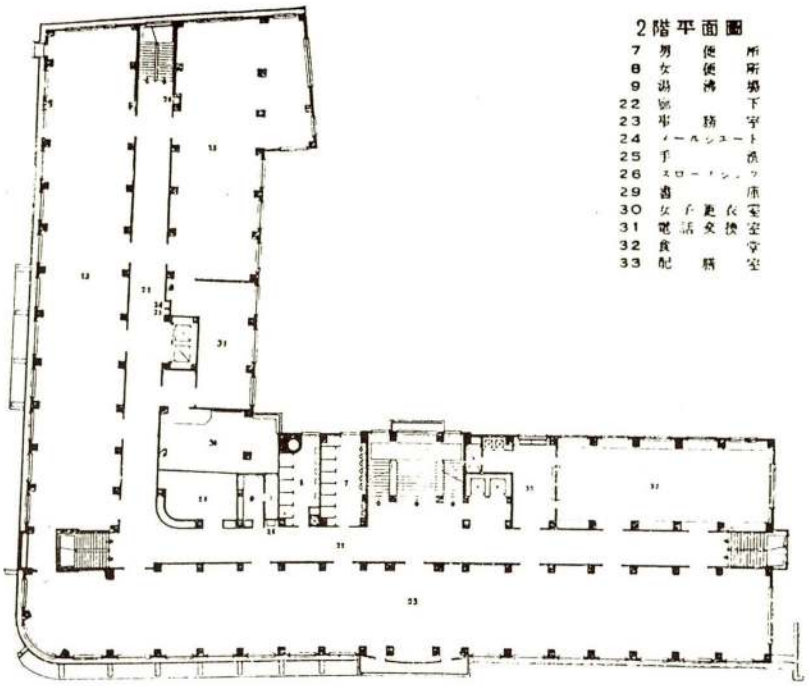
外部仕上　北、東及南道路側、大走は地下室明取デツキグラスを嵌込み人造石研出塗及一部モルタル塗とす、建物外壁は北正面玄關廻は白花崗石張、同入口袖は黑花崗石研出張とし其他は10糎角最硬質磁器タイル張、南庭に面する部分は色モルタル掻取仕上とす

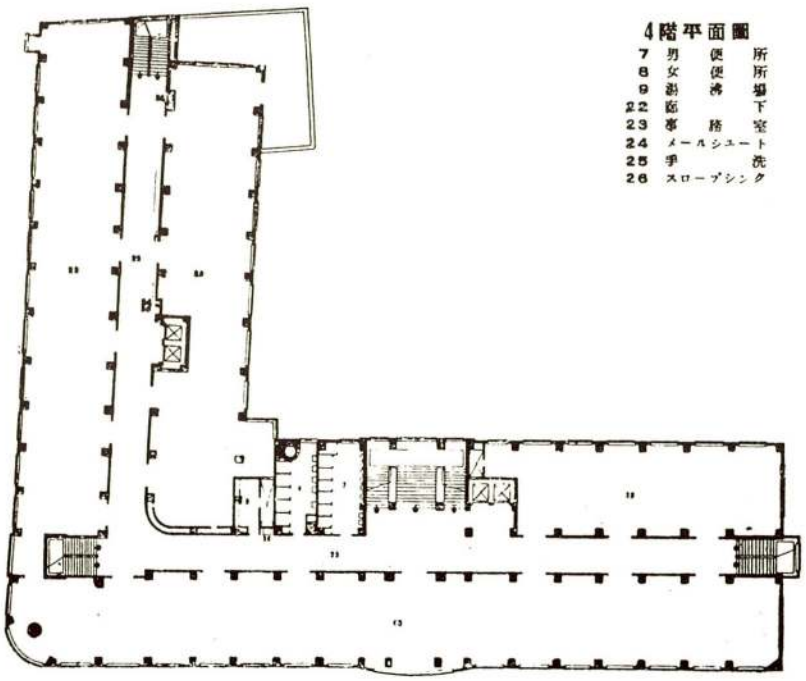
内部床仕上　北玄關ホールは花崗石盤敷とし東玄關、地階第1食堂、各階エレベーター前及各階便所床はモザイツクタイル張とす、調理室、電氣室、2階配膳室、床はクリンカータイル張とす、1階業務室床は板張の上にリノリユーム張とす、但し此室及2階電話交換室竝女子更衣室床は反響を防ぐ爲、床板下に鋸屑を填充す1階陳列室及3階部長室、會議室、第1第2應接室床はフロアリングブロツク張とす、各階事務室床はリグノイド塗とす、各階廊下は人造石塗研出とす、屋上露臺はクリンカータイル張とす

内部壁仕上　北及東玄關ホール、地階第1食堂、各階エレベーター前、1階中央大階段室壁、各室手洗場前はモザイツクタイル張とす。各階巾木はテラゾー張とし廊下腰はカンレーシヤベンキ塗とす。一般事務室、便所、物置等は白色プラスター仕上とす。部長室、會議室は腰はチークベニヤ板張とし、上部及第1第2應接室壁はベンキスチツプル塗とす。地階竝屋階機械室等はモルタル塗とす

天井仕上　地階機械室、倉庫廻はモルタル塗とし、食堂はプラスター塗、調理室、賣店等は白セメント塗とす各階事務室、廊下、便所、物置等はプラスター塗とす。部長室、會議室、第1第2應接室天井はスチツプルベンキ塗とす

各階窓及出入口　外壁の窓及各玄關、陳列室、地階機械室、倉庫廻、賣店等の扉及枠共鋼鐵製にして陳列室の鋪道に面する部分には特に大なる硝子を嵌込み飾窓とし、各階廊下、便所、物置等は木製とす





大阪市水道部新築廳舍平面圖・設計・大阪市・施工・小阪井組

建築物法其他に關する討議研究

法制委員會

當委員會に於ける昭和 10 年度調査研究事項を報告するに當り、本年度第一次會合の際基本調査研究事項を下記の通り決定し、例會を毎月第一、第三水曜日に開催し鋭意之れが研究應答、答申、調査に努力せり。即ち

1. 市街地建築物法の用途地域制に關する事項
2. 建築代願人取締規則促進に關する事項
3. 建築物法並に建築物に關する法令の質疑應答に關する事項
4. 建築に關する判決例調査に關する事項
5. 建築物法改正に伴ふ法令集改訂に關する事項
6. 外國法規調査研究に關する事項
7. 各道府縣建築法規照會に關する事項
8. 其他緊急、答申、及調査研究に關する事項

等々なりき。

1. 市街地建築物法の用途地域制に關する事項

本事項は 9 年度に於て相當論議されたるものなるも結論に達せず。其の事由は曩に全國都市問題會議に於ける都市計畫委員會と合同研究の結果關係する事多々あり。現行法規のみにて研究は狹義の嫌あり、相當の機關を設置し愼重に取扱ひを要當と思料せしが故なり

2. 建築代願人取締規則促進に關する事項

本案も 9 年度より持越しの案件なり。警視廳、京都府の現行法令を照會し基本調査に着手せしも、成案後之れを如何なる形式に依り關係當局に建議するかにつき相當の論難あり更に各自の案を以て成案すべく審議中に屬す。

3. 建築物法並に建築物法令の質疑應答に關する事項

本項は 9 年度より切實なる質疑を受け本委員會に於て回答至難と思料せしものは、各關係當局と打合せ會誌に其の都度之れを發表し相當の効果を擧げしものと認む。

4. 建築に關する判決例調査に關する事項

本委員中より特に指名鋭意之れが成案を得公發すべく目下調査中に屬す。

5. 建築物改正に伴ふ法令案改訂に關する事項

本項は會長より特に諮問あり、特別委員を設け正鵠を標準に時には深夜に及びたる事もあり。現在第 5 版として發表さるゝの結果を得相當の効果を擧げつゝありと信ず。

6. 外國法規調査研究に關する事項

本案は1の事項とも關係し先づ解釋し、長所を抜萃し法規全部に亘り比較調査を敢行せん意圖にて、各部署を定め目下鋭意調査研究中に屬す。

7. 各道府縣建築に關する法規照會に關する事項

第一次計畫として內地各道府縣の建築に關係ある法規を合本となし、單行本として頒つべく努力せしも、本事項は風水害其他の天災及地方の狀態變化せしため一部に法令の改正期に達せる府縣あり。本年度にて完結は不能となりしも、是非共成案を得て完結すべき事項と信ず。

8. 其他緊急答申及調査研究に關する事項

本事項は機關雜誌に其の都度記載しありたるを以て具體的發表を省略するも、每會の委員會に於て各委員は熱と誠意ある極めて眞摯なる調査研究を遂げ、定刻を過ぐる事枚擧に遑なき有樣にして、極めて意義ある 10 年度を經過したるは當委員會として誇りとする處なり。

只未了事項比較的多き嫌あるも本委員會の建前と事やゝもすれば國法に之れが改訂、意見を加ふるが如き事項あるため、十全を期し度き當委員會の存念を諒察せられん事を切望して本年度に於ける報告の筆を擱く。

會　　告

去る11月20日附往復はがきにて御願ひ申上ました「建築と社會」誌上にて昭和第十一春連名年賀交禮の件其後續々御申込を頂戴致して居ますが御申込御失念の方も有らんかと存じ茲に念の爲重ねて御願申上ます

大　さ	本誌1頁の15分ノ1	
料　金	A　金2圓也	（活字組にて貴名及所書を御掲載するもの）
	B　金2圓50錢也	（自署掲載　凸版として御掲載するもの但し貴名は必ず墨書の事）
締　切	12月15日	（15日迄延期致します）

實業教育振興委員會に關する件

教化委員會

本年8月1日を以て實業教育振興委員會諮問第1號特別委員長馬塲鍈一氏より片岡會長宛に實業教育振興に關する所見を求められ、更に會長より我教化委員會に上記所見開陳方を依囑されたり。右に關し本委員會は委員の總意或は各委員個人の意見を取纏め會長に報告し會長より馬塲委員長宛回答したり、これ等書類は會員各位にも御參考ともなり又將來かゝる問題に對する御意見發表の資ともならばと考へ茲に文部省より實業教育振興委員會への諮問事項及び實業教育振興委員會に對し考慮を求むる事項の全文並に當委員會より會長を經て開陳したる所見を下に轉載せん。

實業教育振興委員會に文部省より諮問事項（文部省）

諮問第1號

我國產業の趨勢に鑑み實業教育振興の方策如何

右に關し。

1. 產業の現勢及將來に鑑み現下の學校教育に依る實業教育の改善並に其の運用の方策如何。

但し學校教育に依る實業教育の範圍は大體左の如し。

甲低度實業教育

大體乙種實業學校（尋常小學校卒業程度を以て入學資格とし修業年限3年又は2年）以下の實業教育機關にして青年學校及低度各種學校等を包括す。

イ、農業、蠶業、林業、水產業等に關する教育

ロ、工業（工藝を含む）鑛業等に關する教育

ハ、商業商船等に關する教育

乙、中等實業教育

大體甲種實業學校（尋常小學校卒業程度を以て入學資格とし修業年限5年若くは高等小學校卒業程度を以て入學資格とし修業年限3年）及之に匹敵する各種學校

イ、農業、蠶業、林業、水產業等の教育

ロ、工業（工藝を含む）鑛業等の教育

ハ、商業、商船等の教育

丙、實業專門教育

大體實業專門學校（甲種實業學校、中學校卒業乃至高等女學校4年修業程度を以て入學資格とし修業年限3年）又はこれに匹敵する各種學校。

イ、農業、蠶業、林業、水產業等の教育

ロ、工業（工藝を含む）鑛業等の教育

ハ、商業、商船等の教育

丁、大學教育

2、産業の現勢及將來に鑑み現下の學校教育に依らざる實業教育振興の方策如何

但し現下の學校教育に依らざる實業教育施設は大體左の如し。

甲、農山漁村に於ける特殊教育機關。

1、村塾教育等

2、公共團體（地方自治體、帝國農會、產業組合、水產會その他）等の施設する教育

乙、都市又は商工鑛業地帶に於ける特殊教育機關

1、官廳及公共團體の施設する教育

2、企業者の施設する會社工場に於ける實務者教育

3、同業組合勞働團體等の施設する教育

3、實業教育を振興せんが爲に産業界及産業團體と教育機關の緊密なる協力を必要とすと信ぜらるるが其の連繫の方法如何。

諮問第一號に關し委員會の考慮を求むる事項（文部省）

我國の教育は義務教育六年の尋常小學校に始まり、その卒業者の大多數は高等小學校2年の課程を修めて實務に從事し、比較的少數の者は中等學校に入學する。中等學校は中學校（修業年限5年）、高等女學校（5年又は4年）、實科高等女學校（尋常4年、高1修3年高卒2年）實業學校）工業學校、農業學校、水產學校、商業學校、商船學校、職業學校—（甲は高卒3年、尋卒5年 乙は尋卒2年又は3年）—）等で高等小學校卒業を以て入學資格とする甲種實業學校中の或るものを除く外尋常小學校卒業を以て入學資格とする。師範學校は高等小學校卒業者を收容したる場合はこれを第1部（5年）と稱し、中・女學校卒業者を收容したる場合はこれを第2部（2年）と云ふ。中・女學校・實業學校卒業者を收容し高等專門教育を施す機關は專門學校（主として3年）及實業專門學校（主として3年）である。高等普通教育又は大學教育を受けんとするものゝ爲めに高等學校（3年）がある。多く中等校4年修了を以て入學資格とするが別に高等學校と中學校の教育を併合したる形の高等學校（7年）がある。これは尋常小學卒業を以て入學資格とする。大學（主として3年）は高等學校卒業を以て入學資格とし綜合大學と單科大學との別がある。尙ほ中等學校普通科教員たらんとする者

を養成せんが爲めに高等師範學校（4 年）がある。中・女學校卒業者又は師範學校卒業者を收容し又高等學校・專門學校の教員を養成せんが爲めに文理科大學（3 年）が施設せられ、高等學校卒業又は高等師範學校卒業を以て入學資格とする。實業學校教員養成機關としては名古屋及橫濱工業專門學校附設工業學校教員養成所、東京商科大學附屬商業教員養成所、東京帝國大學農學部附屬農業教員養成所（總べて 3 年）があり、中等學校卒業を以て入學資格とする。

叙上學校教育の外に社會教育施設として青年學校がある。本科（5 年）は高等小學校卒業者を收容する。普通科（2 年）と稱するものは尋常小學校卒業者を收容しその卒業者は本科に入學することが出來る。青年學校教員養成所（2 年）があつて中等學校・師範學校卒業を入學資格とする。

我國の實業教育は明治 32 年實業學校令公布以來劃期的發展を遂げ規模の擴大、內容の充實當に隔世の感を催さしむるものがある。その間幾多有爲なる技術者を養成し、歐洲戰爭を契機とし現下に及ぶ我國產業の飛躍的發展に貢獻するところ寡からざるものあつたことは多言を要せざるところである。然るに實業教育は在來の傳統に禍せられ、社會の正當なる認識を得す爲めに國民教育を完成し產業の發展を圖る上に尠からざる不都合を生じつゝあることは爭ふべからざる事實である。

是に於て

1. 社會をして國民教育上實業教育の効果を正當に認識せしむることを圖らなければならぬ。國民は程度の差こそあれ文化人として、社會人として而して經濟人としての素養を完成することを必要とする。特に經濟を重心とする現代の生活に於て國民に經濟人としての素養を有たしむることは最緊要なことでなければならぬ。如之實業教育は勤勞を主とし體驗に重きを置くことに於て教育的に大なる陶冶價値を有するのであるから、國民教育の重心を實業教育に置くことの必要なる所以を社會に認識せしめ、特に多數國民の教育に任ずる尋常小學校、高等小學校、青年學校の教育に反映せしむることを必要とし、又產業の實情よりするも

2. 程度低き實業教育を振興し農、工、商、商船、水產等の教育に於て產業の實務に從事する多數の者の教育を圖ること

を急務とし、既に實務に從事しつゝある者をして這種の教育に均霑せしむるには特に夜間實業學校の振興を圖らなければならぬ。現下の產業が最も多く需要するものは軍隊の下士卒に比すべき實務者であつて、國民の大多數は之に屬するものであるから、これを教育し以てその國民としての素質を向上し又我國產業能率を雋鋭ならしむることは最も必要なる處置と考へられる。これに就て特に留意すべきは

3. 農山漁村民教育に關する事項

である。地方農山漁村は教育的惠澤に浴すること最も少いことは事實である。農林、水產

等の學校に學ぶ者は地方有産少數者の子弟で、之等は他日農山漁村の中堅人物となつて農山漁村の指導に當る者であるから、益々その教育を助長することは必要であり、更に進んで農、山、漁村の役員となり議員となつて之等地方自治體をして健全なる發達を遂ぐる爲めの中樞人物たる教養を與ふることも亦留意せらるべきところでなければならぬであらうが、之等少數者を除き農山漁村に於ける大多數の住民は斯の如き教育に與らず爲めに今後の農山漁村に於て特に必要とする科學農法の弘布新しき農企業、山林の合理的經營、漁村の革新等に當る素質を缺きつゝあることは深憂に値するところで之等大多數の農山漁村民に産業人としての素養を培はしむる方法を講ずるは喫緊の急務であつて之等の人々に最も適切なる教育を最も廣汎に與ふると云ふ意味に於て亦低度實業教育の振興を必要とするものである。

然らば此の低度實業教育を振興してその實効を收むる爲めに如何なる方策に依るべきかは此の際大に考究しなければならぬ點であるが國民大多數に實質的に低度實業教育を施すことに就て學校教育以外第1に考慮しなければならぬことは。

4. 學校教育に依らざる産業人の實業人の實業教育を如何に組織立てるか及その實施の方法を如何にするか

等に關する問題である。大多數の産業人は小學校の教育以外學校教育に緣のないものでそれが國民の大多數を占めて居ると云ふ實情に照らし之等の人々の教育を圖ることは産業の爲めにも又社會福祉の爲めにも極めて必要なことであるが、教育施設上實業教育を重心としこれを功に運用して實績を擧ぐる工夫を凝らすことが必要であらうと思はれる。爲めに考へらるゝことは。

5. 産業上の諸團體をして實務者教育の組織を作らしめこれを振興すること。

が有益な方法であらうと思はれる。中小商工業はその人口數から云つても又我國産業上の立場から云つても極めて大切な存在たるに拘らずその大多數は實業教育の惠澤に浴して居ないことは事實でこれを健全なる發達を遂げしむるには先づその産業人としての素質の向上を圖る教育を考へなければならぬ。更に又年少にして境遇に導かれて産業に從事しつゝある各種の職業人の向上を促しその職業の發展を圖るには之亦その道の職業人としての教養を高めしめなければならぬ。

隨つて産業上の諸團體をして夫々獨自の教育施設を形づくらしめこれを助成指導してその振興を圖ることは策の得たるものであらうと信ずるが斯の如き方策を採るについてその方法を如何にするか考究しなければならぬ。

職業人を教育してその資質を向上せしむる爲めに考慮すべきことは

6. 産業從業者の資格公準を定むることの件

で之に依つて一面國家産業の機能に標準を與えて之を整備すると共に一面に於ては教育に基本的標準を與へると云ふことは肝要のことであるがこれは社會的に極めて重大なる問題

であるから愼重なる研究を要する。

次に現代産業界の現役となつて働いて居る實務者をしてその技術、心性を涵養せしむる方法並に學校の生徒をして産業の實際に習熟せしめる方法として具體的に提唱せらるべき問題は

7. 下級從業員養成にコオペラテイーヴ・システム——教育と産業と協力して生徒の實習訓練を完備する制度——を採用すること

で工場、商店等に於ける獨自の教育施設を認容するのみならず大にこれを奬勵する必要を認めると共に、國家的にその制度を組織化し、且これを教育的ならしむることが必要であらう。

要するに産業と教育が協力して優秀なる從業員を養成する方策を講ずることを必要とする。

斯る問題を更に根本的に云へば

8. 我國社會並に産業の實情に卽ち適當なる徒弟教育制度を定めてこれを實施することが必要であると信ずるがこれは社會的に産業的に極めて重大なる關係があり、且その能率を發揮するには周密なる計劃に基いて適切なる方法に依らなければならぬことで大方の意見を俟たなければならぬ。

以上は主として多數國民の實業教育に關する問題であるが、事實我國産業の第一線に立つ人物を養成する現下の實業教育そのものに就て檢討を加ふることは更に急務であらうと思ふ。卽ち

9. 我國産業の趨勢に照らし現在の學校教育は如何にその職能を果しつゝありやこれを運用して効果を發揮せしめる方法は何うか。

と云ふことである。實業教育を施す各種各段の學校教育（實業學校と限らず）は、現在の産業の要求する人々を養成するに妥なりや否や如何なる點に長所があり如何なる點に缺陷があるかを明瞭にしこれをして産業の實際に適應せしめる爲めにはその運用を如何にするかを考察しなければならぬ。

學校そのものに就てその得失を考慮することの必要は上述の通りであるが。

10. 現在並に將來の産業が必要とする從業者の種類、その動き、隨つてこれに妥當すべき教育程度、素養範圍並に養成すべき産業人の數量關係

を明かにすることが重要問題でこれに基いて教育計劃も立ち得ると思はれる。これは種々の條件に依つて異なるところあると信ぜらるゝを以て産業別、企業規模別に考慮すべき問題であらうと思はれる。

更に現下の國際情勢等より考へて

11. 我國産業の最も必要とする高級技術者の素養及その養成方法に就て仔細なる研究を重ぬることの必要を痛感するものである。

次に考慮すべきは實業教育を施す方法に關する問題であるが由來産業は經驗を偏重し教育は理路に泥むことは周知の事實で爲めに兩者の間に相當の間隔を生じつゝあることは悲しむべきことである。即ち是に此の兩者の長所を採りこれを統合して

12. 實業教育徒弟方式教育を徹底せしむること

を圖り學校教育の實際化の要望を充す方法を講ずる必要がある。コオペラテイーブ・システムと云ひ再教育制度と云ひ實習實驗と云ひ既に幾多の方法が案出せられて居るが、何れも不徹底であり實行困難なる點もあり實効を擧ぐることに遺憾な點が多いやうに思はれる。此の點に就ては教育と産業との協力の下に最も適當なる教育方法が案出せらるゝことを期待するものである。

以上の如く實業教育をして實績を擧げしむるには何としても

13. 産業と教育の依存關係を認識しその提携協力を緊密ならしむること

を根本條件とする。これは實業教育計劃の事毎に具體的問題として現はれるのであるが、之等具體的事實を處理するために先づ教育と産業官廳、産業上の諸團體及實業家との提携協力を圓滿緊密ならしむべき根本原則並にその組織等を考慮することを必要とする。

産業と教育の提携協力の第一歩として差當り

14. 實業學校長、實業學校教員の養成

に最大の努力を拂ふ必要がある。今後實業界に入るべき人物の素養の如何なるものたるべきかに依り、その教育に任ずる校長、教員は如何なる人物たるを必要とするか而てその教養の範圍、程度如何を明かにしこれを養成する爲めに産業官廳、産業上の諸團體並に産業界は努力を傾けて教育方面と提携協力の實を擧げらるゝことを必要とする。

實業教育振興に關する所見（教化委員會）

産業の現勢及將來に鑑み

1、社會をして國民教育上實業教育の効果を正當に認識せしむることを圖ること

具體的方法としては

イ、小學校教科目に實業教科目を特に多く取入れ訓育に於ても實業科目の主體をなす筋骨勞働の神聖なることを强調すること

ロ、中等教育に於て殊に多くの實業科目を教科目に取入れ授業時數も亦全時數の3分の1位は之れに充て將來中産階級となるべき中等學生に實業的常識を具備して社會に送ることを緊要と思惟す。

2. 程度低き實業教育を振興し農、工、商、商船、水産等の教育に於て産業の實務に從事する多數の者の教育を圖ること。

イ、大學、專門學校の教育式に學科目を大別せず學科技術共に其の分類を細別することにより實業的實務者を短期に養成する制度を設けること

ロ、青年學校を實業學校化して之を義務教育とすること

4. 學校教育に依らざる産業人の實業教育如何に組織立てるかその實施方法を如何にするか。

○將來は學校教育に依らざる産業人を絶無にすることを理想とするも（青年學校の義務化による）現狀を解決するには下級技術者の資格試驗制度を樹立し實業學校に附設する短期特別期間（例へば農繁期後）の學校教授と現場教育（職長、棟梁等）と相俟つて義務制として强調すること。

5. 産業上の諸團體をして實務者教育の組織を作らしめこれを振興すること。

○産業上の官、公、私諸團體に夜學實業學校、職業學校（勿論青年學校を含む）を設置し之を强制する法律を制定すること。

6. 産業從事者の資格公準を定むること。

○學校教育制度判然と確立せば國家試驗による資格公準を定め各學校並に産業諸團體より責任資格證明を出し得る制度を認めらるゝことは下級技術者の技術向上の上に多大の利益あるを考へ之が實現を望む。

7. 下級從業員養成に「コオペラテイブシステム」採用すること。

○一應結構なるが如く考へらるゝも教育管理上不都合多く寧ろ政府に於て各學校に設備完全なる工場其他の設備を完備することを奬勵し之に補助を與へて右目的の實現を期する方可ならん。

又逆に各産業團體が實業學校を設置することを强制すること（5 項と同一の意見に一致）

9. 10. 我國産業の趨勢に照らし現在の學校教育は如何に其の職能を果しつゝありやこれを運用して効果を發揮せしめる方法は何うか。

現在並に將來の産業が必要とする從業者のその働き隨つて之に妥當すべき教育程度、素養の範圍並に養成すべき産業人の數量關係。

○各種各段の實業教育機關各々の教育目的と社會が之等教育機關に要求しつゝある態度とは一致せず、懸隔ありて幾分雜然不統制の感あるが故に實業教育としては職能を果し兼ぬるが如く考へらるゝ點多し又産業界側に於ては實業教育に對する認識不足の感あるやに思はる。之れの救濟方法としては學校側の教育階程の確立及産業社會の實狀調査を急務とする。

13. 産業と教育の依存關係を認識しその提携協力を緊密ならしむること。

○學校に産業人を實業顧問（商議員）として依囑し社會との連絡をとり易からしめ逆に産業團體に教育顧問を設けしめて學校側が之れに當り技術者指導教育の一部を分擔すること。

建築に關する映畵目錄

教化委員會

建築知識普及の爲には之れに關する映畵を利用することは、最も捷徑であると考へられるのであるが、これ等建築に關する映畵の完全な目錄の未だこれあらざるに鑑み、これが調査をなし目錄を作成して利用者の便に資せん事を計畫したのである。9 月に着手して全國の大學、高等工業、工業學校の建築科、土木科、各新聞社、請負業者關係、事務所、材料商、映畵機械材料商等に依頼して調査したるも未だ完全と云ふを得ず、殊に試寫の上採錄すべきをその豫猶無かりしは殘念である。

回答の未着の分もあるが調査出來たる分の結果下の如く之に漸次追加して完全なものとしたい念願である。

第　1　類

1・大　大　阪

2　卷　　800呎　　16粍型

撮　影　　昭和9年7月

所有者　　日本ポルトランドセメント同業會

地方向に大大阪市内土木建築物を撮影せるもの。

2・飛行機より見たる大大阪

1　卷　　242米

所有者　　大阪毎日新聞社

飛行機より見たる大大阪市の實寫。

3・大　東　京

1　卷　　268米

所有者　　大阪毎日新聞社

大東京の實寫。

4・空より見たる復興しつゝある帝都

1　卷　　302米

所有者　　大阪毎日新聞社

復興帝都の俯瞰撮影。

5・復興帝都の鳥瞰

1　巻　　155米

所有者　　大阪毎日新聞社

數年の星霜を經て復興し行く帝都の有様を空より影撮せるもる。丸の内—昭和通、大正通—淺草公園—九段坂などが展開する。

6・飛行船より見たる東京

1　巻　　162米

所有者　　大阪毎日新聞社

飛行船からながめた東京市。

7・帝　　都

1　巻　　302米

所有者　　大阪毎日新聞社

關東震災後全く新裝した大東京を撮影した實寫。

東京驛—宮城—帝國議事堂—日比谷公園—芝公園と增上寺—JOAK 放送局—愛宕山—高輪泉岳寺—銀座等。

8・空から見た帝都

1　巻　　93米

撮　影　　昭和5年8月

所有者　　大阪朝日新聞社

9・日光大觀

1　巻　　303米

所有者　　大阪毎日新聞社

「日光を見すして結構をかたるなかれ」と云ふ古言がある。この映畵によつて僅か15分足らずのうちに日光見物をすませるのは、スピード時代の企てとして最もふさはしきものであるまいか。本映畵は、日光街道杉並木の移動撮影に始まり、日光町の情景、大谷川の清流、神橋東照宮の五重塔、神厩、陽明門、唐門、神樂殿、眠猫、二荒神社、大猷院廟、奥の院が展開する。更に、方等の瀧、華嚴の瀧、中禪寺湖及びその附近の風光、戰場ヶ原、湯瀧、幽寂場湯の湖等が紹介されてゐる。

10・京　城　　11・平　壤　　12・安　東　　13・奉　天

14・吉　林　　15・新　京　　16・ハルビン

（以上 10—16）

各1巻　　各 100尺

撮　影　　昭和10年8月

所有者　　兵庫縣立工業學校

17・支那北京

1　巻　　260米

所有者　　大阪毎日新聞社

北京の風景をカメラに收めたものにして一般向。

18・北京スケツチ

1　巻　　276米

撮　影　　大正14年1月

所有者　　大阪毎日新聞社

大正14年1月28日、日露條約調印當日の北京市街の雜觀を撮影したもので北京正陽門城壁附近を通るラクダの隊商—天壇園丘天安門（正城正門）—喇嘛廟孔子廟—天橋附近など。

19・支那青島

1　巻　　193米

所有者　　大阪毎日新聞社

日獨戰爭當時における各砲壘の殘骸及び風景を撮影したもの。

20・支那濟南

1　巻　　282米

所有者　　大阪毎日新聞社

膠濟鐵道を利用して濟南および其附近の勝景を撮したもの。

21・支那上海

1　巻　　260米

所有者　　大阪毎日新聞社

東洋の良港たる上海の様々を撮したもの。

22・新興の南京

1　巻　　222米

所有者　　大阪毎日新聞社

青天白日旗輝く新興の南京。新南京唯一の慰安場所である父子廟—國立第一公園の賑ひ—南京特別市政府—南京日本領事館—南京國民政府・國立中央大學—國民政府外交部—中央黨部—玄武湖公園の遊覽—我が警備艦など。

23・支那南京

1　巻　　212米

所有者　　大阪毎日新聞社

南京城内およびその附近の風景を寫したもの。一般向。

24・支那漢口

1　巻　　229米

所有者　　大阪毎日新聞社

漢口の風景風俗を撮影したもの。

25・雅典の古寺院　　**26・羅　馬**

27・アルフアンブラ宮殿　　**28・巴　里**

29・西班牙グラナダ市と其附近

（以上 25——29）

各1巻　　各 100尺

所有者　　神戸高等工業學校建築科

30・アヤラオの墳墓と其寺院

1　巻　　200尺

所有者　　神戸高等工業學校建築科

（以上 25——30）は何れも建築歴史に關する趣味多き寫眞。

31・グランドキヤニヲン　　**32・パナマ運河**

33・ニューヨーク市街

撮　影　　昭和9年8月

所有者　　兵庫縣立工業學校

世界を巡る歐洲篇

34・ロンドンの巻

1　巻　　290米

ビクトル・トラベルグラフ社製作になり博士クライン氏は世界稀に見る地理學者で紀行家である、氏が 1924 年より 1928 年にわたり世界各地の都會、風俗、人種、美術、建築等を撮影したもの。英國首府ロンドンの雜觀。

35・巴里の巻　1 巻　260米　　**36・カンネスの巻**　1 巻　274米

37・和蘭の巻　1 巻　261米　　**38・モナコの巻**　1 巻　267米

39・スペインの巻　1 巻　297米　　（以上 34——39）

所有者　　大阪毎日新聞社

40・エチオピヤ帝國

1　巻　　215米

所有者　　大阪毎日新聞社

エチオピヤ帝國の風俗、宮殿其他建築物の實寫。

第　2　類

1・仕入住宅

1　巻　　16粍型

所有者　　株式會社大林組

2・京都御大典饗宴場上棟式

1　巻　　445尺　　16粍型

所有者　　株式會社大林組

3・大阪株式取引所建築工事

1　巻　　800呎　　16粍型

所有者　　日本ポルトランドセメント同業會

大阪株式取引所建築の基礎工事より竣工まで。

4・工作所各工事實況

1　巻

所有者　　株式會社大林組

5・東京市街線工事實況

9　巻　　8141呎　　16粍型

所有者　　株式會社大林組

6・京都コンクリート試驗舗裝

3　巻　　1200呎　　16粍型

撮　影　　昭和8年3月

所有者　　日本ポルトランドセメント同業會

京都市東大路通百萬遍附近に施工せるコンクリート試驗鋪裝の概況を第1卷及第2卷に收め、各種試驗の狀況を第3卷とせるもの。

7・兵庫國道

1　巻　　400呎　　16粍型

撮　影　　昭和7年3月

所有者　　日本ポルトランドセメント同業會

兵庫國道鋪裝工事實況。

8・京阪國道

2　巻　　800呎　　16粍型

撮　影　　昭和7年7月

9・道路工事

3　巻

所有者　　株式會社大林組

10・荒川橋梁改修工事

3　巻　　2600尺　　34粍型

撮　影　　昭和2年

所有者　　名古屋高等工業學校土木科

鐵道省が關東震災後の東北本線荒川橋梁の復舊工事に用ひたる特殊の井筒沈下工法を逐次に示したるもの。

11・木曾川ケーソン工事

3　卷　　3000尺　　34粍型

撮　影　　昭和3年頃

所有者　　名古屋高等工業學校土木科

鐵道省が關西線の三大橋の改良工事に當り用ひた用氣潛函による橋臺及び橋脚基礎工の築造方法を逐次示したるもの。

12・第二益田川橋梁ケーブルエレクシヨン

3　卷　　3000尺　　34粍型

撮　影　　昭和3年頃

所有者　　名古屋高等工業學校土木科

鐵道省岐阜建設事務所が第二益田川に單結構橋を架設するに當り地形上足場を築造する事石利の運搬及組立をなせる狀況を示したるもの。

13・大井及笠置發電所

1　卷　　300尺　　16粍型

撮　影　　昭和10年5月

所有者　　名古屋高等工業學校土木科

木曾川に沿ふ大同電力株式會社の大井發電所並にその下流に建設工事中の同社笠置發電所工事の實況。

14・泰阜發電所工事實況、附天龍峽風景

1　卷　　350尺　　16粍型

撮　影　　昭和10年6月

所有者　　名古屋高等工業學校土木科

矢作水力株式會社が建設中の天龍川泰阜發電所の工事實況並に附近の天龍峽の名勝を撮影せるもの。

15・ボールダーダム建設工事實況

1　卷　　485尺　　16粍型

所有者　　名古屋高等工業學校土木科

アメリカ合衆國コロラド峽谷に建設中のボールダーダムの大工事の實況。

16・米國に於けるコンクリート道路

2　卷　　610尺　　16粍型

所有者　　名古屋高等工業學校土木科

世界の道路國とも稱せらる、アメリカ合衆國に於けるコンクリート道路の盛觀並にその工事實況を撮影せるもの。

17・米國コンクリート道路

2　卷　　800尺　　16粍型

所有者　　日本ポルトランドセメント同業會

米國に於けるコンクリート道路築造の經過を記錄せるもので、米國農務省道路局の撮影編輯によるもの。

18・浮函の出來上る迄

1　卷　　200尺　　16粍型

撮　影　　昭和9年3月

所有者　　神戸高等工業學校土木科

內務省神戸土木出張所管內工事の概況實寫。

19・鐵道百年の變遷

1　卷　　200尺　　16粍型

撮　影　　昭和7年7月

所有者　　神戸高等工業學校土木科

アメリカボストンにて撮影せるもの。

20・神戸省線高架線工事

1　卷　　300尺　　16粍型

撮　影　　昭和6年

所有者　　神戸高等工業學校土木科

工事中及完成後のもの。

21・吾妻橋改築工事實況　　6卷

22・木曾川橋梁試運轉　　1卷　　300呎

23・木曾川架橋ケーソン實況　　1卷　　1105呎

24・小貝川橋梁更換工事　　1卷　　806呎

25・高梁川橋梁架橋工事　　1卷　　1000呎

26・北滿に於ける鐵道の建設　　4卷

（以上 21——26）　　35粍型

所有者　　京都帝國大學工學部土木工學教室

27・御大典大饗宴場上棟式

1　卷　　242米

撮　影　　昭和3年6月

所有者　　大阪毎日新聞社

京都御所内で行はれた大饗宴場上棟式及び建禮門前で行はれた眞言宗醍醐派の大峰山入峰の大法會の有様。

28・福岡市試驗鋪裝　2 卷　800尺

29・京都鐵筋コンクリート試驗鋪裝　1 卷　400尺

30・奈良跨線橋　1 卷　400尺

31・ボールダーダム　1 卷　500尺

（以上 28——31）　各16粍型

所有者　　日本ポルトランドセメント同業會

第 3 類

1・セメント製造の實際

4 卷　1600尺　16粍型

撮 影　昭和8年9月

所有者　　大阪窯業セメント株式會社

ポルトランドセメント製造の實際を原石採掘、粘土採掘より始め各工程を經て出荷するまで解說し線劃を附して全4卷に納めたるもの。

2・セメント製造の實際（アブストラクト）

2 卷　800尺　16粍型

撮 影　昭和8年9月

所有者　　大阪窯業セメント株式會社

セメント製造工程を簡單に解說的に映寫せるもの。

3・テラカツタ製造實況

2 卷

所有者　　株式會社大林組

4・セメント製造の實際

2 卷　779尺　16粍型

所有者　　名古屋高等工業學校土木科

大阪窯業セメント株式會社の撮影せしものにしてセメント製造の工程を遂次說明せるもの。

5・セメント製造の實際

3 卷　16粍型

所有者　　京都帝國大學工學部土木學教室

6・建築學會コンクリート標準試驗方法

1　巻　　400米　　16粍型

所有者　　日本ポルトランドセメント同業會

建築學會撮影のものゝ復寫。

7・セメント及混凝土試驗實況

2　巻　　35粍型

所有者　　京都帝國大學工學部土木學教室　近藤教授

8・道路築造用諸機械使用法

1　巻

所有者　　株式會社大林組

9・硝子の製造

1　巻　　224米

所有者　　大阪朝日新聞社

第　4　類

1・長崎縣島原の大地震

1　巻　　210米

撮　影　　大正11年2月

所有者　　大阪毎日新聞社

大正11年2月1日島原地方に起りたる大震災當日の實況。

2・關東大震災

1　巻　　334米

撮　影　　大正12年9月

所有者　　大阪毎日新聞社

大正12年9月1日の東京を中心として起りたる大震災の惨狀の實況。

3・相豆地方の激震實況

1　巻　　310米

撮　影　　昭和5年11月

所有者　　大阪毎日新聞社

昭和5年11月26日午前4時3分5秒から約30分間に亘り丹那盆地を中心にして強震が伊豆半島を襲ひ各地に非常な損害を與へたが、本映畫はその直後の實況をおさめたものである。

4・關東强震被害實況第一・二報

1　巻　　159米

撮　影　　昭和6年9月

所有者　　大阪毎日新聞社

昭和6年9月21日午前11時20分關東一帶に强震あり、その被害の最も激甚なりし埼玉縣吹上町及び埼玉縣大里郡深谷町の慘害。

5・三陸地方大震災

1　卷　　156米

所有者　　大阪毎日新聞社

三陸地方大震災における釜石町方面の慘狀。

6・伊豆大震災

2　卷　　264米

撮　影　　昭和5年11月

所有者　　大阪朝日新聞社

7・奥丹後の地震

2　卷　　420米

撮　影　　昭和2年3月

所有者　　大阪朝日新聞社

8・三陸地方の大慘狀

2　卷　　204米

所有者　　大阪朝日新聞社

9・羅府震災

1　卷　　175米

所有者　　大阪朝日新聞社

10・熊本縣有明灣大高潮の慘狀

1　卷　　242米

撮　影　　昭和2年9月

所有者　　大阪毎日新聞社

有明灣地方を襲つた大高潮の慘狀。

11・鳥取市の水害

1　卷　　180米

撮　影　　大正12年9月

所有者　　大阪毎日新聞社

鳥取市及び附近を襲ひたる大水害の實況。

12・北滿大洪水

1　卷　　222米

撮　影　　昭和7年8月

所有者　　大阪毎日新聞社

北満大洪水の實況。

13・朝鮮京城龍山の大水害

1　巻　　306米

撮　影　　大正14年7月

所有者　　大阪毎日新聞社

大正14年7月15日より降り出した雨は20日まで降り續き60年來の大洪水となれる慘狀の實況。

14・阪神風水害實況

3　巻　　1000呎　　16粍型

撮　影　　昭和9年9月

所有者　　日本ポルトランドセメント同業會

昭和9年の秋關西を襲ふた颱風の大慘害の實況を阪神國道より尼崎まで、大阪國道より堺三寶大濱まで、大阪を中心にして撮影したるものにして特に第3巻は小學校の被害を主にして特輯せり。

15・關西風水害實況

4　巻　　1344尺　　16粍型

撮　影　　昭和9年9月

所有者　　名古屋高等工業學校土木科

昭和9年9月21日關西地方を襲ひし大風水害の實況を撮影せるものにして主として京阪地方の被害を寫す。

16・京都西宮水災實況

2　巻　　700呎　　16粍型

撮　影　　昭和10年6月

所有者　　日本ポルトランドセメント同業會

昭和10年夏起りし各地の水禍中、大阪より京阪國道、師團街道を經て京都市內に入る沿道の水災實況1巻及び、西宮市內、甲陽大池缺潰の實況1巻。

17・ハルビンの水害

1　巻

所有者　　大阪朝日新聞社

18・漢口洪水慘狀

1　巻　　192米

撮　影　　昭和6年8月

所有者　　大阪毎日新聞社

19・龜之瀨トンネル地辷り

1　卷　　100尺　　16粍型

撮　影　　昭和7年2月

所有者　　神戸高等工業學校土木科

20・龜之瀨トンネルの崩壞

1　卷　　28米

所有者　　大阪朝日新聞社

21・衆議院の火災實況

1　卷　　180米

撮　影　　大正14年9月

所有者　　大阪每日新聞社

22・白木屋の火事

1　卷　　138米

所有者　大阪每日新聞社

昭和7年12月16日午前9時15分歲末賣出中の東京日本橋白木屋本店より發火し同店の大半を烏有に歸した時の慘害狀況。

23・死の火焰焦土の函館

2　卷　　67米及182米

撮　影　　昭和9年3月

所有者　　大阪每日新聞社

函館に起つた昭和9年3月22～23日に亘る大火災の慘狀。

24・關東防空大演習

1　卷　　262米

撮　影　　昭和8年8月

所有者　　大阪每日新聞社

昭和8年夏關東地方において行はれた大防空演習の實況。

25・神戸市諸建築物の僞裝迷彩

1　卷　　400尺　　16粍型

撮　影　　昭和9年9月

所有者　　日本建築協會

昭和9年阪神地方防空演習に際し神戸市內の諸建築物の僞裝迷彩の實況を撮影せるもの

本年度に於ける災害研究報告

災害強度委員會

本年度に於ける諸災害中靜岡地震の調査は中井、山田、委員より京都地方水害の中橋梁の被害に關しては三浦委員より報告濟である。尙大阪府下の各種災害其他は松井、中井兩委員の報告を參照されたい。茲に本年度の災害の一般を大阪府、京都府、兵庫縣、各當局よりの報告に基き記錄して本年度の報告とする次第である。

京都府に於ける昭和10年6月29日水害狀況

降雨の狀況

今回の豪雨は明治 14 年京都測候所創立以來のものにして、6 月 28 日午後6時より降り始め、午後7時 30 分より連續電雷を伴ひ午後 10 時 30 分頃より降雨量增大し、電雷强雨、强雨、雨量は 28 日午後 10 時より翌午前 10 時迄（12時間）269 ミリ、坪當り 4 石 9 斗 4 升にして、明治 33 年 8 月 20 日 161.3 ミリを遙かに凌駕せり。

河川氾濫の狀況

紙屋川		五ケ所
加茂川	（高野川合流地點以北）	五ケ所
御室川		三ケ所
天神川	（紙屋川下流の稱）	一ケ所
小畑川		二ケ所
小泉川		一ケ所

橋梁流失

鴨川に於ては午前 7 時 8 分夷川橋の流失を初め、同 16 分二條大橋。同 7 時 25 分團栗橋。7 時 30 分葵橋流失。更に引續き荒神橋、三條大橋、松原橋正面大橋、五條大橋、鹽小路橋、十條大橋、奈良線鴨川鐵橋。

鴨川以外の流失したる橋梁

紙屋川……櫻橋、紙屋川橋、高瀨川橋、寺ノ內橋

高野川……蓼倉橋、河合橋、中加茂橋、御園橋、上加茂橋

御室川……御室橋、鳴瀧橋

桂川……西芳寺橋、三條橋、夫婦橋、勸進橋、高尾橋

向日町部内……羽束師橋

伏見部内……小枝橋

右の外小橋梁の流失せるもの各方面合して 24 に及ぶ。

浸水家屋

床下	18,624
床上	8,320
不明	17,900
總計	44,844戸

6月29日水害狀況調査表

堤防		道路		橋梁		人			家屋					避難	
決潰	破損	埋沒流失	破損	流失	破損	死亡	傷	不明	流失	全潰	半潰	床上浸水	床下浸水	場所	人員
46	1	21	31	80	2	9	6	—	163	28	36	8,320 (17,900) 計 44,844	18,624	42	11,817

備考　浸水家屋中（17,900）は床上床下浸水區別判明せざるものを示す

京都府に於ける8月10. 11日の水害

水害當時の氣象

8月10日朝上海方面より進來せる颱風は分裂して、對馬附近と濟州島の西方に來り、前者は745粍、後者は744粍を示し對馬附近より山陰沖を東西に不連續流走せり。爲めに朝鮮南部より北九州に亘る一帶に多大の豪雨を齎らせり。然るに午後6時對島附近のものは境附近に、濟州島のものは南下して五島附近に進み、11日朝颱風は兩者合體し漸次衰弱して大分附近に出て、不連續線は夫より出て四國、紀伊半島を經て東海道、房總に流走せるを認めたり。

10日朝來少雨降下しつゝありしが午後より雨勢强烈となり、夜に入り猛威を逞し、京都に於ては去る6月29日の豪雨に次ぐ多雨量を觀測するに至れり。

京都測候所の觀測に於ては9日午後4時3分より降り出せる雨は、10日午前6時迄に僅か4粍3の少量に過ぎざりしが、午前9時10分より雨勢稍强烈となり、午後6時過既に82粍4を觀測す。午後10時30分より雨勢愈々猛烈となり、即ち10日11時より11日2時に至る4時間量85粍6を觀測せり。殊に10日夜半11日2時前1時間最も强く、前者は25粍1後者は25粍3を測り、2時5分漸く雨勢衰へ9日午後より1刻の

止み間なかりし頑強の雨も、6時30分遂に止み、10日6時より11日6時に至る24時間量實に213粍9と謂ふ多雨量を觀測創立來去る、6月29日269粍9に次ぐ新記記錄を現出せり。

豪雨の成因及被害の程度

這回の豪雨は颱風の前驅に發生せし、對馬附近より山陰沖を東西に流走せる、不連續線の當府下に南下せしに因由し、恰も6月29日の豪雨原因と其機巧相等し、而して這般の豪雨量に對する水害程度は敍上の如く、其雨量6月29日のものに比し、56粍の寡量に過ぎざるも、降水時間前者に比し2倍の長時間に亘れる爲め河川の出水緩慢なりと思惟す。

河川出水の狀態

鴨川は增水2米50に達し從つて之れが上流たる高野川、貴船川、鞍馬川等の河川何れも增水し、這般水害の後を更に增破し或は新たに護岸堤防を缺潰せり。而して鴨川は這般の水害により護岸缺潰せる一部分を破壞し、更に四條大橋の補强材料等を流失したる外、特に水防に大なる被害を見ずして經過せり。

御室川、天神川、紙屋川等は逸早く增水して沿岸地帶を氾濫せしめ、這般の水害を再び想起するの狀態を告げり。山科川も下流に於て堤防缺潰せるの外大なる被害なく經過せり。

小畑川、小泉川に於ては這般の出水よりも更にその增水位を見、爲めに橋梁の流失堤防の缺潰を來し、附近一帶に浸水せり。殊に這般の水害に依り假工事施行せし部分は悉く破壞せられ、之れが流域たる新神足村、久世村、大山崎村の如き一帶は氾濫區域となり、再び這般に次ぐの水災に遭遇せり。木津川增水2米4にして木津川としては被害少きも、之れが流域たる綴喜相樂の南部に於ける降雨量多く、從つて町村費支辨の河川悉く增水せるを以て相當の被害を受けたり。

淀川に於ては2米60の增水を見、宇治橋（假橋）流失し交通杜絕せり。

桂川、由良川も相當增水せるも其の被害少く、而し之れが支派川たる河川に增水を見たるを以て之等の流域地帶は相當の被害を蒙れり。

尙本調査報告は京都府技師和田甲一氏の御好意によるものゝ拔萃なり。茲に同氏に深く感謝の意を表す。

兵庫縣に於ける昭和10年6月29日、7月3日及7月5日の豪雨に依る被害狀況

被害の狀況

6月29日の豪雨に依る被害の激甚なりしは主として阪神間にして、殊に西宮市に於ては同市甲陽園の大池（面積5町歩、水深20尺）堤防決潰に依り、貯水奔流し同池附近に

埋設せられありし神戸市上水道送水管（36吋）7 本、（33 吋）6 本を流失せし爲め、水勢猛烈を極め下方御洗川の堤防を決潰し、西宮同市へ溢水するに至りしが、濁流は同市南方舊國道に依り遮られ、遂に床上最高 5 尺の浸水を見たる次第なるが、排水の方途なく、同市内は舟に依り漸く交通したる狀況にして神戸市は送水管斷絶に依り斷水するの止むなきに至れり。其他各河川共增水し死者 13 名を出し、更に 7 月 3 日及 5 日の 2 回に亘る豪雨の襲來ありて、各河川の增水を見、被害は阪神間神戸市及播州方面に於て甚大にして之又 6 名の死者あり、殊に西宮市夙川は其の增水最も甚だしく、同川は其の河床住宅より高く堤防内方に市民散策の遊歩道工作せられある關係上決潰箇所十數ケ所を生じ流失家屋 2 戸を出せり。

縣下各地の降雨量を示せば別表の如し。

降水量其他調（神戸測候所調査）兵庫縣神戸測候所觀測の分

月日	降雨量 全降雨量	降雨量 1時間最大降雨量	氣壓 最高	氣壓 最低	風速 最强	風速 最弱	氣溫 平均	氣溫 最高	氣溫 最低
	粍	粍	粍	粍	米/秒	米/秒	度	度	度
6 月 29 日	143.3	20.7	758.4	757.2	西南西 6.8	南西 1.0	22.1	23.1	20.1
7 月 3 日	48.4	24.9	759.2	756.6	西 9.5	西 0.7	25.1	28.3	22.4
7 月 5 日	22.7	6.4	759 2	756.7	西北西 5.4	西 0.7	22.3	24.5	19.9

第 1 表　水害調（昭和 10 年 6 月 29 日）

地方別	署別＼種別	死者 死	傷者 傷	行方不明	住家 全壞	住家 半壞	住家 流失	非住家 全壞	非住家 半壞	非住家 流失	計	損害額	浸水家屋 住家 床上	浸水家屋 住家 床下	浸水家屋 非住家 床上	浸水家屋 非住家 床下	計	損害額
												円						円
	灘	2												60			60	
神戸市内	葺合					2					2	300		11		1	12	300
	三宮		1															
	神戸水上												5					
	相生橋				2			1	1		2	100		97		4	106	10
	湊川													413		7	420	630
	菊水橋		1			2			4		4	450		321		3	324	5
	兵庫												3			52	52	200
	林田					1					5	2,000		150		10	163	250
攝津	須磨												2	152			152	138
	御影								4	6			29	212		7	221	105
	芦屋	2				2			2	6	2	2,000	2,333	1,091		28	1,148	2,300
	西宮	5	6		3	4					17	3,200	678	4,529	167	272	7,300	82,754
	尼崎				1	11					20	880	18	5,767	23	383	6,851	16,496
	伊丹	2											2	1,057	10	186	1,341	4,560
	廣根					1					1	150		5	1	1	9	170
	寶塚					1					1	300		63		7	70	55
	三田					1					1	6		7			7	31
	其他の部分を入れたる合計	13	9		9	28		2	12	12	66	11,016	3,080	13,982	201	975	18,308	108,142

第 2 表

署別＼種別	官公衙			學校			社寺			工場		
	全壞	半壞	浸水	全壞	半壞	浸水	全壞	半壞	浸水	全壞	半壞	浸水
西宮			3			4			3			27
伊丹											3	
合計			3			4			3		3	27

第 3 表　水害調（昭和10年7月3日、5日）

地方別	署別＼種別	死者 死	死者 傷	行方不明	住家 全壞	住家 半壞	住家 流失	非住家 全壞	非住家 半壞	非住家 流失	計	損害額	浸水家屋 住家 床上	浸水家屋 住家 床下	浸水家屋 非住家 床上	浸水家屋 非住家 床下	計	損害額
神戸市内	灘				1	1					2	6,000円		66			66	500円
	葺合													50			50	100
	三宮																	
	神戸水上																	
	相生橋																	
	湊川													1,128			1,128	1,700
	菊水橋													354			354	
	兵庫												40	123			163	300
	林田													700		212	912	
	須磨																	
	御影												3	159	2	8	172	245
攝津	芦屋	1		1	1						1	1,000	58	620	3	15	696	1,000
	西宮		1		3	1	2			6	12	6,870	222	1,488	7	55	1,772	20,622
	尼崎													279		13	292	700
	伊丹												1	70		30		1,000
	魔根																101	
	寶塚		4		7	2				2	11	13.530	30	307		30	367	1,200
	三田																	
	其他を入れたる合計	3	5	3	12	5	2	7		8	35	29,100	364	5,536	12	367	6,279	27,642

第 4 表

地方別	區別＼署名	官公衙 全壞	官公衙 半壞	學校 全壞	學校 半壞	社寺 全壞	社寺 半壞	工場 全壞	工場 半壞
攝津	西宮					1		6	
	合計					1		6	

第 5 表　道路橋梁被害調査表（昭和10年7月25日現在）

種別 / 所別	縣工事				市町村工事			
	道路	損害額	橋梁	損害額	道路	損害額	橋梁	損害額
	箇所	円			箇所	円		
西宮	128	80,574	9	19,300	52	72,620	23	26,973
三田	46	29,347	6	1,684			1	2,521
明石	9	3,167			1	330	1	600
社	30	9,704	2	991	1	600	1	600
姫路	15	3,800	2	12,600	12	3,360	4	1,500
龍野	12	2,650			1	230	1	150
上郡								
八鹿	12	1,565						
豊岡	2	199						
柏原	6	5,842	2	491			1	3,500
洲本	26	15,968	3	1,350			1	800
濱坂								
合計	376	152,816	24	36,416	67	77,140	33	26,644

交通關係の狀況

災害の發生により交通機關の運行に及したる被害概要左の如し。

1. 省線鐵道

東海道線、山陽線に於ては線路若干浸水ありたるも、運轉上何等の支障なし。

福知山線に於ては 6 月 29 日午前 9 時 30 分頃、氷上郡上久下村所屬線路上に土砂堆積し一時不通となり、鐵道係員及消防組、青年團等に依り應急作業をなしたる結果、午前 11 時 15 分開通したり。

7 月 5 日午前 6 時寶塚署管内生瀬驛武田尾驛間に於ては、山崩れ地辷り等に依り第一第二、第三、第四、隧道損壞せるため、全線一時不通となりたるも前記同樣應急修復なしたる結果翌午前 7 時運轉開始したり。

2. 軌　道

1. 神戸市電に於ては低地部の線路一部浸水せるも運轉上支障なし。
2. 阪神、阪急、神戸線は各線共西宮市甲陽園大池決潰に依る出水の爲、軌道浸水し

29 日午前7時45分頃上下線運轉不能となり、又、阪急今津、寶塚線に於ても線路地辷りの爲不通。

阪神甲子園線は線路浸水の爲運轉不能に陷りたるも各線共應急措置に依り、阪神神戸線を除き同日午後4時頃復舊せるも、本月5日朝來の豪雨は沿線河川の氾濫を來し前記各線路を損壞し復々運轉不能に陷らしめたるを以て、各社共一時徒歩或は自動連絡を爲し復舊に努めたる結果、同日午後1時頃開通せり。

3. 山陽電鐵線に於ては28日午後9時頃より沿線各所に山崩土砂堆積ありて、間斷的に上下線不通となりしも翌29日午前4時兩線平常運轉に復せり。

4. 神有電鐵線に於ては沿線數箇所に亘る線路崩壞地辷りの爲め、一時下り線不通となりたるも、應急措置に依り同日午後3時開通せり。

5. 六甲山架空索道に於ては連絡道路損壞の爲合線運轉上直接の被害なかりしも、道路復舊迄一時營業休止中。

6. 六甲ケーブルに於ては7月5日豪雨の爲同線清水驛附近線路破損の爲連轉不能。

3. 自動車運輸關係

6月29日より本月5日に至る豪雨は全縣下の乘合バス路線を損壞し、運轉狀態を攪亂せるが、就中表六甲「ドラヴウエイ」は18箇所の大崩壞あり。爲に自動車交通全く杜絶す。

尙神戸市營バスは市內山手線路の損壞の爲、特別區は殆ど運轉休止せり。

兵庫縣に於ける昭和10年8月10日豪雨被害報告

降雨の狀況

8月10日午前1時頃よりの降雨は同日午後1時頃迄に雨量 35.8 粍（坪當り 6 斗6升5合强）に達し、一時小雨となりたるも同日午後 7 時頃豪雨となり、翌11日午前1時頃迄に雨量 121.6 粍（坪當り2石2斗2升5合强）を示すに至り各河川共急激に增水したり尙11日午前2時頃以降は間斷的に小雨ありたるも增水の程度に至らざりき。

被害の概要

8月 10 日夜半よりの豪雨に依る被害は這般の水害地域と略同一にして、阪神間を主とし前回災害の復舊未了の爲殊に被害甚大なるものありたり。就中西宮市に於ては御手洗川夙川、久出川、新田川等の堤塘決潰し濁流市內に氾濫し江上町、田中町、今在家町等（6月 29 日浸水區域と同じ）最高5尺の浸水を見たるも、地形の關係上排水の方法なく加ふるに翌 11 日午前 7 時に至り、同市廣田新池（水面 3 町步、水深1丈5尺）決潰するありて水量を增したるも、同日夕刻迄に自然減水を見たり。

水害調査

（昭和10年8月10日分）

市郡町村名	人 死	人 傷	人 不明	人 計	世帯 全壊	世帯 半壊	世帯 流失	世帯 床上浸水	世帯 床下浸水	世帯 埋没	世帯 計	家屋（棟数） 区別	全潰	半潰	流失	床上浸水	床下浸水	埋没	計	流失区域面積	損害見積価格
																				ヘクタール	円
神戸市						1		153	9,169	4	9,325	住家		1		52	2,192	1	2,246		42,256
												非住家				31	118		149		
武庫郡御影町								60	272		332	住家				60	271		331		2,000
												非住家				7	29		36		
同住吉村									95		95	住家					30		30		
												非住家									
同魚崎町								9	278		287	住家				9	364		373		2,000
												非住家				3	10		13		
同精道村							1	196	511		708	住家			1	189	497		687	0.5	65,000
												非住家				7	14		21		
同本山村	3			3				15	163	1	179	住家				15	158	1	174		10,000
												非住家					5		5		
同本庄村								40	327		367	住家				39	325		364		5,000
												非住家				1	2		3		
西宮市						3	1	352	2,859		6,915	住家		3	1	2,991	3.271		6,266	1.5	52,456
												非住家				200	346		546		
同鳴尾村									236		236	住家					230		230		708
												非住家					6		6		
同大庄村									1,104		1,104	住家					1,102		1,102		842
												非住家					2		2		
同武庫村									60		60	住家					52		52		69
												非住家					8		8		
同瓦木村								199	925		1,124	住家				151	250		401		9,770
												非住家					23		23		
同甲東村									180		180	住家					170		170		360
												非住家					10		10		
尼崎市								682	2,862		3,544	住家				518	2,715		3,232		3,550
												非住家				28	192		220		
川邊郡小田村								2.310	2,407		4,717	住家				73	3,398		3,471		13,245
												非住家				12	212		224		
同立花村								82	670		752	住家				42	802		1,025		3,200
												非住家					131		131		
同園田村								6	260		266	住家					233		233		81
												非住家					12		12		
同伊丹町								35	110		145	住家				18	92		110		2,000
												非住家									
同川西町								5	260		265	住家				5	263		268		476
												非住家									
同長尾村								1	78		79	住家				1	78		79		120
												非住家					15		15		
同稻野村									120		120	住家					101		101		
												非住家				8	2		10		
同神津村								6	180		186	住家				5	180		185		2,000
												非住家									
同西谷村	2			4	1						1	住家	1						1		2,000
												非住家									
同多田村									3		3	住家					3		3		
												非住家					1		1		
武庫郡良元村						2		5	290		297	住家		2		5	290		297		7,000
												非住家					45		45		
川邊郡小濱村									60		60	住家					60		60		2,500
												非住家					7		7		
有馬郡鹽瀬村									15		15	住家					15		15		
												非住家					3		3		
美方郡小代村									2		2	住家					2		2		820
												非住家				2			2		
三原郡福良町									220		220	住家					220		220		500
												非住家					13		13		
合計	5	2		7	1	6	2	6,856	25 114	15	31,984	住家	1	6	2	4,176	17,364	2	21,551	2	160,455
												非住家				297	1,206		1,503		

軌道其の他被害狀況調査表

會社名	不通又は運轉休止 日	不通又は運轉休止 時	不通路線及區間 路線	不通路線及區間 區間	原因	運行狀況	復舊狀況
神戸市電	10日	自後 10.30 至〃 11.30	須磨線	離宮道 若宮間	浸水	須磨驛前若宮4丁目不通	10日後 11.30復舊
阪神電鐵	11日	自前 1.40 至後 0.45	大阪 神戸線	春日野道 岩屋間	〃	濕道、岩屋間バス連絡	11日後 0.45 〃
〃	〃	自前 1.40 至〃 7.10	〃	西宮一西 宮東口間	〃	香櫨園、西宮東口間 〃	11日〃 8.30 〃
〃	〃	自前 7.10 至〃 9.40	〃	西宮 甲子園間	〃	香櫨園、甲子園間 〃	〃 〃
〃	〃	自〃 9.40 至後 0.45	〃	西宮一西 宮東口間	〃	香櫨園、西宮東口間 〃	〃 〃
〃	〃	自〃 0.10 至 10.40	阪神 國道線	北今津 西宮戎間	〃	山打出、西宮戎間單線運轉 夙川、香櫨園間バス連絡	〃後 10.40 〃
〃	〃	自前 7.30 至後 4.50	〃	西宮戎 玉江橋間	〃	東長洲、尼崎間バス〃 山打出、夙川間及夙川橋 香櫨園間バス連絡	〃後 10.00 〃
〃	〃	自〃 4.50 至〃 10.00	〃	山打出北 今津、濱 田東長洲	〃	山打出、北今津 濱田、東長洲間バス〃	〃後 10.40 〃
阪神急行 電鐵	〃	自前 5.30 至〃 10.20	大阪 神戸線	西宮北口 夙川間	軌床土砂流失	大阪、西宮北口 神戸、夙川間折返運轉	〃後 3.10
〃	〃	自〃 5.30	今津線	仁川 小林間	鐵橋並に前後築堤崩壞	今津、仁川間折返運轉 小林、寶塚	15日後 3時 〃
〃	〃	自前 5.30 至〃 8.45	甲陽線	夙川 苦樂園間	軌床流失1. 築堤崩壞2.	甲子園夙川間 バス連絡	11日後 8.45 〃
〃	〃	自〃 5.30	寶塚線	三國 服部間	軌道4尺浸水	梅田、三國間 曾根、寶塚 折返運轉	12日後 7.20 〃
山陽電鐵	10日	自後 11.00 至〃 12.00	本線	鹽屋 境川間	石垣崩壞土砂埋沒	姫路、鹽屋間 兵庫、境川 折返運轉	11日初發 より 〃
神有電鐵	11日	自前 5.00 至〃 7.00	全線		送電不能	運轉休止	〃前 7時トリ〃
有寶バス 株式會社	〃	自後 5.00 至〃 7.00	有馬 寶塚線	有馬郡山 口村、所 屬縣道	橋梁決潰2 箇所	山口、有馬間 折返運轉 寶塚、山口 徒歩連絡	12日初發 より 〃

本調査は本委員會委員兵庫縣技師鳥井捨藏氏の御好意によるものゝ抜萃なり、茲に厚く感謝の意を表す。 （三浦委員記）

建築工事場假設備に要する重なる器具機械の研究及附帶工事中主に水道衞生工事に就て

設備委員會

昭和10年度に於ける當委員會の研究の一部として前年に引續き本項目に付き下記の結果を得たり。

杭打用機械

(1) 二本子手引のもの

根切なき場合には3間杭位根切ある場合は5間杭位にてモンキーは100貫前後なり。

數の多き場合は電動ウキンチを使用す。矢板打にも最も多く使用す。

(2) 櫓組のもの (Club Engine)

高さは50尺乃至80尺位迄なり。モンキーは200貫以上1噸半位にて電動又はスチームウキンチを使用するドロツプ式とす。

尙スチーム・ハンマー (Steam Piling Engine) は重量約7噸位までありて單式と複式とあり。單式は錘を上げる時のみ蒸氣力を用ひ落下は自然とし複式は上下共蒸氣力を用ふるなり。

上記機械は舶來としてはマキアナシテリー、ユニオン、ナショナル等多く使用し國産としては油谷式を最も多く使用す。

蒸氣機械のものは櫓の底面が巾約10尺長さ30尺位あるを以て現場のスプースに依り使用方法考慮を要す。

掘方用機械

掘方は大きな工事にてはパワーシヤベル、バケツトコンベヤー等を使用する事あれど土の揚方は一般にリフト又はデリツキを使用す。

運搬用機械

工事場內の運搬用には

捲上機 (Hoist Engine)

ウキンチ一般に手働と電動との二種ありて電動の力は最大4噸位なり。

デリツク (Guy Derrick) 三脚デリツク (Stiff Derrick) 等を最も多く使用す。

その他 Chicagoboom, コンベヤー（ベルトコンベヤー、バケツトコンベヤー）、シユート等なり。

ポンプ水替用

ダルマポンプ(手押用 Diaphrain Pump) セントリヒユーガルポンプ(電氣及發動機用)あり。根切深き場合は之を二段に使用するものとす。尙ピストンポンプは20尺位迄に有効なり。

ミキサー

昨今は殆んど國産にて電動多し。場合に依り發動機のものもあり、時に依りて便利なり最少3切練より27切練位迄あり。

Rotary Mixer { Cube Mixer / Double Cone Mixer / Cylinder Mixer

"Poddle Trough Mixer" "Gravity Mixer" 等あり。

ミキサーと同時にイナンデーター、ウオーセクリーター、ポンプクリート等あるも之等は尙使用に際し十分に考慮を要するものとす。勿論外にタワー、シユート、ホツパー、カー等を附屬す。

釣足場

一時外國製のものを使用したるも最近は國産にて適宜架構す。之は大體フニツシユの工事が建物作業用として有効なるも建築現場には、矢張足場を架設する方が便利にて、釣足場を使用する場合少し。

以上の外原動力たるモーター及びリベツター、セメントガン及吹付用諸機械等あり。(以上)

尙委員會にて先年現場機械中杭打機械及ミキサーの騒音防止の爲特殊工法を研究したるが、引續き他の音響發生の多き現場機械類に就きても鋭意研究中なり。

設備工事に就きての一般的の注意

(1) 附帶設備工事施行者は遅くとも基礎コンクリート打前に決定する事。

(2) 工事施工に當り充分なる工作場を與へ且工事中轉々と移動せざる事。

(3) 配管後の養生に就き充分注意する事。

(4) 防水箇所を貫通する箇所は充分打合せをなし叮嚀に施工する事。

(5) 附帶工事は本工事竣工より相當時日を見込みて竣工日とする事。

工事現場の狀態に依り必ずしも上記を嚴守する能はざる場合あれど、後に起る種々なる厄介を考ふる時は設備工事は重視すべきなり。

配管工事の施行 （主に衞生工事に付研究す）

(1) 配管はなるべく埋殺しを避くべし。コンクリート又はシンダー中に埋める時は酸或

はアルカリーの爲に外部よりの腐蝕多し。鉛管に於ても酸化鉛を生じ濕氣ある所にては局部的に電氣分解の如き現象を生ずる憂あり。その他工費或は持續性の點よりも鉛管は推奨すべきものに非ず。

(2) 配管を露出とせざる時は充分なる「パイプシヤフト」を設け、後から點檢修理をなし得る樣適當なる處置を講じ置くべし，又暗渠等も後から這入り得る丈の大きさを要す。

(3) パイプが防水帶を貫く塲合

防水層のある床を貫きて下の階に至るパイプある時は必ず Drip pipe を取るべし。又建物外部に出す塲合も同樣とす。Drip pipe の Packing はボロ布等に防水材料を浸ましたるものを用ふ。

(4) 給湯蒸氣配管は絕對埋殺しを避くべし。

(5) 配管方法に就きての注意

配管は流水の方向に依り勾配の附し方に充分考慮をなし、特に排水管に於ては全體のシステムが一樣に働く樣にせざるべからず。

配管はコンクリート中に於ける曲部は出來得る限り小なる曲りとならざる樣なし。殊に接手に於て流水の方向に接續する樣注意すべし。その他油脂類の塞りの憂ある箇所は適當なる防止設備をなすべし。

尙給水に於ては便器用水管等は給水本管の附近に直結せざる事を要す。

ボイラー室に就きて

機械室の面積は充分取る事を要す。面積は電氣室を除きて建築總面積の5乃至6分位は取るべきにて、室內のタンク、ボイラーその他の機器類を後に取り出し得る樣考慮すべきなり。又事變の際の送電中止に應ずる爲、將來は自家發電乃至は蓄電の必要もあり。機械室の位置は現今にては地下室が普通なれど、種々の不便ある故尙研究の位置多し。

淨　化　槽

淨化槽の大きさの略算法は建物の延面積の7割を居室と考へ、1坪半に1人として人數を算定し、1人當り5乃至6立方尺の容積を要するなり。この塲合高さは約7乃至8尺とすれば面積を見出し得。

淨化槽はなるべく建物外に設置する樣になし、已むを得ず建物內に設くる時は掃除及點檢に便なる箇所を選ぶべし。

消火設備に就きて

(1) 消化用水源として一種しかなき時は充分容量大なる消火用貯水槽を設置すべきなり

(2) 水道に充分壓力なき時は消火ポンプ又は水揚ポンプを必要とす。動力としては電氣以外にては10乃至30馬力のガソリン發動機を用ふ。

(3) 消化栓の位置は各階相似の位置に置くべし。ホースの長さは大體100尺を限度とす

る故、建物面積に應じて箇數を定め得。ホースは水が入ると上階より下階にのみ應用出來るものなる事に注意を要す。

(4) 消火設備の配管は獨立系統となし置くべし。

(5) 屋外消火栓は凍結の防止方法を考慮なし置くべし。この場合は消火栓の本體は地下埋沒式としホース取付口は便宜の處に置くなり。

ノーズルよりの噴出水量 (消火栓用)

靜水頭	水壓	各種ノーズル口徑 mm.					
		$\frac{3}{8}$″ (9.5 mm)		$\frac{1}{2}$″ (12.5 mm)		$\frac{3}{4}$″ (19 mm)	
m.	kg/cm²	噴出高 m.	水量 l/m.	m.	l/m	m.	l/m
3	0.3	2.7	37.8	3.0	54.8	3.0	130.0
6	0.6	5.5	54.7	5.8	77.9	5.8	174.6
9	0.9	7.6	65.9	8.2	95.3	8.5	214.7
12	1.2	9.8	77.1	10.7	111.9	11.3	247.6
15	1.5	11.3	86.9	12.8	122.9	13.7	277.7
18	1.8	12.8	94.5	15.0	134.6	15.9	303.6
24	2.4	14.0	109.6	18.3	155.7	20.4	350.0
30	3.0	16.5	124.0	21.1	174.3	24.1	392.0
36	3.6	16.8	135.3	22.9	190.5	27.5	429.0
42	4.2	17.7	145.5	24.1	206.0	31.2	474.0
48	4.8			24.4	219.6	32.3	496.0
54	5.4				232.9	34.1	525.8
60	6.0				246.5	36.4	553.4

(文責在增井)

住宅構造座談會記錄

住宅委員會

住宅の床について座談的に意見を述べることに致します。

住宅にも程度が種々ありますので、中流以下に標準を置いて話すことに致します、即ち坪當り150圓前後の住宅を目標とすることが適當であると考へられます。

寸法の事は從來住宅では寸尺が使ひなれて居りますが、漸次米法に依る様に規格を統一する必要があると思ひます。

疊に對する新工夫

和風の疊を改良する方法はありませんか。

疊を輕くするため床をセロテツクス2枚を芯にしてこれに表をつけたことがありますが緣をつけるに手數がかゝるのと、端が反るので隅々を釘止めとした經驗があります。又馬糞紙の製紙工場でボール紙から疊の床を製出する研究を進められて居るさうです。

疊の寸法を今の2分の1にして、輕くしてはどんなものでせうか、

そうすれば半分になるから大掃除などに手輕になり、平常でも疊を日光に曝すことが出來るといふものです、然し形が正方形で見た目にはどんなものでせうか、一つ試驗的に實行して見たら案外面白いかもしれません。

コルクで床を造つたら輕く出來ませんか、勿論輕くて良いかも知れませんが、3分厚で坪10圓は致しますから1吋厚で24圓もかゝるので、中流以下の住宅には費用の點で落第です。中流以下では疊は一枚3圓、4圓程度のものでないと坪當りが高くなります。

東京の疊は厚さ2寸ですが、全國2寸に一定すれば床工事の仕事も統一されるわけです大阪は1寸8分を普通としてゐます。

器械刺しの疊は10通代用品以下では一年たてばすぐ凹凸が出きて表面に波がうつて高い處がすれて損傷が早い。13通り代用品以上なれば相當良いものである。坪當り150圓以下完全な疊みを望むことは無理である。上等の疊は板の上に坐つて居るやうなもので座布團ではがないと足がいたいが安ものゝ疊はぶかぶかだからこの點實用的と云へば實用的です

床　工　事

疊の下の床板も合決りしたものを使用したいものです、松の6分板か、中板（厚さ4分5厘）位を使用すれば疊のためにも良いものです。現在は3分4厘の薄板を粗末に張つて

居るからこれは改めたいものです。

又根太をなくして大引だけで8分板にすれば大掃除のとき大いに助かります。

床の高さは2尺位が適當と考へられる、1尺5寸程度では床下の清潔や防濕通風に適當とは云はれない。

床下の通風は衛生や寒暑の調節に必要であるが、空氣の取入れ口をレヂスター式に調節し得るものにしたい。床下の欄間を無双引違戸として冬は閉ぢ、夏は開けて通風をはかる方法は是非必要と思はれます。昨年の暴風時に床下通風が良すぎて床板を吹上げたと云ふ珍らしい例があります。

空氣抜の床面積に對する適當な大さについては研究された標準があると思ひますから、京大の戸田博士にお尋ねすることに致します。これまでは全く目分量で空氣抜の穴をあけて居りましたが、理論に立脚した大さに是非致したいものです。

土臺をコンクリートの上に直接のせず、布石の上かフヰルトを敷いて防腐劑を塗つて土臺を取付ける樣にしたいものです。

床下にはコンクリートよりも三州叩きの方が濕氣を凝結させないから良いものです。

和風の板床

和風の板敷は實はぎ又は合決にするやうにしたいものです、餘り薄い板のとき實はぎであると實の部分が仕上の時うすくなるから注意を要します。

薄い板を使用するときは敷目板張りとするか、根太にフヰルトを張りつけてこの上から板を張ると隙間風が防げます。

浴室の脫衣室などは濕氣のためにも足ざわりのためにもコルク敷が良いものです。

椽側の板張りは關西では檜材、松材を使用しますが東京では檜がつかはれてゐます。安く仕上げるには米檜、米栂、米松等が使用されるが椽側には適當な材料ではない生節があつても檜や松や栂の方が良いものです。素人は節を非常に嫌がるが僅かな節はあつても實用上差支ないのであるから、節使用の宣傳でもしたらどんなものですか。張方は合決を適當と認めます。

リノリユームを代用するのも一方法だと考へます。

臺灣檜は中々良い材料です。

椽側に摺漆を塗ることや、ベンガラの油拭きとすることは地方では昔からやつてゐる事ですが、實用的に大變良いことであります。

塗る事になれば板材の多少の節も目立たぬことになりますし日日の掃除も樂になります

臺所は節があつても良いから檜、杉、松としたいものです。上げ板は建坪の少ない家では是非必要ですが、餘裕のある家では利用價値が減じます。

洋室の床について御意見を伺ひますオークで張れば7～8圓から10圓位までで張れて、オイルステーン、ラツク仕上かワツクス拭きにすれば體裁もよく爲めに良いものです。

近頃山毛欅の板が用ひられますが値が安く狂ひが少いものです。椎の板もオークに似て良いものです。

米松の柾板は安負請に盛に使はれたが此頃は關稅の關係で割合高くつきます。

水目櫻の板は紡績工場などに用ひられて居ますが乾燥を十分よくしないと狂ひ易いものです。

樺材の板や本櫻の板は上等ですが値が高いものです。ラワン材は一般に狂ひ易く、虫がつき易いといはれて居るが、18) 度位の乾燥室に入れて使用すると心配がなくなります。米松よりも安いから單價の安い建築には適當です。

床張りも室の周圍を寄木張りとして、中央部を縱張りとして敷物を敷けば意匠効果をあげて手間が安く上ります。

食堂の床はオーク（厚 6,7 分）板張りとすれば坪當り 20 圓位で仕上ります。

安い坪當りの住宅の床は一般に寄木張りとすることは費用の點で不可能であるから、敷物や家具にかくれる部分を豫め定めて置けば、この部分のみ縱張りとして現れる部分を寄木とすれば費用を節約することが出來ます。

應接室の床は冬の保溫の事を考へて、單へ張りよりも2重張りとする方が適當です。更らに保溫を完全にする方法は、根太の下から板を打ち上げ根太の高さだけ鋸屑をつめ込みこの上に床板を張る樣にすれば保溫の目的が達せられます。然し板それ自身が冷えるものですから、冬は是非敷物を必要とします。

毛絨壇、壇通、などを敷きつめる事は理想的ですが高價につきますから、椅子の前にカーペツトを捨敷とすれば足が溫かです。

花莚蓙も安くて保溫の目的が達せられますが損じ易く持が惡いので困ります。

鎌倉時代に逆行して處々を疊敷とすることも一方法かも知れません。

浴室の床はコンクリートモルタル塗りとして簀子敷とする方がよく、簀子は檜材を用ふると輕くて腐れが遲く適當です。

その外人造磨ぎ出しの床も良いものです。

細かいモザイク、タイルも此頃は盛んに用ひられてゐます。

簀子の上等のものはコルクの小片を互違ひにつなぎ合せた巻き簀子は凡てに便利なものです。2 尺に 3 尺位が 20 圓位かゝります。これが代用として檜材の小片で造つたならば安價で好結果を得るかも知れません。

浴槽は今の處日本では木材が喜ばれてゐます槇材が最良であります、これについで檜やサワラを用ひて居ります。板の厚さは1寸、1 寸2分が普通で上等のものは1寸5分あります。槇材なれば前者で 13 年、後者で 20 年は耐久力があります。

浴槽の變つた形で實用上使ひ具合の良いものは長さ4尺2、3寸、巾1尺8寸深さ1尺8寸に造られたものは長形で足を延ばすことが出來る上に肩まで這入られるので和洋折衷の型と考へられます、西洋の浴槽は深さ 14 吋位で肩まで這入れないので日本人の習慣に合ひません。

又足の方の底を斜面に上げれば水量を節約できます、水量の節約は燃料の節約を意味するわけになります。

この他小供風呂として深さに段をつけたものもあります。

コンクリート浴槽を造るときにメタルラスを折箱式にして槽の四側を擴げて造り十番鐵線を補強として平にしてコンクリートを打ち、折目を欠きとつて置いて四壁を立てると薄手に手際よく仕上ります。これには職人の特種の熟練を要します。

長州風呂は經濟的に評判のよい風呂ですが感じは餘り良くないものです。

底積煉瓦を二重にして保溫を十分にして湯の冷め易くない様にしたものを魔法風呂などと云はれて居ります。

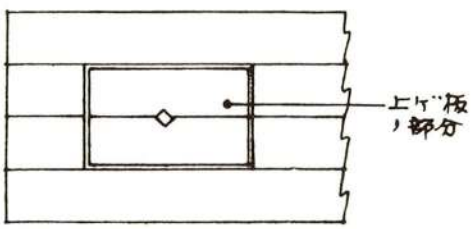
ガス用の風呂などは一般に木製を用ひて居ります

便所の床は最近タイル張りが流行して居ますが保溫の點と掃除などの點で如何なものでせうか。

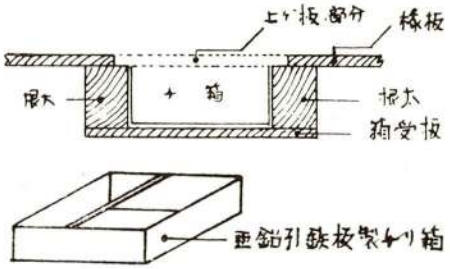
板張りの方が冷えが少いことは確かです。檜板にスリ漆塗りとしたものが或る地方で行はれてゐますが良いと思ひます。

或る女工寄宿舍でタイル張りの便所床と櫻板の本實張りの床とを造つて見た處が、板床の方が大變人氣が良かつたと云ふ例があります。

塵埃を庭に掃き出さずに廊下の隅の一部分を圖の樣に小さな上げ板として、中に塵埃箱を嵌めて置くと掃除が樂に出來ます。



床下平面の一部



廊下の博張り板は多少の節を辛棒すれば、檜材を使用しても坪 3 圓 50 錢位で出來るから米材などを使用するよりも後のために良いものです。

床などには餘り金をかけたくないものです、丈夫に張れて清潔が保てゝ保溫の目的が達せられゝば良いとしなければなりません。

掃除用の器具で最近使はれて來た電氣クリーナーはコードが邪魔になることゝ、柄の長

さなどの關係から裝飾品の多く飾つた部屋などには却つて不便である。

壁

最初に日本式の壁について御意見を伺ひます。此頃の眞壁は甚だ粗末で壁下地となる小舞が充分の力を持つてゐない様です、女竹をヒシヤイで小繩で編みつけたものだから壁を垂直に支へることが出來ず往々彎曲面となる嫌があります。

昔のものは眞渡竹は女竹を用ひ、小舞竹は眞竹を四ツ割としたものを使用してゐるからしつかりした下地が出來て壁の塗上げ後に故障がおこりません。

壁貫は大貫を用ひ、楔は勾配をゆるくして叮嚀に打込まなければなりません、楔を粗末に打つよりは釘付けとする方確實なことがあります。

關東では貫にも小舞繩をかけて居りますがこれはよいことです。

壁筋違の代りに四分（12 ミリ）の鐵筋を錆止めして使用すると壁を仕上るに都合がよいものです、筋違の代用とします。

眞壁構造で小壁や小間の處は木摺下地と致しますが、これは兩面打ちと致しますので手間も費用も多く要します、荒壁を乾す豫猶のない場合も木摺下地を用ひて壁仕上げを致します。

壁ぢりは隙間が出來やすいものでこれには色々の方法を用ひて居ります。

ちり決りは柱に 2 分の決りを入れて、これに壁が喰ひ入る様に塗つて隙きを防ぐものです、暖簾打ちの方法は1寸5分位な巾の寒冷砂を 1 尺位な長さにしてこれの緣に竹をさいたものを縫ひつけ、これを柱の壁じりに打ちつけ、これを壁に塗り込む方法であります。

又割竹に細い棕梠繩を卷きつけてこれを柱ぢりに打ち、壁仕上をなすこともあります、眞壁を塗り上げて柱のちりの殘る面は 6 分位はないと見にくいものです。

荒壁について申しますと、荒壁は古土が一番よく古家を壞した壁土などは最良のものです。畑土、腐蝕土等は次に適當であります、數回練返し水をはつて永く置けば置く程性質が良くなります、理想を云へば一年近くも置き時々練返せば良いのでありますが、工期の關係でそんなことも出來ません。

これに入れスサ藁は古繩、古ムシロ等を細かに刻んだものが上等ですが、これも今では新藁を使つて居ります。

荒壁を塗り上げ乾燥してからその裏面から裏返塗りを致します、この二つが充分乾燥してから柱及び天井廻緣との接觸線となる部分即ちチリを塗り廻ります。この事をチリ廻りと云ひます、これと同時に貫しばりと云つて貫や筋違の部分を古蚊帳や布などで張り、壁の龜裂を防ぐ様に致します、叮嚀なものは荒壁の上を村直をして、大體の平面を整へてから 3—4 寸の間隔を置いて壁一面に古蚊帳をはる場合があります。

中塗土の上等のものは河の氾濫したとき、生目の細かい土が出來るものですが、そんな土が良いのです、普通は畑土を細かい篩でふるつて砂をまぜて使用してゐます、山土ジヤリ土。

中塗以後は雨降に仕上げるのはさけなければなりません。

雨降が濕氣の多い時仕上げるとカビの斑點が壁の表面に出て來ます。日本壁の表面仕上げは押へ壁と砂壁と水ごね塗に大別されます。

押へ壁は色土と漆喰をこねて金鏝で押へ塗りをする仕方であります。

砂壁は細かい砂と種々の鑛物粉を調合し、布糊を入れて塗り上げる方法で、鑛物質の種類によつて多種多様の名稱が出來ます。東京の松村といふ左官は石粉を中々よく研究して居ります。京都は一般に壁仕上げが良く出來て居ります。

最近日本式の壁に見える様に仕上げた變つた方法が種々あります。

セメントモルタル塗の上にペンキを塗り、これに鋸屑やコルク粉末を振りかけて乾いてから色仕上げをする方法や、砂壁材料を吹付機でペンイントする方法などもあります。

糸や紙をどろどろに溶して糊を入れて塗りつけることも變つて居ります、又新聞紙を煮て塗ることも模様が出來て面白いものです。

借家などで上等に見せるつもりで床間だけ變つた塗方をしたものもありますが品が餘り良くありません。

臺所、便所、浴室、押入等の壁はモルタル塗を併用して防濕、防虫、防鼠の目的を達する様にしたいものです。

便所の腰をガラス張りとしたものがありますが、冷たい感じがして冬は好ましくありません。

タイルを張るならば白色より暖色系統のものがよくモザイクの方が更らに良い様です。松の杢板などは新らしい內は立派ですが古くなつたらどんなものでせうか。

天　井

天井の構法も和風と洋式とに分けてお話する方適當かと考へられます。

洋風天井にも多くの種類があるわけですが天地となる材料の上から分けて、次ぎの順序に討究することが便宜のやうです。

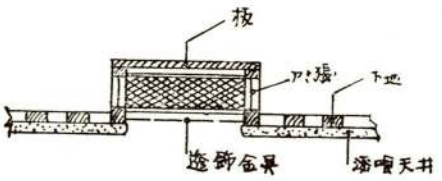
漆喰天井　　木製天井　　金屬天井　　人工板天井

先づ漆喰天井の下地について御意見がありませんか、鐵筋コンクリートの面が直ちに下地となる場合は故障が少いものですが、其他の下地の場合は施工上の注意を要します。

木摺下地の場合は漆喰を塗り上げて裏返しをなすと剝落する恐れがありません。

天井は一般に中央部に於て上げ氣味にすることは肝要です、スパン二間の中央にて$\frac{1}{200}$位が適當のやうです。

漆喰天井には是非空氣抜をつけることにしたいものです。(圖參照)



下地に「モリノイド」「イターナイト」等を使用すると龜裂を防ぐことが出來ますが繼手となる所は目地をあけて張り上げるか格緣を附けることが必要です。突付張りにすると板の厚さに多少の不同あり又不同が統一されても繼手切れがしますから注意を要します。

木摺の上にメタルラス張りとした下地の場合は、漆喰を塗ると腐蝕の恐れがありますから必ず、モルタルを塗るやうにしなければなりません。この場合は木摺の巾が廣く間隔も荒くて差支へありません。ラス張りの下地の方が龜裂が少いやうです、モルタルを塗らず土氣の多い材料をぬると天井が落ちることがあります。天井の面積が大きいときはラス下地の方が堅牢であります。浴室などもラス下地モルタル塗りの方好結果であります。天井木摺は薄くて細かいものが良く濕氣にあつて狂ひが少い材料がよいものです。厚い木摺は漆喰が裏に廻らないから不適當です、漆喰塗厚は5分位が適當であります。下げ緒は8寸間千鳥打として中塗の材料を丈夫にする必要があります。葭簀下地は野緣の上に葭簀を釘打として天井下地と致します、葭簀は棕櫚繩の太いもので編んだ荒いものが裏側に漆喰の廻りが良く附が良くなります。この場合も裏返しをすれば表裏一體となつて丈夫になります。葭簀下地は茶室や數寄屋造の上等建築の薄壁仕上に用ひられる場合と、博覽會建築のやうなテンポラリー建築に用ひる場合があります、後者は粗惡が葭簀を使用し下地張りの手間を省き急速に壁仕上をすることが目的であります。

モリノイド、イターナイト等を下地とすることはプラスターの付がよく丈夫に仕上りますが、下地の費用が相當かゝりますから特別の住宅に限られます、この際の板の厚さは普通6分厚のものが適當です。又タムコートといふ新塗料をぬると耐熱性が極めて完全なものとなります。普通二回塗で目的が達せられます。ハイリツプラスは完全な下地ですが費用が高價につきます。又ラスに細いバーを燒きつけた力骨付ラスは急ぐ仕事には便利なので、2階下に使用する場合などは極めて取付が容易であります。

以上二つの下地は骨組として小型キヤンネル組として之れに下地を取付けると耐火的の天井とすることが出來ます、獸毛入の堅練モルタルにて塗ると好結果が得られます。又下地に4分厚のコルク板を用ひモルタル塗りとしたものも上等の工事に採用されて居ります

コンクリート直付の天井仕上げ下地の準備が入れませんが、コンクリートとモルタルの附をよくするため、コンクリートが乾燥せる場合は充分霧吹をしてからモルタルをぬるやうに注意が必要であります。漆喰は平滑にぬるには適當な材料ですが色付には不自由なものであります。

プラスターは仕事が早くペンキ下地とするときは適當な材料であります。

ボード天井

最近ボート類の建築工事に利用する範圍が廣くなりましてその種類も多くなりましたが中には吸濕性の多いものがありまして天候によつて伸縮するものがありますから、その選擇を注意しなければなりません。これは下地材料として用ひられる場合と直ちに化粧材として用ひられる場合があります。磐若糊、膠等にて取付られますが釘打止が完全であります。釘の頭をつぶして目立たぬ工夫が必要であります。

ボードの種類

セロテツクス	キビテツクス
トマテツクス	モリノイド
ケンテツクス	イターナイト
フジテツクス	インサルボード
アルテツクス	ビバーボード
	エンソボード

金屬板天井

金屬板天井は木製の格間にパネルとして嵌め込む場合と、天井野地を造つてこれに全面的に打上げる場合が一般的であります。

ペンキを表裏から塗る必要があります。裏面を塗ることは取付後は困難ですから、取付前に塗つて置くやうにしなければなりません。

我が國では昔から各種の木材天井が造られて、塗込の天井を用ひた例は極く少いものである。木材天井を大別して見ると

1. 竿椽天井　2. 格天井　3. 打上天井　4. 梁天井
5. 舟底天井　6. 懸込天井　7. 化粧天井

等に分れる。この內日本住宅には竿椽天井が最も多く用ひられ棹の形狀によつて糸面、大面、猿貌面皮等の區別がある。大さは 8分 × 9分位で猿貌は 1寸 × 1.2 寸位が普通である。

竿椽の材料は檜、杉、米杉、米栂、等最も多く奇を好む場合は雜木類、竹類を使用することがある。

雜木としては　樫、青桐、赤松皮付、櫟皮付

竹類としては　白竹、斑竹、煤竹、方竹

又天井板としては杉材最も多く使用されその柾目や杢目を賞美する關係上材質の等級は多くてその價格の相違も甚だしいものである。

その外縦板、檜板、臺檜板、米檜板、米杉板、等も相當多く用ひられてゐる。

奇を好む場合は桐板、杉皮、網代組、石疊組、ヒシヤギ竹、萩、葭、篠竹等を用ふることもある。

最近板の代用として各種ボード板を天井に用ひて新鮮味を添へることになつた。又竿縁の間を塗り込む場合も試みられて來た。これらは天井を明朗にするものである。

格天井には折上格天井、二重折上天井としたり格間の中に組子を入れたり、格間に紋様を採畵することがあつて、大邸宅の大廣間等に用ひられてゐるもので一般的のものではない。

打上天井には底目板張りとアヤメ張の二種あつて、住宅では浴室臺、所等に用ひられてゐる。

梁天井は從來の日本建築では天井を高くする場合、天井張りを節約す場合などに用ひられて、裝飾的意味は餘りなかつたが、最近洋式住宅殊にスパニツシユ様式などでは多分に裝飾的に用ひられ、特に梁配置を注意したり、包み梁としたり、箱型梁として、天井も二階床とは別に設けて音響等のことも考慮される様になつて來た。舟底天井、懸込天井は茶室や數寄屋建築に限られてゐたが、舟底天井の意匠的効果はその使用の範圍を廣くなり、玄關、應接室、日光室等好んで意匠される様になつてきた。

化粧天井は小舞打ちと流し張りの二種行はれ、主に日本住宅の椽側や軒先の天井に用ひられてゐる。

屋　　根

住宅の屋根は完全に雨露を防ぐことは大切であるが、この外に防寒、防暑の役目も達せられなければならない。

震災後關東地方に著しく多くなつた、鐵板葺や銅板葺の屋根は防寒防暑に缺點があるばかりでなく、暴風に對しても良好なものではない。金屬板や薄い材料で葺いた屋根は、特にその下地に保溫材料を以て寒暑を防禦しなければ住宅の屋根として適さないものである

從つて屋根葺き材料としては雨仕舞の良好なる形狀のもの、汲水量の少きもの、下地に緊結されて移動の少きもの、保溫狀態良好なるもの等が實用的に見て肝腎な要點である。然し住宅は實用的に完全であると同時に體裁や美觀も等閑に附するわけに行かないのである。この點は工場倉庫等の屋根と同一に見るわけには行かない、葺上の勾配形狀、色合、光澤、等を吟味しなければならないから、その撰擇は却々困難となるのである。

屋　根　下　地

瓦葺の屋根が波がうつて居たり、軒先が下がつたりしてゐるものは下地が悪いと見なければならない。

粗雜な借家などは第一建物の基礎が悪いために柱に高低が生じ桁、梁、母屋等が移動し

屋根全體が凹凸の見にくい狀態となるものあるが、これらは論外とし軒先の波うつのは棰が重量に對して細いためである。

棰の太さは借家などには太さ3寸を用ひて居るがこれは細過ぎる、1.5寸×1.8 寸位のものは可成確かりしてゐる、洋式住宅などでは2寸に3寸位な棰を使用することもあつて、軒先の重量に從つて大さを加減しなければならない。

野地板は杉の6分板で差支へないものである最近の柿葺（土居葺）は粗末になつて來たが、もう少し叮嚀に葺く樣にしたいものである。葺足2寸に葺けば3枚重ねと4枚重ねの處が出來て可成完全になるので、瓦に故障が出來ても一時雨を漏らさないで濟むものである。その上に尺2寸間に押へ緣を打つのであるが昔は割竹に繩卷をしたものを使用した。

土居葺の代りにルーフイングの半號品を敷く場合がある。最近は下地に保溫人工板を打ちつけることが多くなつて來た、これは野地の下から打ち上げるものと、棰木の上に人工板を打ちつけて野地板を更らに打つ場合と、野地板の上に人工板を打ちつけて更らに野地板を打ちつけてサンドウツチとすることがある。

人工板にはコルク板、ボード類を使用してゐる。

屋根葺材料は非常に種類が多いものであるが、その材質から分けると次ぎの樣な種類に分かれるものである。

(1) 燒　瓦 ｛素燒瓦／釉藥掛瓦／鹽燒瓦
(2) 不燒瓦 ｛セメント瓦／石綿瓦／耐酸瓦
(3) スレート ｛天然スレート／石綿スレート
(4) 金屬板 ｛鐵板／亞鉛引鐵板／銅板
(5) 燃燒材 ｛茅葺、檜皮葺、柿葺、藁葺、杉皮葺

(5) の燃燒材を以て葺くことは建築法規を適用される場所は、火災の點で使用を禁じられてゐるから、住宅の屋根としては不適當と見る外ない。

(4) の金屬板葺も前述の如く保溫狀態が惡いから母屋の屋根には不適當である。

(3) のスレート葺きは修理に際して困難なばかりでなく强風に對して抗力が少いものである。

(2) のセメント瓦や石綿瓦なども時と場合により非常に便利なこともあるが、住宅としてはその色合や光澤等の點でどんなものであらうか。

以上のやうに考へて見ると住宅の葺材料は燒瓦が一番適當であると考へられる。

燒瓦も燒方や形狀で澤山の種類で分れるのであるが、地方地方によつて燒方や土質が相違してくるから同じ形でも良否の別が生ずるのである。

近畿地方に使用される瓦は主に泉州、播州、三河、淡路等のものが多く使用されてゐる

形狀で最も多く使用されてゐるものは次ぎの如くである。

(1) 桟　瓦　　(2) 本　瓦　　(3) 輪違瓦(スパニツシユ)

(4) S 型 瓦　　(5) フランス瓦

これらは雨仕舞が良好であつて安心して使用出來るものである。變つた形狀の瓦の場合は充分に試驗して後に使用しないと思はざる失敗を招くことがある。尙ほ又破損修理の場合も困難である。

桟瓦は我が國で最も多く使用されてゐる瓦であつて、切込引掛桟瓦、本磨き桟瓦、面取瓦、蠟燭桟瓦等の工作の仕方がある。大さは葺坪 64 枚のものを六四と云つてゐるが山陽地方は 64 枚葺であるが大阪では 64 が 62 枚葺となつてゐる。

これは規格を全國的に統一されゝば災害などの際早急に間に合ふことになると思ふ。

瓦を下地に留めるには、釘打とする場合と銅線吊りとする場合あるが、後者の方が後の故障が少い。

釘は亞鉛鍍金のものが良い。引掛桟瓦は桟を土居葺の上に打ちつけてこれに引掛るのである。

瓦の下の土の敷方はベタ土と眞土と耳土とあるが、眞土敷の方が良い。これは瓦の竪の中心線のみに土を敷いて兩端をすけておく方法である。土にセメントを少量入れて瓦を敷くと固着が良いものである。

昭和十年度阪神防空演習に於ける夜間操業中の工場の燈火管制狀況調査報告

都市武裝促進委員會演習部

序

本年10月12·13兩日に亘りて行はれた阪神防空演習は昨年7月末日施行された近畿防空演習に比して範圍も狹く、且昨年度特に力を入れて實施された建築物の僞裝遮蔽は全く行はれなかつた。民間側に於て實施された主なるものは大阪市防護團が下記の如き三種の區分に依つて12日午後1時より翌12日午前8時迄の間に其れぞれ各防護團員の訓練が行はれた

1. 市防護團に於て統制實施するもの
2. 特に區防護團長に於て統制實施するもの
3. 各分團に於て實施するもの

又各工場防護團に於ては工場防護團本部の統制下に

1. 主要部分の破壞に對する應急處置
2. 燈火管制下の作業能率低下の防止の研究
3. 瓦斯彈痕地帶の消毒と被害人員の救急

等の內より適當に選定し、各々工場防護團員の訓練が行はれた。

當部に於ては本年は

1. 夜間操業中の工場に於ける燈火管制狀況の調査
2. 防護演習の實況調査
3. 燈火管制狀況視察

を行ふことゝした。

本報告は其の一部にして大阪班は工場防護團本部に於て特に優秀なる燈火の遮蔽を行ふものとして指示されたる多數工場中の12工場を選んで三班に分ちて各工場を調査した。

第一班調査員　中井新一郎
匂坂弘美
元吉勇太郎

1. 三好ガラス工場

位　置	浪速區西圓手町
用　途	ガラス工場
構造種別	鐵筋コンクリート、木造鐵板葺
遮蔽方法	
建物遮蔽	なし
燈火遮蔽	消燈、管制電球
其の他	熔融爐遮蔽

建物遮蔽は爲さず、ガラス工場の熔融爐を木製枠に鐵板を張つた衝立狀のもので圍み、夜間赤熱せる爐を遮蔽す、建物は相當古く、且作業の性質上二重屋根、側壁共に窓の部分はガラス戸無しの開放の儘である。爐の周邊部は溫度約 110°C で若し何等換氣裝置を施さずして建物遮蔽をなす時は工場內溫度は約 100°C 位迄上昇し到底作業に堪へない爲、地下冷房を必要とし經費の關係上早急に實現し難い、現在は作業時間は午後5時迄なれば、夜間は一部通路の管制電球を殘して他は消燈し赤熱せる爐の外廓のみを遮蔽すれば足りる。戰時夜間作業の必要ある時は現在の如き假設的衝立の代りに爐周邊部に保溫煉瓦を積み重ねる計畫あり。

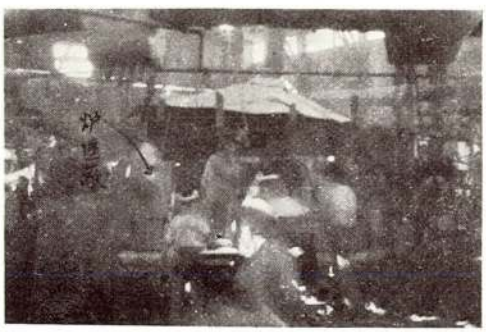
作業能率は爐或は建物の遮蔽の程度に應じて必然的に低下するのは又止むを得ない。



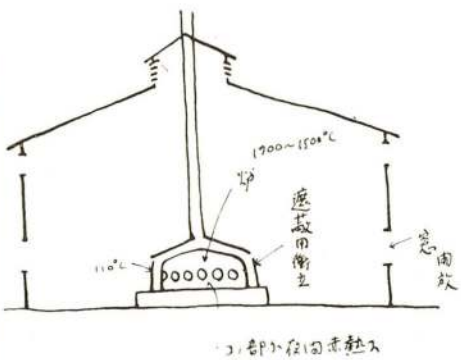
第1圖



第2圖・三好ガラス工場外觀



第3圖・三好ガラス工場　爐遮蔽



第4圖

2. 池田アルミニウム工場

位　置	浪速區稻荷町1丁目993
用　途	アルミニウム器具製造
構造種別	木造スレート葺
遮蔽方法	
建物遮蔽	防水布を窓及天窓の外側に張る
燈火遮蔽	管制燈、電壓降下
其の他	內部出入口、窓等にカンバス

本年は經費の關係で平面圖に示す如く製品工場、レース工場、洗鑛工場、包裝場、應接室等工場の左半分を遮蔽す、工場は木造スレート葺二重屋根を有し、採光は天窓及び高側光による、從つてその部分を黑色防水布を以て蔽ひ木製枠にて釘附け押へとなす。內部出入口にはカンバスをピ

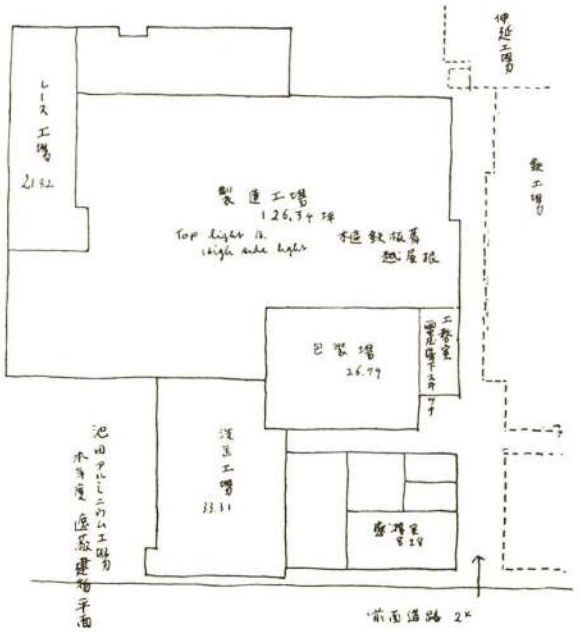
ンでとめて洩光を防ぐ、尙工務室に電壓降下裝置をなし、空襲警報と同時にスヰツチを入れて作業燈は 50～60 ボルト迄電壓を降下せしむ、黒色防水布による建物遮蔽は大體に於て成功し、日中外光は殆んど室内に入らざる程度であつた。

製品工場其の他は遮蔽の作業能率に及ぼす影響を調査する爲、特に徹夜作業をなし、その間各種防護演習を實施した。工場は窓に依る自然換氣の外何等機械的換氣裝置を有せざる爲遮蔽後工場内部は著るしく空氣の流通を阻止せられ室溫もほゞ3時間に約 3°C の上昇を示した。換氣の不足、室溫上昇は作業能率を低下せしむるもので、戰時長期間に亘つて遮蔽狀態にて作業を爲す時は工場内部の衞生的條件を如何にして有効に保持すべきか、今後この方面の實驗的研究の必要を認められる。

遮蔽に要した費用は他の工場と大同小異で防水布は巾 3.3 尺、長さ 30 尺で約 6 圓．材料費合計 500 圓位で其の他電壓降下裝置、管制燈．カンバス等合して工場全體で約 500 圓を要した。防水布を張る時一々釘押へをなさず短時間に遮蔽或は取外しをなし得る樣考慮する必要がある。



第5圖・池田アルミニウム工場　建物遮蔽



第6圖



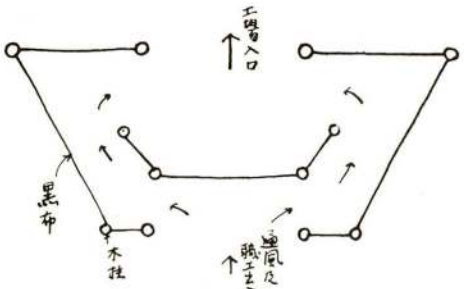
第7圖　燈火管制時作業燈

3. 久保田鐵工所

位　置	浪速區船出町 2ノ22
用　途	鐵工所
構造種別	鐵骨造鐵板葺
遮蔽方法	
建物遮蔽	防水布による天窓遮蔽
燈火遮蔽	消燈、電壓低下
其の他	通風を考慮した出入口の遮蔽

本年遮蔽したのは工場一部にして其の構造、鐵骨鐵板等の相當古い建物であつて採光は天窓のみによる、遮蔽には普通用ひられる黒色防水布を枠に張り付けたものを用ひ、同時に非常管制中は大きな燈火は消し、工場内部は電壓を60～70ボルト迄低下して作業を行つた。昨年はこの方法で作業中工場内溫度が上昇し通風も極めて悪かつたので本年は工場入口に第8圖に示す如き遮光、通風を兼ねた方法により比較的有効であつた。

天窓遮蔽費用は防水布約150圓其の他50圓程度であつた。



第8圖・出入口遮蔽の平面圖

4. 中山大陽堂

位　置	浪速區水崎町40
用　途	化粧品製造
構造種別	煉瓦及木造
遮蔽方法	
建物遮蔽	事務所一部黒色カーテン
燈火遮蔽	赤布にて蔽ふ
其の他	

本工場作業時間は午後5時半迄で夜間は作業なき爲工場には遮蔽をなさず、事務所の窓は黒色カーテンを引き、電燈は赤布を以て蔽ふのみで空襲を豫想する各想定の下に工場防護團は消防、防毒、避難等の演習を行つた。

第2班調査員　松井清之助　大宰二郎　西山卯三　荒木正己

5. 日産自保動車大阪工場

位　置	大正區南恩加島町1丁目
用　途	自動車製造工場
構造種別	木造鐵板葺
遮蔽方法	
建物遮蔽	天窓及ガラリ、庇にて蔽ふ、側窓、黒色カーテン及莚にて蔽ふ
燈火遮蔽	一部消燈、電燈黒布遮蔽
其の他	なし

夜間操業室、熱處理工場、約40坪、特に換氣に就いての考慮拂はれ居らず。

この工場内に熱源3ケ所あり、室内溫度相當高溫に達せるものの如し。

溫度測定方依頼せるに別表の如し。

熱處理工場燈火管制下作業室内溫度上騰記錄（昭和10年10月12日實施）

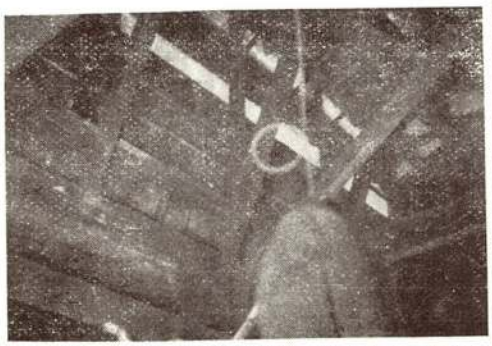
熱處理爐2基（第202號及207號）使用す（後に第201號及第207號に轉換す）

常時に於て同樣作業狀態に於ける溫度、攝氏23.5度、當日は窓及出入口を除き他は凡て遮蔽設備を施したる儘午前7時30分作業開始す。

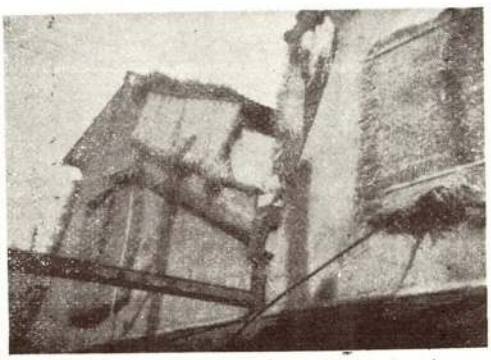
時	度
午後 5.30	攝氏 27.5（窓及出入口開放）
（午後5時30分完全遮蔽）	
同 6.00	28.5
同 6.30	30.0
同 6.50	31.0
同 7.10	31.5
（午後7時20分より同8時まで作業の都合に依り使用休止）	
午後 8.00	29.0
同 8.20	3.10
同 8.40	32.0
同 9.00	32.0
同 9.20	32.0
同 9.40	32.0
（午後9時50分新に2基使用、稍寒暖計に接近す）	
同 10.00	33.0
（午後10時10分前の2基使用中止）	
同 10.20	33.5
（午後10時30分作業中止）	以　上

常時使用燭光 60燭光×6

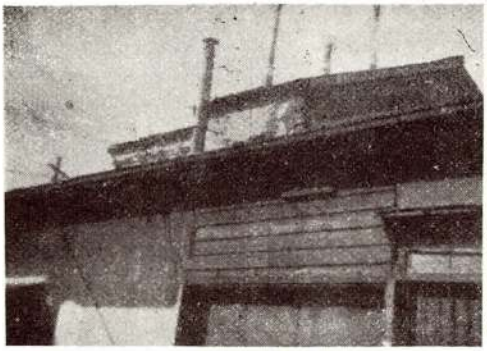
非常時 60燭光×3



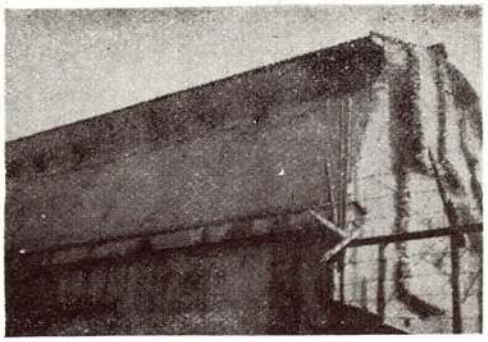
第9圖・日產熱處理室内部、白く見えて居るのが遮蔽に使用せる莚、前方蔽ひをかぶせた電燈



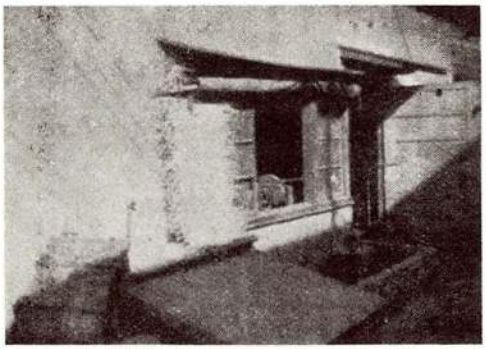
第10圖・日產熱處理室外部、莚による天窓及ガラリの遮蔽



第11圖・日產熱處理室外部、庇によりガラリの遮蔽



第12圖・日產熱處理室外部、北側ガラリ及天窓の遮蔽



第13圖・日產外部側窓、黑色カーテン及庇を使用せる遮蔽

6. 大阪製鐵株式會社

位　置	大正區南恩加島町6丁目
用　途	製鐵所
構造種別	鐵骨鐵板葺
遮蔽方法	
速物遮蔽	天窓、庇にて遮蔽、側窓、全部鐵板にて遮蔽
燈火遮蔽	一部消燈
其の他	出入口、二重に綠色シート

夜間操業室、平爐室

平爐前方吹放部分、長 200 m にわたり帆布を以て遮蔽す（黑色着色）

材料運搬用トロ出入口には特に綠色シートを間隔3間に二重に設け、出入に際し光のもれるを防ぎ工場內の連續作業をさまたげざるやう留意し居れり。

平爐前方の材料取入口には特に鐵板製、移動壁を設け材料取入に際し爐の强烈なる光をさえぎるやう注意せり。

平爐開口部前方を特に長 5 m、高 6 m 鐵板製衝立3枚にて圍ひ開口時の强烈なる光をさえぎるやう考慮せり。

夜間再調査なすに其効果相當認むべきものありしもなほ充分とは云ひ難し、一層の研究を要するものと認めらる。

常時使用燈　300 W×650　　非常時使用燈　60W×80

之だけの照明にては實際に當り作業困難を見たりとのこと、特に室內の換氣に注意し換

氣塔を設けたり。

7. 中 山 製 鋼 所

位　置	大正區船町5丁目
用　途	製鋼所
構造種別	鐵骨造鐵板葺
遮蔽方法	
建物遮蔽	天窓、ガラリ及側窓庇にて遮蔽
燈火遮蔽	電燈遮蔽
其の他	北方出入口、綠色帆布

ふ、カーテンは手にて捲上げる。

平爐開口部前方には巾 2 m. 高 3 m の鐵板製衝立を設く、効果充分ならず。

材料取入口、特別の裝置を設けず。

常時使用燈　300 W×36

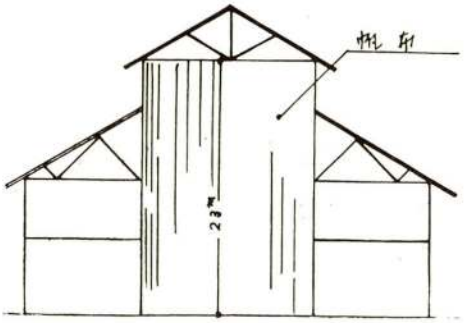
非常時使用燈　300 W×36

（蔽ひをかぶせる）

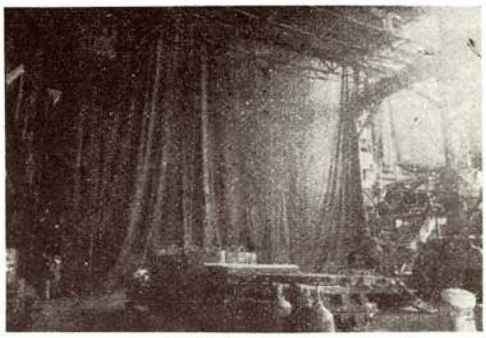
夜間操業室、平爐室　240 m×38.5 m

側窓、以前開放なりしを永久的に鐵板にて蔽ひ、採光窓の部分は庇に蔽ふ、取はずしのために足場を設け居れり。

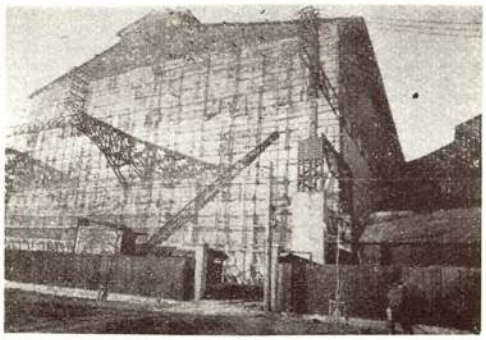
爐の開口部、綠色帆布のカーテンを蔽



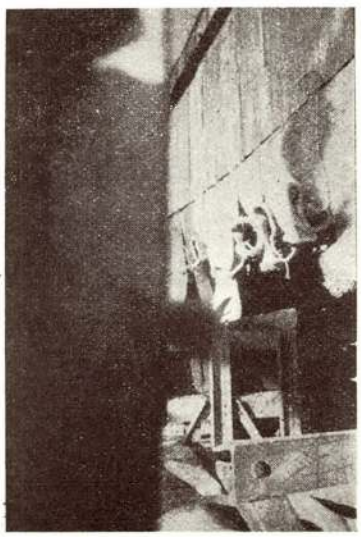
第14圖



第15圖・中山製鋼所平爐室南面、窓は庇にて遮蔽其取はづしのために足場は其まゝにしてある



第17圖・中山製鋼所平爐室、北側內部材料取入口、帆布製カーテンを示す



第16圖・中山製鋼所平爐室南面下部出入口、庇をつるせるを示す

第 3 班 調 査 員　　喜多村義雄
平野忠雄
村井進

8. 株式會社大阪鐵工所

位置　此花區櫻島南之町17番地

操業室

用　途　仕上室
構造種別　木造、生子板葺、平家建
建築面積　約160坪
常時電燈數　約 40 燈

遮蔽方法

方法別	警戒管制時	非常管制時
建物遮蔽	行はず	同左
開口部遮蔽	黒色引幕に依る	同左
燈火遮蔽	各燈黒布遮蔽	同左
消燈又減燭	行はず	8燈消燈

9. 住友金屬工業株式會社伸銅所

位置　此花區島屋町56番地

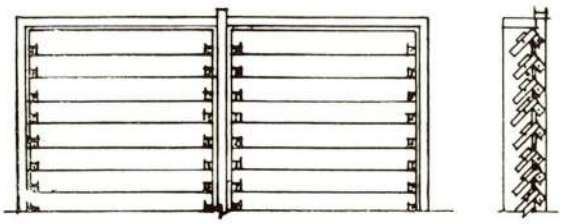
操業室

用　途　鑄造旋盤工場
構造種別　鐵骨造、平屋建
建築面積　225坪
常時電燈數　——

遮蔽方法

方法別	警戒管制時	非常管制時
建物遮蔽	行はず	同左
開口部遮蔽	行はず	同左
燈火遮蔽	各燈黒布遮蔽	同左
消燈又減燭		青紫色電燈に切替

前回の演習に於ては非常管制下に作業を續行する工場に在りては外部の遮光を完全にするためトタン板若くは黒色布を以て窓、出入口を遮蔽したるを以て内部は平常通りの光度に保ちたるも外部に光は漏れず作業場の光度低下は問題とならざりしも遮蔽裝置のために空氣の流通不充分となり溫度、濕度の上昇、空氣の汚濁等のための作業能率低下が問題であつた。此に對して、今回は青紫色電球を用ひ遮光裝置を廢したり。上記鑄造旋盤工場内に取付けたる青紫色電球數は 100 W 30 燈、60 W 15 燈、計45燈（390 W）にして、警戒管制時には黒色布にて覆ひたる普通照明燈によりて照明し、非常管制發令と同時に變電所にて該青紫色燈に切換へたり。



第18圖　遮光鎧戸

變電所にては、電燈は平常の儘とし、窓の全部に黒色布を取付けて遮蔽せり。

來賓食堂にては、電燈は平常通りとし、窓に鎧戸を取付けたり（第18圖）之は黒色布に比し換氣良好なり。

10. 住友金屬工業株式會社製鋼所

位置　此花區島屋町246番地

燈火管制を實施せる工場は次の如し。

製鋼工場（建築面積 6,727 m²）

鑄造工場（　〃　13,703 m²）

旋盤工場（　〃　16,478 m²）

鍛壓工場（　〃　10,990 m²）

平常の光度

製鋼、鑄造、鍛壓工場にては

20～30 ルーメン、旋盤工場にては 80～100 ルーメン（使用電球は 200 W 及 300 W）

警戒管制中の處置

全部黑布覆を使用す（一部消燈せる所もあり）

非常管制中の處置

開口部に遮蔽を施せる工場以外は全部消燈せり。

11. 汽車製造株式會社

位置　此花區島屋町406番地

昨年度の實施經驗に徵し、該工場の遮光裝置は各硝子窓にアスファルト、フエルトを張りて窓硝子及出入口を閉づる時は遮光は完全に出來得るも、室內溫度の上昇と通風不完全のため、從業員の疲勞甚しく、操業長時に亘る時は相當能率の低下あるべきにより、今回は遮光を充分ならしむると共に、通風をも充分にして、溫度及濕度の上昇を防ぎ、操業長時間に亘るも從業員の疲勞による能率低下を無からしめん事を期せり。

實施せる建物の概要次の如し。

用　途　旋盤工場

構造種別　木造、生子板葺、平家建

建築面積　200坪

常時電燈數及燭光數

32 c.p. × 37個 = 1184 c.p.
16 c.p. × 11個 = 176 c.p.
} 1360 c.p.

200 W × 17個 = 3400 W
60 W × 1個 = 60 W
500 W × 1個 = 500 W
} 3960 W

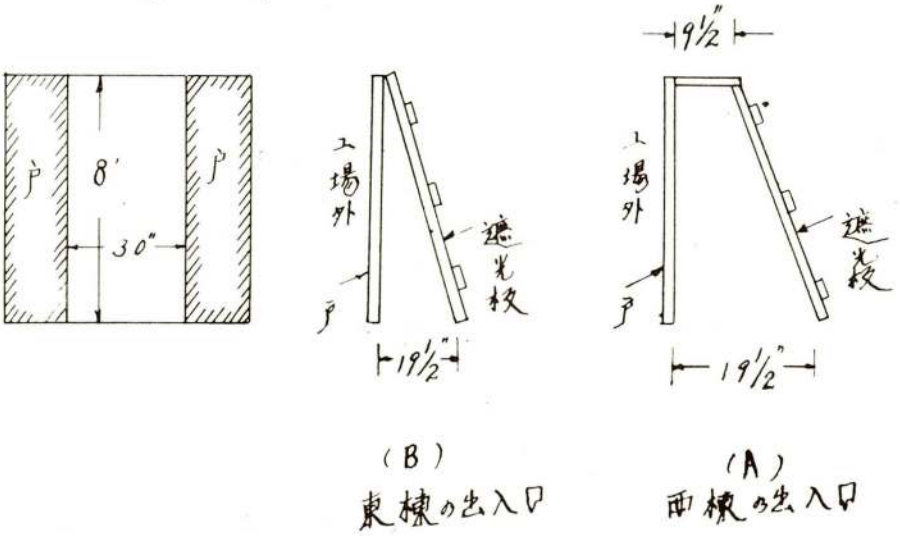
遮光の方法

硝子戸及天窓は全部黒色アスファルトを張りて遮光す。然して通風を充分ならしめる目的を以て別圖（19圖）（20圖）の如く南北の出入口四ケ所並に東西の窓八ケ所を各30吋宛開き、その內側に圖示の如く A, B, C 三種の遮光板を立てたり。遮光板には黒色スファルト、フエルトを張りその大さは

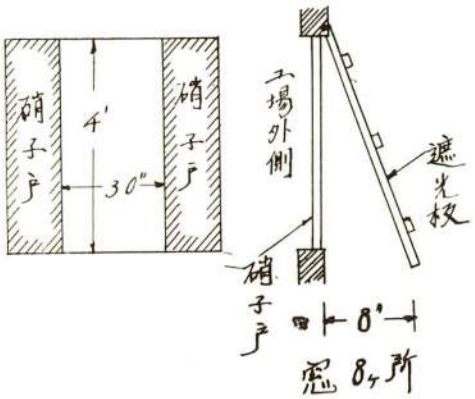
A. 高111吋×巾72吋　下側に於ける窓枠との間隔　$11\frac{1}{2}$″

B. 〃 111吋×〃 72吋　〃　16″

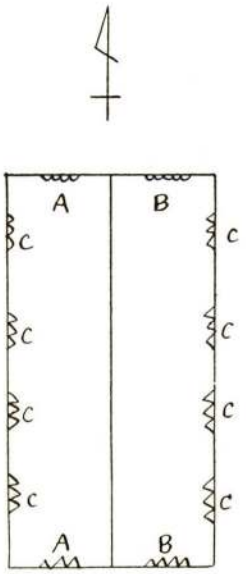
C. 〃 70吋×〃 65吋　〃　8″



第19圖　出入口遮光板略圖



第20圖　窓遮光板略圖



第21圖・遮先板設置個所
（工場平面）

尙10月12日午後4時30分より7時までの2時間半の間上記の如く遮光及換氣裝置をなし室內電燈は平常通りとなしてその溫度並濕度の變化を測定せる結果別表（第1・2表）の如し。

12. 古河電氣工業株式會社大阪伸銅所

位置　北區天神橋筋四丁目24番地ノ1

非常管制下に於て平常作業を繼續する方針の下に全工場に對し燈火管制計畫を樹て其の內今回は特に基本的操業工場たる鑄造工場、變電所、汽罐室並に事務室に對して實施せり其の概要次の如し。

用　途　鑄造工場（眞鍮熔解用）
構造種別　煉瓦造、スレート葺、平家建
建築面積　120坪

本工場の爐より發する火焰及酸化亞鉛の白煙に對する遮光工作は最も困難にして又操業の性質上特に換氣必要なるを以て今回此二點に關し研究實施せんとせり。即ち工場外部、隣接工場との通路に葭簀及黒布を張り、又現在のアスピレーター（瓦斯拔設備）を一層有効ならしむる方法を講ずると共に屋根空氣拔に對しては莚及黒布等を以て爐光を直接、間接に隱蔽せんとせり（第22圖）。尙作業上の溫度の上昇を試驗せるに別表（第3表）に示す如く比較的影響の少きを知れり。

用　途　變電所
構造種別　煉瓦造、銅板葺、平家建
建築面積　66坪

本變電所には 500 W 3個、60 W 4個、40 W 5個、20 W 3個の電燈を有す。之に對し非常管制の際は 50 W, 100 W 各一個を殘して他は全部消燈す。殘されたるものに對しては黒布により遮光せり。

用　途　事務室
構造種別　木造二階建

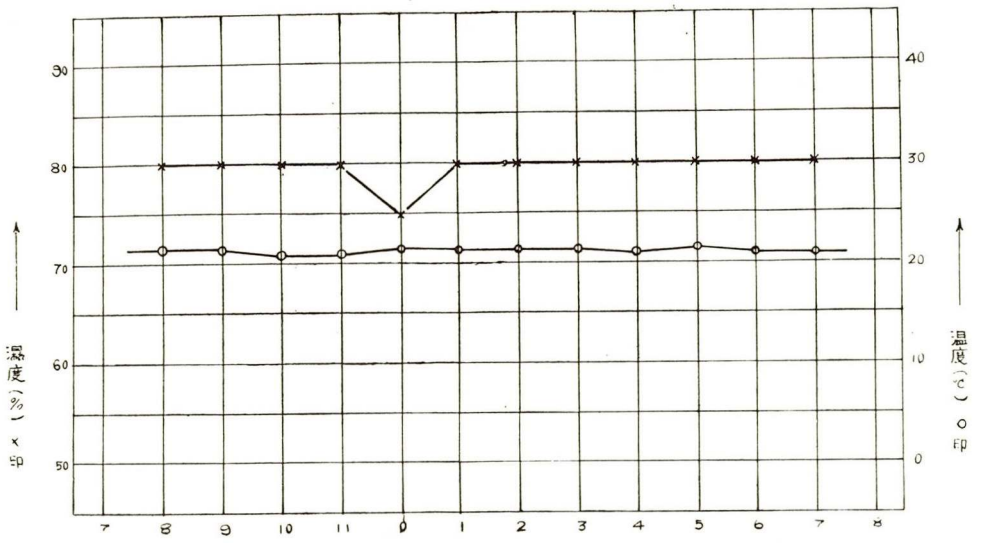
室內照明は平常通り 100 W 3個とし窓は黒色カーテン遮光鎧戶（第23圖）を使用し、更に東西兩側には葭を張れり。

用　途　汽罐室
構造種別　煉瓦造、浪板葺、平家建
建築面積　94.6 坪

本汽罐室は 100 W 10個、40 W 10個電燈を有す。此の內非常管制の際は、8個は反射笠を使用し、他は消燈せり。尙反射光線の遮蔽のため南側窓は黒色布幕を張れり。

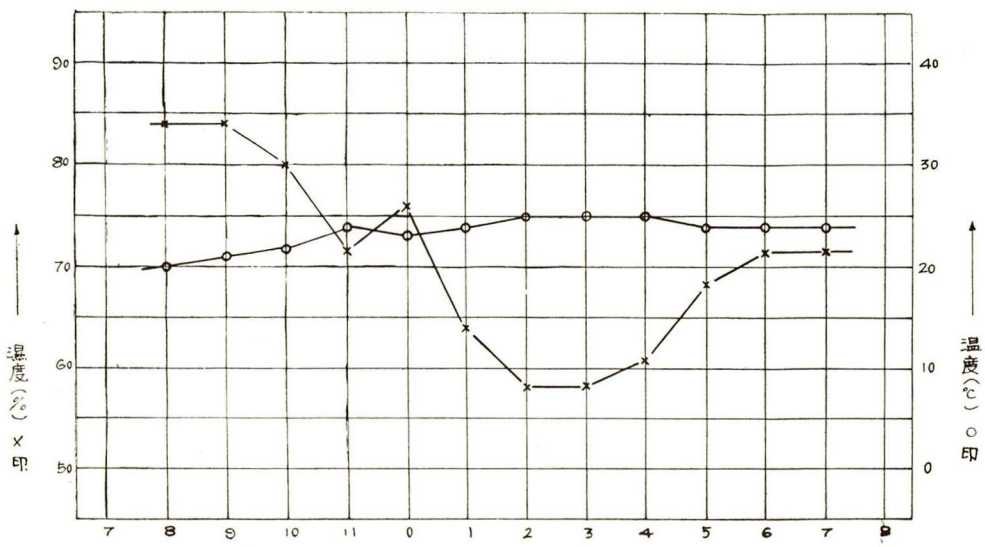
第1表・旋盤新工場内溫度並濕度表

昭和 10 年 10 月 11 日

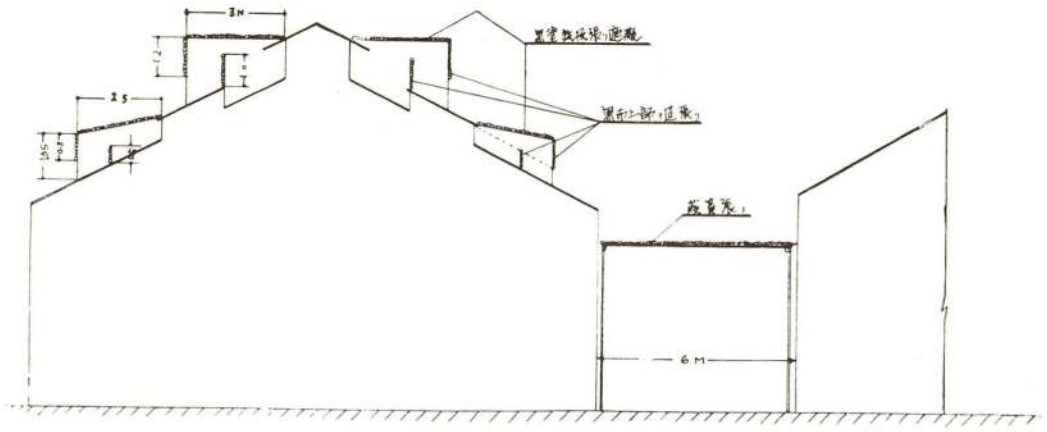


第2表・旋盤新工場内溫度並濕度表

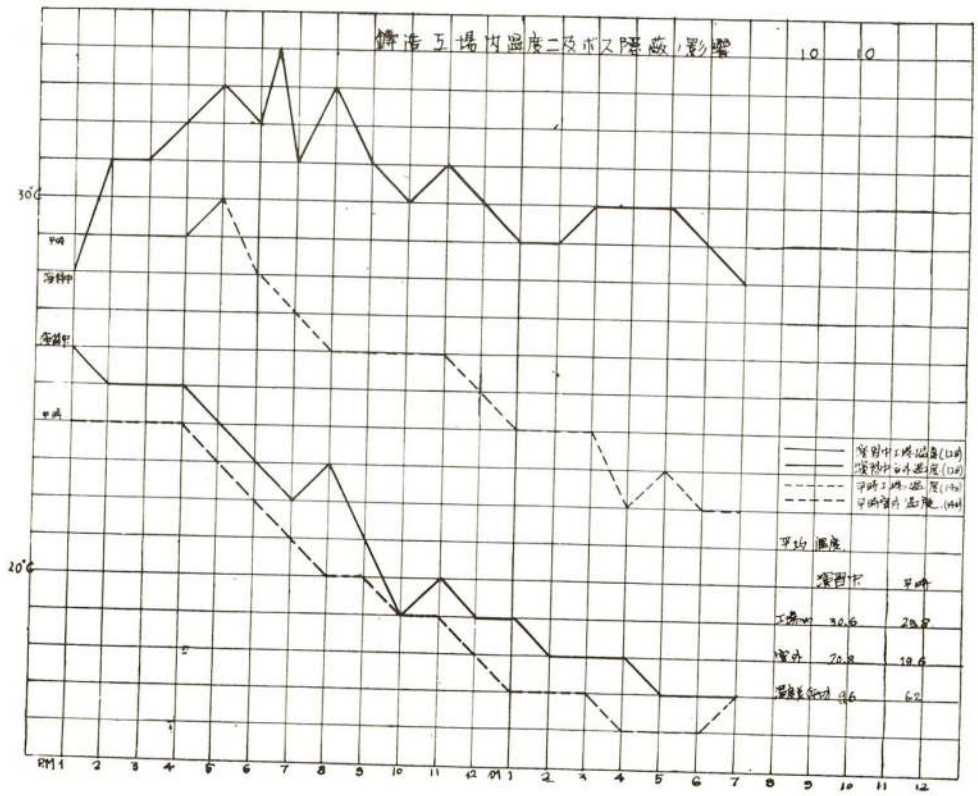
昭和 10 年 10 月 12 日



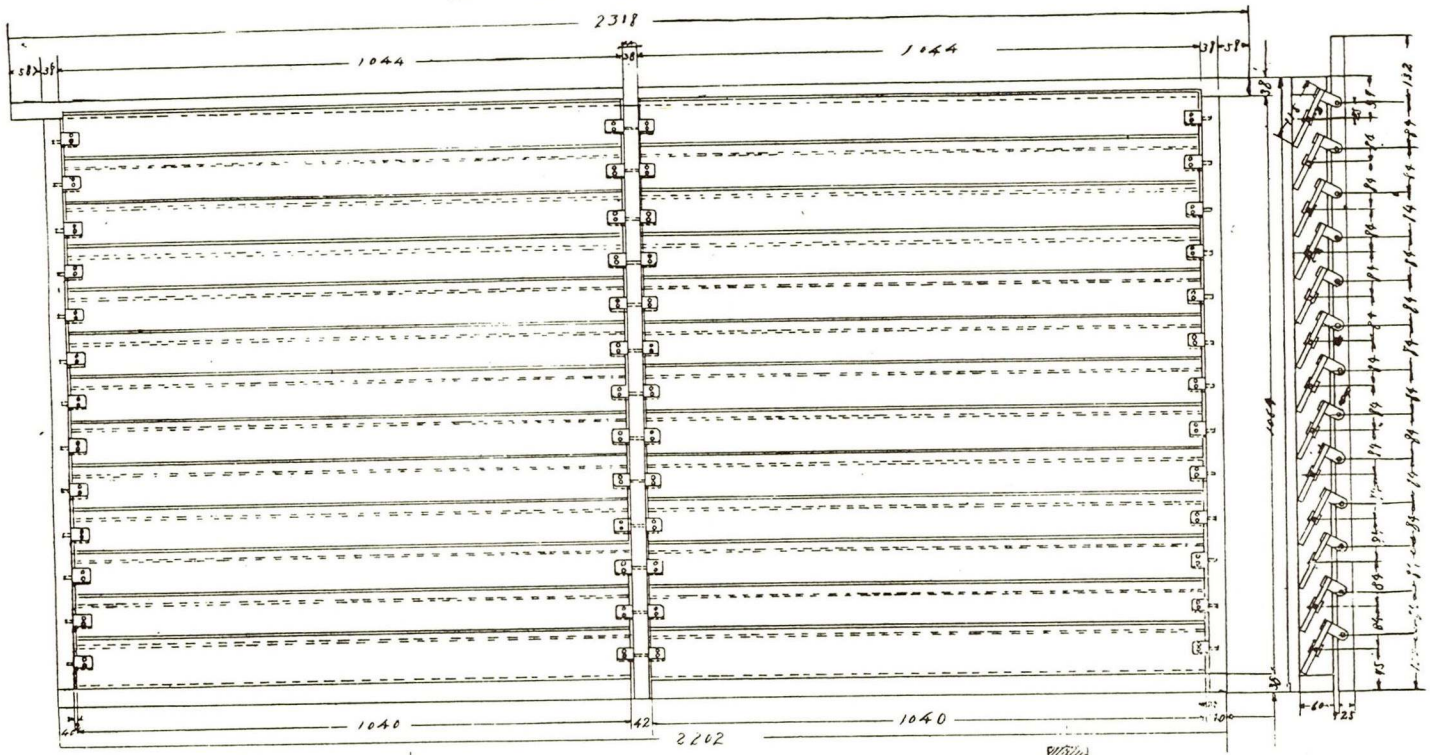
第 22 圖 • 鑄造(電氣爐)工場遮蔽略圖



(第　3　表)



第 23 圖・遮　光　鎧　戸



木材市場品規格調査委員會報告

昭和 10 年 10 月 23 日

木材市場品規格調査委員會 委員長 高 橋 榮 治

日本建築協會會長 片 岡 安 殿

木材市場品規格調査に關し昭和10年 4 月 23 日初會を開き爾來委員會を開會し愼重檢討調査研究すること 11 回 10 月 22 日開會の最終委員會に於て別紙の通成案を得候間此段及報告候也

木材市場品稱呼及寸法規格案 (10. 10. 23)

1. 寸法は總て耗單位とす
1. 稱呼は大さを表はす數字を用ゆるものとす
1. 長さは次の6種とす 1.00米、1.92米、3.20米、4.00米、5.10米、6.00米

角 物

稱 呼	大 さ	用 途	曲 尺
20角	20×20耗	小桟物、小舞、瓦桟等	.066尺
30 〃	30×30 〃	棹線、小舞、瓦桟、釣木、膨子、見切緣、小桟等	.099 〃
40 〃	40×40 〃	棰木、胴緣、間柱、假枠桟、釣木、膨子、見切緣、野緣、瓦棒等	.132 〃
50 〃	50×50 〃	棰木、根太、野緣、廻緣、間柱、假枠桟、瓦棒等	.165 〃
60 〃	60×60 〃	同 上	.198 〃
70 〃	70×70 〃	小柱、根太等	231 〃
80 〃	80×80 〃	同 上	.264 〃
90 〃	9 ×90 〃	小柱、根太、假枠、バタ、母屋等	297 〃
100 〃	100×100 〃	柱、大引、假枠、バタ、母屋等	.330 〃
110 〃	11 ×110 〃	同 上	.363 〃
120 〃	120×120 〃	柱、大引・母屋等	.396 〃
130 〃	130×130 〃	同 上	.429 〃
140 〃	140×140 〃	柱、小梁等	.462 〃

150 〃	150×150 〃	同　上	.495 〃
160 〃	160×160 〃	同　上	.528 〃
170 〃	170×170 〃	同　上	.561 〃
180 〃	18 ×180 〃	同　上	.594 〃

胴　縁

45胴縁	幅 45 〃 厚 15	胴　縁	幅 .1485 〃 厚 .0495
50 〃	〃 50 〃 20	同　上	〃 .165 〃 .066
55 〃	〃 55 〃 25	胴縁、野縁、桟木等	〃 .1815 〃 .0825
60 〃	〃 60 〃 30	同　上	〃 .195 〃 .099

平　角

40平角	幅 40 〃 厚 30	棹縁、壁紐、見切縁、附鴨居、小桟等	幅 .132 〃 却 .099
50 〃	〃 50 〃 40	棹縁、壁紐、見切縁、附鴨居、椎木、小根太等	〃 .165 〃 .132
60 〃	〃 60 〃 40	半長押、壁紐、見切縁、椎木、小根太等	〃 .198 〃 .132
70 〃	〃 70 〃 50	根太及化粧根太、間柱、桟木、附鴨居、椎木、一ト筋、手摺	〃 .231 〃 .165
80 〃	〃 80 〃 50	同　上	〃 .264 〃 .165

割

90割	幅 90 耗 厚 30	板掛、筋違、笠木、棚材、水切、庇用材等	幅 .297 尺 厚 .099
100 〃	10 〃 40	欄間、敷鴨居、筋違、間柱、根太掛、笠木、水切根太、椎木掛、庇用材等	〃 .330 〃 .132
110 〃	110 〃 50	同　上	〃 .363 〃 .165
120 〃	120 〃 60	同　上	〃 .396 〃 .198

板　子

30板子	厚 30 幅60以上20ヒ	戸桟、階段板、戸袋妻板、破風鼻隠、壁紐、地板、棚板幅木、額縁、上ヶ板及流板、膳板入口枠、窓枠、雨押、鴨居等	厚 .099 幅 .198以上.066ビ
40 〃	〃 40 〃 80	同　上	〃 .132 〃 .264
50 〃	〃 50 〃 00	鴨居、入口枠、窓枠、額縁、甲板等	〃 .165 〃 .330
60 〃	〃 60 〃 120	小割用	〃 .198 〃 .396
70 〃	〃 70 〃 140	同　上	〃 .231 〃 .462
80 〃	〃 80 〃 160	同　上	〃 .264 〃 .528
90 〃	〃 90 〃 80	同　上	〃 .297 〃 .594

盤

100盤	厚100 幅150以上20ビ	梁、胴差、桁、桷、框、小屋材及小割用	厚 .330 幅 .495以上.066ビ
110 〃	〃 110 〃 150	梁、胴差、桁、桷、框、小屋材及小割用	〃 .363 〃 .495

120 〃	〃 120 〃 150	同　上	〃 .396 〃 .495
130 〃	〃 130 250以上20とび	同　上	〃 .429 〃 .495
140 〃	〃 140 〃 250	同　上	〃 .462 〃 .495
150 〃	〃 150 〃 250	同　上	〃 .495 〃 .495

長　押

100長押	幅 100粍 摘 40 端 8	長押、軒先廣小舞、内法長押、天井長押等	幅 .33 摘 .13 端 .0264 尺
110 〃	〃 110 〃 45 〃 8	同　上	〃 .36 .15 .0264
120 〃	〃 120 〃 50 〃 8	同　上	〃 .40 .165 .0264

樓　板　（片面削仕上本實付　幅は働寸法を示す）

9 クレ	厚 9以上10より 幅 70150止り	天井、羽目其他	厚 .0297 幅 .231 以上
12 〃	〃 12 〃 70 〃	同　上	〃 .0396 〃 .231
15 〃	〃 15 〃 70 〃	床、天井、羽目	〃 .0495 〃 .231
18 〃	〃 18 〃 70 〃	床、羽目	〃 .0594 〃 .231
21 〃	〃 21 〃 70 〃	床	〃 .0693 〃 .231
24 〃	〃 24 〃 70 〃	同　上	〃 .0792 〃 .231

板　（幅最小140以上20とび）

稱呼	厚さ	用途	厚曲尺
6ミリ板	6 粍	下見板、天井板、羽目板、野地板及化粧野地、庇裏板、戸板、障子腰板、板塀、蹴込板、幕板	厚 .0198尺
9 〃	9 〃	羽目板、下見板、野地板及化粧野地、屋根裏板、庇裏板、天井板、ドア腰板、障子腰板、戸板、蹴込板、幕板、板塀、圍板	〃 .0297 〃
12 〃	12 〃	床板、羽目板、下見板、屋根裏板、庇裏板、圍板	〃 .0396 〃
15 〃	15 〃	床板、羽目板、天井板、幅木、上ケ板及流板、破風板、鼻隱、雨押、屋根板、蹴込板、棚板	〃 .0495 〃
20 〃	20 〃	床板、羽目板、幅木、上ケ板及流板、棚板、破風板、鼻隱、雨押	〃 .066 〃
25 〃	25 〃	同　上	〃 .0825 〃
30 〃	30 〃	床板、羽目板、幅木、上ケ板及流板、棚板、破風板、鼻隱、雨押、階段板	〃 .099 〃
40 〃	40 〃	同　上	〃 .132 〃

樋

稱呼	大さ	用途	曲尺
12貫	厚 2 幅 c0粍	通貫、雨押、壁下地、簀子、板塀胴緣、ガラリ羽板、	厚 .0396 〃 幅 297
15 〃	〃 15 〃 100	通貫、雨押、壁下地、簀子板、塀胴緣、ガラリ羽目、鼻隱、笠木等	〃 .0495 〃 .33
20 〃	〃 20 〃 110	通貫、雨押、壁下地、簀子、鼻隱、笠木、板掛板塀胴緣ガラリ羽板	〃 .066 〃 .363
25 〃	〃 25 〃 120	同　上	〃 .0825 〃 .396

木　摺

30木摺	幅 30 〃 厚 9	木摺及掛け込み小舞野地等	幅 .099 〃 厚 .0297
35 〃	〃 35 〃 9	同　上	〃 .1155 〃 .0297
40 〃	〃 40 〃 9	同　上	〃 .132 〃 .0297

大阪府下水害報告

—昭和10年6月29～30日—

災害強度委員　松井清之助
元吉勇太郎

1. 序

昭和10年6月28日夜來の雨は29日午前9時に至つて急激に 50 mm の豪雨と化し、各河川の水量は急増し就中三島郡芥川、安威川、茨木川其の他の諸川が氾濫した爲、大阪北部一帶は大洪水の洗禮を受け、田畑家屋の浸水橋梁の流出等算なく、交通通信機關の杜絶、人畜の死傷等多大の損害を蒙つたが午後4時頃に至り、全く降雨止み各河川は漸く減少の徴を示した。同日夕刻浸水區域の漸減に反し各河川沿岸の流水を合せた大淀川は刻々増水し、午後4時頃に至り増水量實に 455 cm に急騰し、堤防決潰の危險に瀕したが午後6時頃より漸次減水し漸く愁眉を開くに至つた。然るに30日拂曉再び襲來した豪雨は



今里新地附近



豐能郡服部市場附近

雨脚を大阪南部に向け、午前4時より同9時に至る間總計93 mm の雨量は泉南郡男里川、泉北郡槇尾川其の他の諸川貯水池の氾濫、堤防の決潰を來し、或は山崩れ橋梁の流出等前日同様多大の被害を與へ、午前10時頃に至り漸く減水の徴を見るに至つた。

今回の豪雨は明治29年8月30日淀川大洪水に次ぐ大記錄を示し、浸水區域は市內に於て341ヶ町、郡部に於て13ヶ町154ヶ村の廣大なる地域に及び、氾濫決潰の河川數22決潰箇所103・橋梁流失81. 死者7. 負傷者196. 倒壞家屋271. 流失76. 床上浸水 11,642. 戶床下浸水78,263戶に及べるのみならず、田畑の浸水11,754町に上り農業は多大の被害を蒙つた。

（尙各種被害の詳細統計は建築雜誌の大阪府下水害報告を參照）

2. 雨　量

i) 大阪測候所に於ける觀測

月　日	雨　量	風　速
6.28	4.8mm	SW 7.8 m
6.29	183.2 〃	W 9.8 〃
6.30	30.4 〃	SSW 8.3 〃
7.1	5.5	SW 6.8 〃



阪急電鐵服部附近

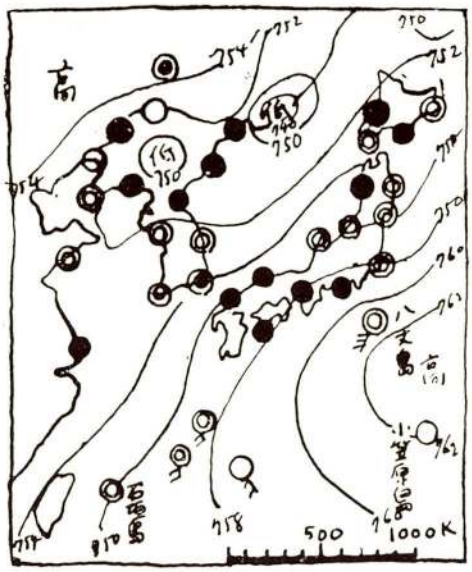


三島郡玉島村



三島郡玉島村

29日 6 P.M. 天気図



同11時～午後4時　29.7

6月30日　富田林土木出張所雨量計観測

mm

午前4時～午前9時　總雨量 93.0

ii) 大阪測候所　管内に於ける6月29日とり7月1日午前10時迄の雨量

mm

枚方町	16.15
深日村	255.5
富田林町	113.8
鳳　町	184.8
東郷村	232.8
長野町	179.6
堺　市	239.2
八尾町	167.2

iii) 降雨の狀況(府立測候所雨量計觀測)

6月29日

mm

午前5時～午前8時　總雨量 17.4

同8時～同　11時　107.8

3. 浸水區域圖

大阪府下浸水區域圖は各警察署調査と實地調査の結果を集成せるもので、6月29, 30日及8月10, 11日兩度の浸水區域を同一圖面に描いて兩者の比較對照に便なる様にした。尙市内の浸水區域は圖を煩雜にする爲比較的浸水程度のひどかつた部分のみを記入した。再度の水禍の爲廣大なる區域を浸された三島、豊能兩郡の如き河川改修の緊急なるは勿論の事ながら、豪雨或は高潮の度毎に浸水の苦杯を嘗める大阪市内低地區の地上も亦深く考慮さるべきである。

4. 建築物被害

今回水害に於ける建築物の被害は大阪市内半潰4郡部全潰38. 半潰229. 流失76で被害の主なるものは

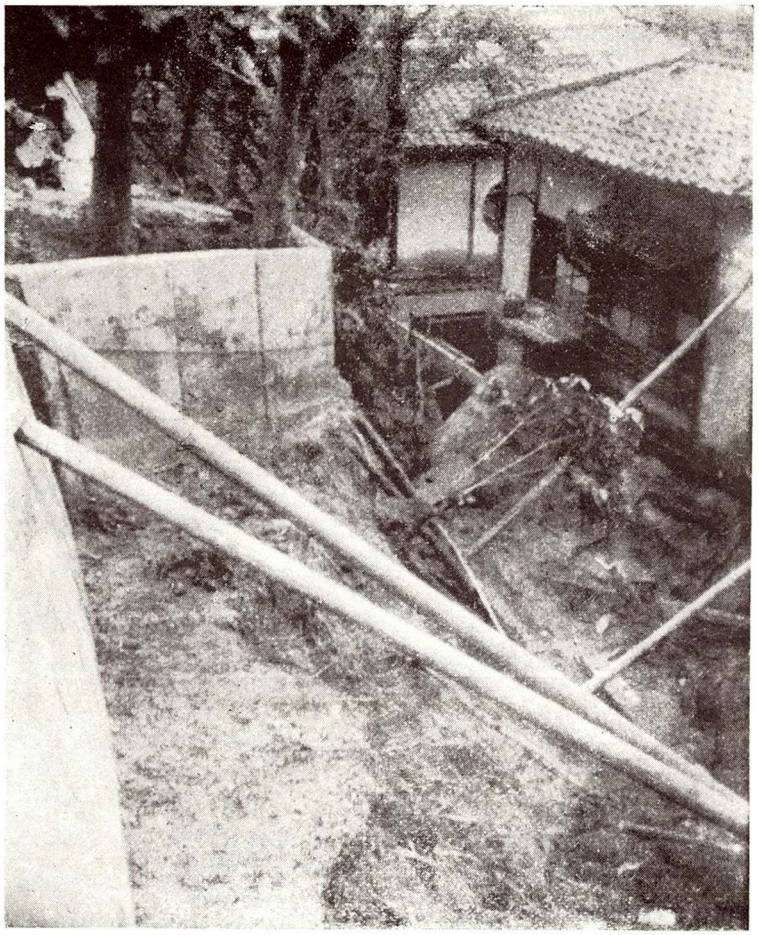
i) 豪雨の爲崖崩れにより倒壊せるもの

ii) 急激なる出水氾濫の爲流失、倒壊せるもの

iii) 出水の爲建物の基礎を洗はれ軸部に被害を蒙りしもの

昭和十年 夏期 水害に依る
大阪府下浸水區域圖





住吉區山王町崖崩れ



三島郡茨木町役場附近浸水狀況

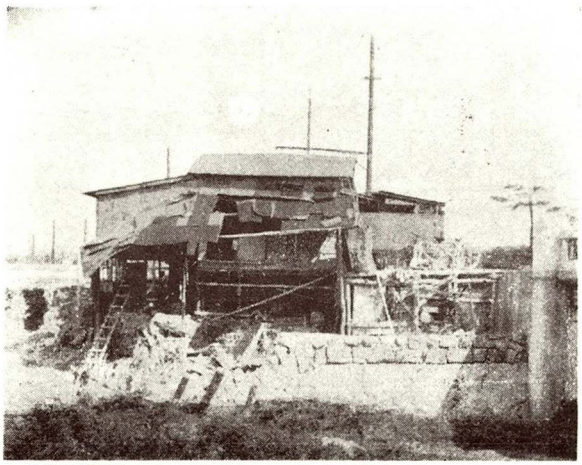
の三つに大別出來る。

大阪市內では6月29日朝住吉區山王町で崖崩れの爲納屋3戸が下敷となり全壞し、同じく同町でコンクリート高塀高1丈巾8間が倒壞し住家5戸半壞した外、浸水家屋の多かつた割に建物被害は僅小であつた。

郡部で出水被害のもつとも甚しかつたのは三島、豊能の兩郡で、家屋の流出倒壞したものが多いが概ね小住家の類である。建物被害に就ては第2回水害報告に詳しく且被害の種類は大同小異に就き寫眞によつて數例を示すに止める。



三島郡山王町コンクリート塀倒壊による建物被害



千里川氾濫による沿岸家屋の被害（豐能郡）

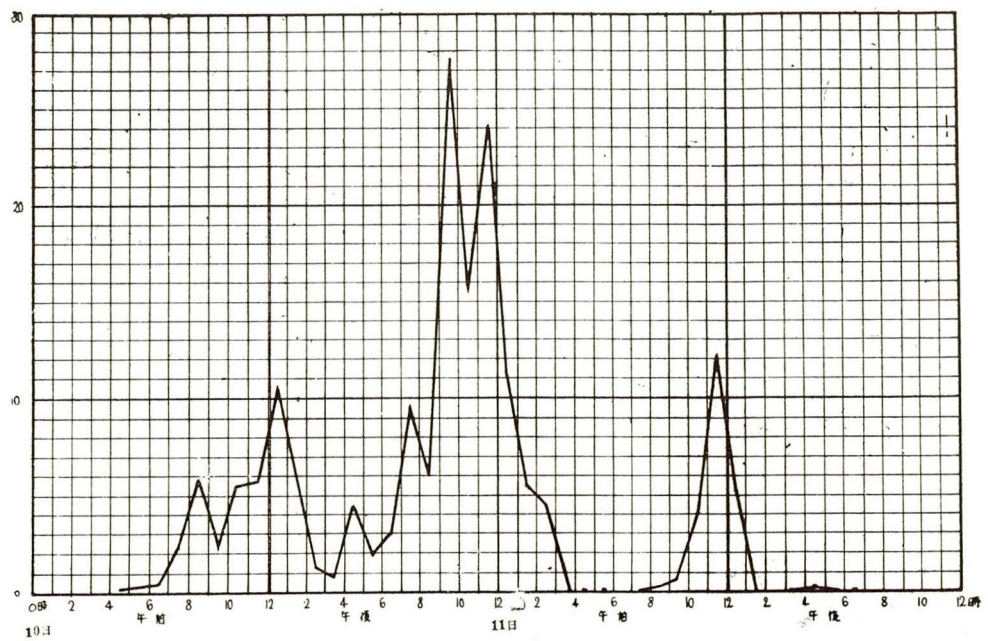
昭和10年8月10・11日
豪雨による大阪府下再度の水害

災害强度委員　中井新一郎
勾坂弘美
元吉勇太郎

氣象概況

昭和10年8月10・11日阪神地方は本年に入つてから再度の大水害を蒙つた。9日夕刻東支那海にあつて二つに分裂した颱風の中心（中心示度共に744 m.m）は十日正午その前驅が下關の北方 100 k.m の海上に進んだが、11日朝には九州北部に於て兩者相合して一つに纏り午前6時大分附近にあり、爾後東進して同日正午大阪の南を通過し夕刻には濱松附近にあり、更に東方へと去つた。この颱風は大した風を伴はなかつたが、その前面に稀に見る豪雨をもたらしたのである。

大阪市勝山通りにある大阪測候所の記錄によれば（第1圖參照）10日午前4時頃から 又



第1圖・大阪測候所に於ける一時間降雨量

降り始めた雨は次第にその強さを増し、正午12時から1時までの降雨量 10.7 m.m に達しその後一時勢力を潜めたが、夕刻より又々豪雨となり、同夜9時より10時までの1時間雨量 27.6 m.m を最高とし 10～11 時間の 15.5 m m. 11～12 時間の 24.3 m.m. 12～1 時間の 11.2 m. 1～2 時間の 5.4 m.m となつて流石の大豪雨も次第に衰え，11 日朝には一時止むと見えたが正午近く颱風が大阪の南方を通過するに當つて又降り續き、11～12時間の降雨量 12.3 m.m を頂點として、同日夕刻驟雨性と變じ、午後7時前には全く止んだのである。第2圖は9日より11日にわたつて總計した大阪府下の降雨量圖である。

被害の概況

この間、1 時間の降雨量が最高であつた10日午後9～10時前後から翌11日の早朝にかけて豪雨による被害が相續いて報ぜられるに到つた。大阪市内では浸水家屋の續出、地下鐵工事と關聯して家屋地盤の陷沒（第3圖）等々。府下では茨木川、安威川、芥川、箕面川、千里川等々の溢流、堤防決潰が相次で起り家屋、橋梁の流失、倒壞又は浸水となり、家屋、交通設備等の工作物はもとより、人畜、農作物にも可成りの被害を算するに到つた。

浸水區域を主とする水害の分布狀態は第1回水害報告に示してある。寫眞版として揭げた工作物個々の被害狀態に從つて、今家屋構造と云つた方面から當時の水害狀況を定式化すれば或は次の様なものであらうか。

1) 地盤の高低、排水の不完全等と相俟つて降雨そのものから直接に起る家屋浸水は暫く措くとすれば、水を含んで軟弱となつた地盤土壤の移動或は山崩れ等より生ずる被害（例へば第3，第19，第22圖等）。

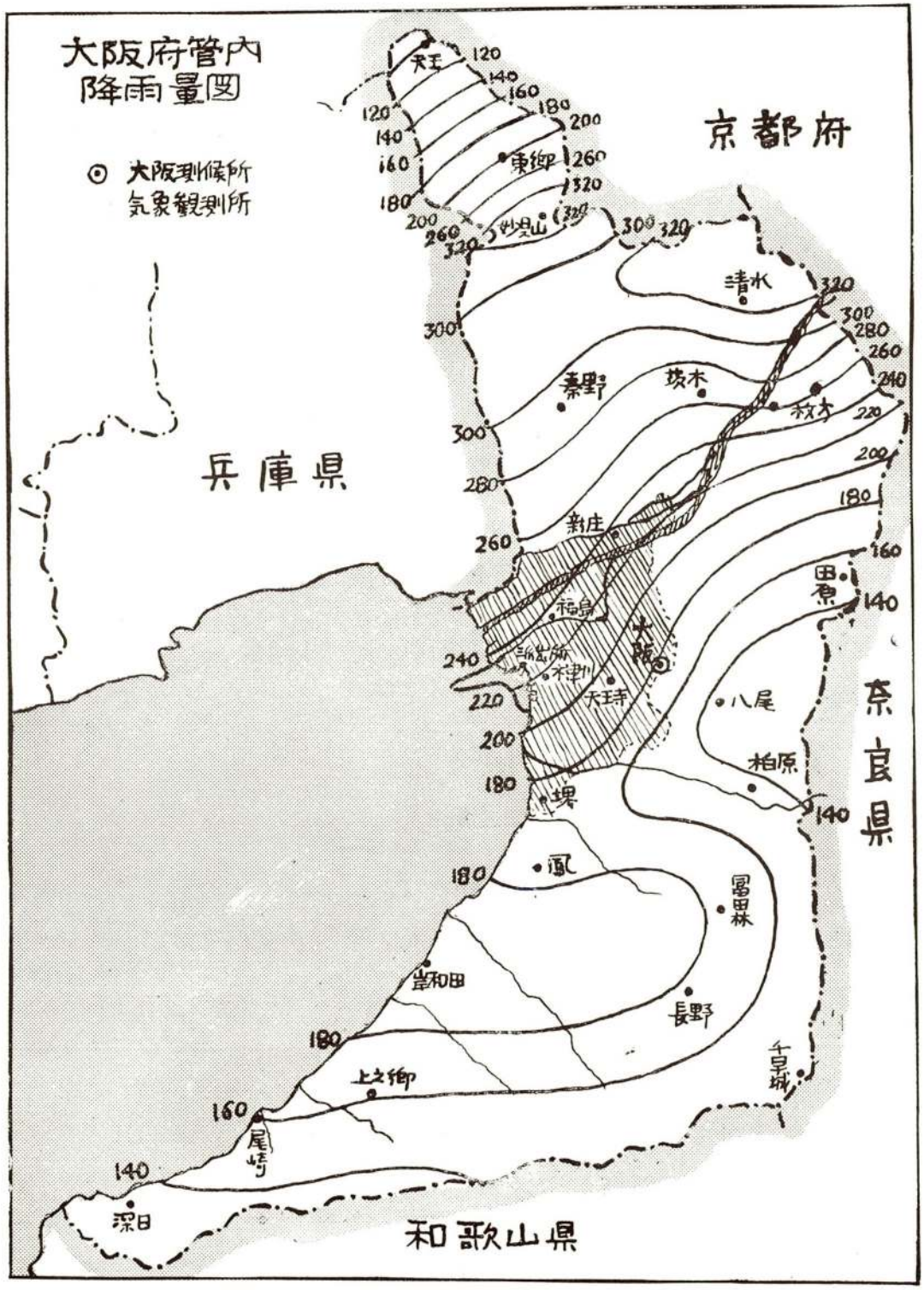
2) 一度河川に集つた雨水が河川敷内を奔流することによつて起る被害（例へば第4，第6圖）。

3) 堤防の決潰或は溢水により河川敷外に氾濫した濁水による單なる浸水及び土砂の堆積（第7，第13圖）。同じく濁水の流勢及び流失物の衝突による家屋の傾斜損傷及び倒壞（第9，第15，第18及び第12圖）。同じく奔流による家屋地盤の洗堀に起因する家屋の損傷（例へば第10，第14，第6，第18圖）。

4) 一度氾濫した水が河川の堤防、鐵道敷築堤或は盛上げられた道路等に堰かれて停滯失勢した濁水による單なる浸水（例へば第8圖）。

5) 此の様にして停滯した濁水が例へば鐵道敷築堤のガード下等に集中流下するために再び勢を得て奔流となり、新に2）以下の災害を繰返して行く（第11，第20，第21圖參照）。

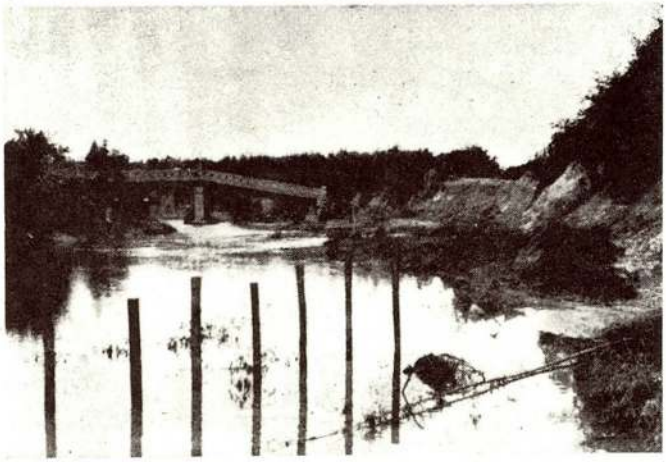
以　上



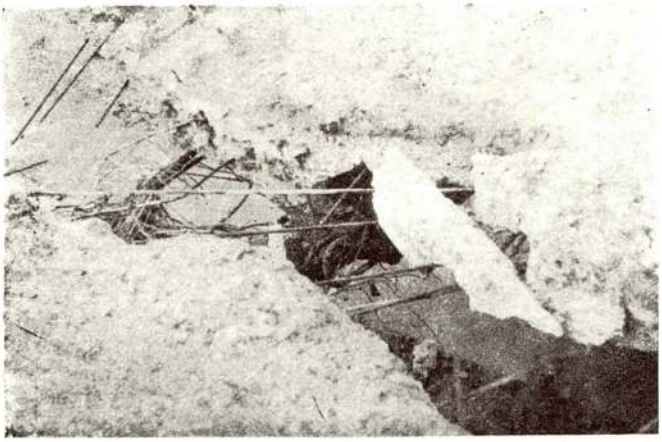
第2圖 ・ 9日より11日にわたる總雨量圖（m.m）



第３圖 · 大阪市難波地下鐵工事場附近　右手喫茶店の地盤の一部が工事場に向つて陷沒し壁體の一部に龜裂を生じた



第４圖 · 大阪府北河內郡牧野村穗谷川のコンクリート橋　右方の橋臺が洗はれて橋は中央から折れてゐる



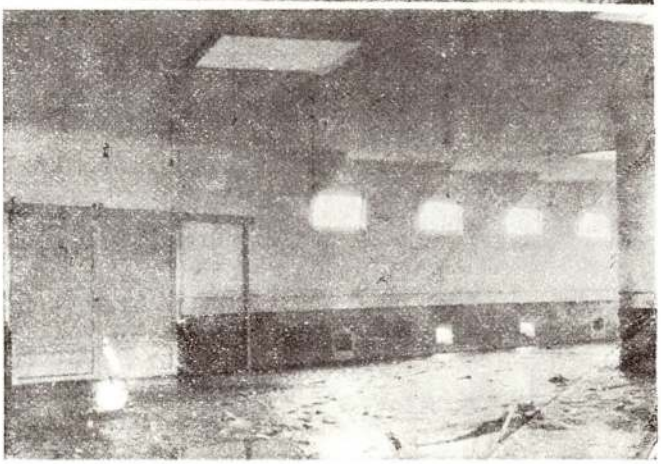
第５圖 · 第４圖の下流にある橋梁中央部の損傷詳細　被害形式は前圖と同樣である



第６圖 · 府下、豊中町附近千里川流域の家屋被害　千里川橋より東方上流を望む



第７圖・同上千里川流域千里園住宅地　中央右手で千里川が氾濫した、家屋浸水と土砂堆積の跡、浸水床上1米餘



第８圖・大阪府下、新京阪茨木驛前自動車庫浸水の跡　床上には粘土が沈積してゐる



第９圖・府下、茨木町の住家　奔流は左手の道路を隔てた水田を渡つて押し寄せた、流失物の衝突による被害の典型的なもの



第10圖・茨木町北方、東海道線ガード下手耕作地中の一軒屋　濁水は左より右に向つて奔流したため家屋下手の地盤が洗掘された



第11圖 · 府下、茨木町附近上中條　東海道線築堤に堰かれた水は中景左手のガードを通つて奔流し家屋を破損倒壊せしめた。流失家屋の跡を通じてガードが見える



第12圖 · 同上、上中條　部落を襲つた奔流は納屋を本屋から剪断し倒壊せしめた



第13圖 · 府下、三島郡安威村十日市　堤防を破つた濁水は一面に砂礫を沈積して行つた



第14圖 · 同上、十日市　地盤の洗掘と土壁の損傷



第15圖 · 府下、三島郡玉櫛村澤戛宜東　決潰した茨木川堤防上より部落の概觀、濁水は堤防土壌を沈積しつつ右より左遠方へと流れた



第16圖 · 前圖遠景の中央部にある家屋の被害詳細　奔流は家屋地盤を洗掘しつつ、一方では土砂を沈積して行つた



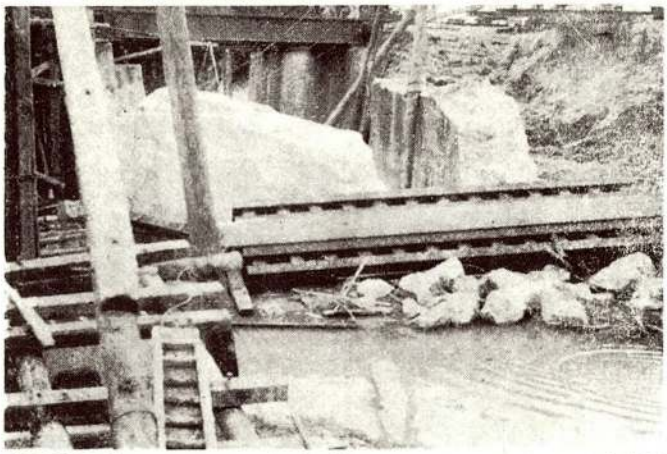
第17圖 · 同上、澤戛宜東の家屋被害　洗掘と沈積、漂流物の取片附け



第18圖 · 同上 澤 戛宜東の家屋被害狀態　流れは右より左へ



第19圖 · 東海道線山崎驛附近　鐵道敷築堤が崩壊して二階家をへし折つた。築堤は既に復舊されてある



第20圖 · 東海道線山崎驛附近鐵道ガードの被害詳細



第21圖 · 同上、山崎町の被害、前圖ガード下手の街並　浸水床上1米位屋内に沈積した土砂は路面に搬出されてある

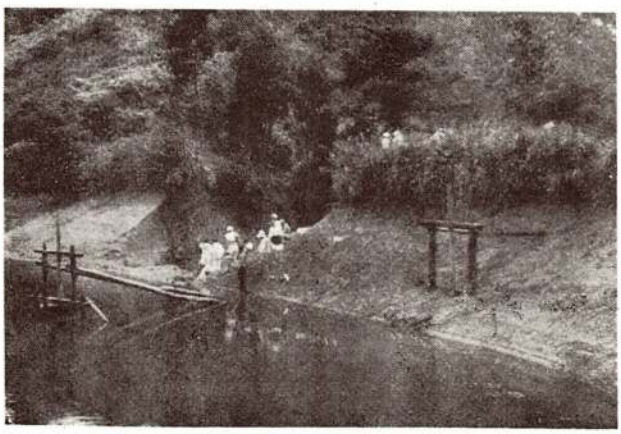


第22圖 · 府下、三島郡島本村尺代家屋背後の山にある竹藪が崩れた、右方手前にも同様の家屋があつたが既に取片附けられてある

九月二日夜堅下村の水禍

災害強度委員　中井新一郎
勾坂弘美

昭和10年9月2日夜、突如大阪府中河内郡堅下村字平野を襲つた水禍はその範圍が狹小のものであつたが强さの程度に於ては世人を戰慄せしめるものがあつた。



第1圖　大阪府中河内郡堅下村
灌漑用平野池堤防決潰部分。此處から直ちに逆落しの溪谷が初まる。



第2圖　中河内郡堅下村字平野
奔流に依る家屋の損傷。前方の岩石は水流で運搬されたもの。

即ち當時の被害情況は

流失家屋	6戸
半壞家屋	10戸
堅下全村の浸水家屋	80戸
死者	9名
重傷者	6名

の多數に上つてゐる。

生駒連山の小峰高尾山附近通稱正蓮寺の山頂近く（水準標高約240米）にある灌漑用平野池（面積約4段歩）は連日の降雨のため9月2日午後10時半頃遂に決潰し、高尾山の急溪谷を約1粁樹林をなぎ倒して急奔直下して勢を得避難の餘裕をも與へず平野部落を襲ひ、瞬間にして數戸の家屋を全壞流失せしめたのである。

揭載の寫眞は9月3日の調査撮影による。



第3圖　同　上
本流からそれてゐたため半壞で止つた家屋

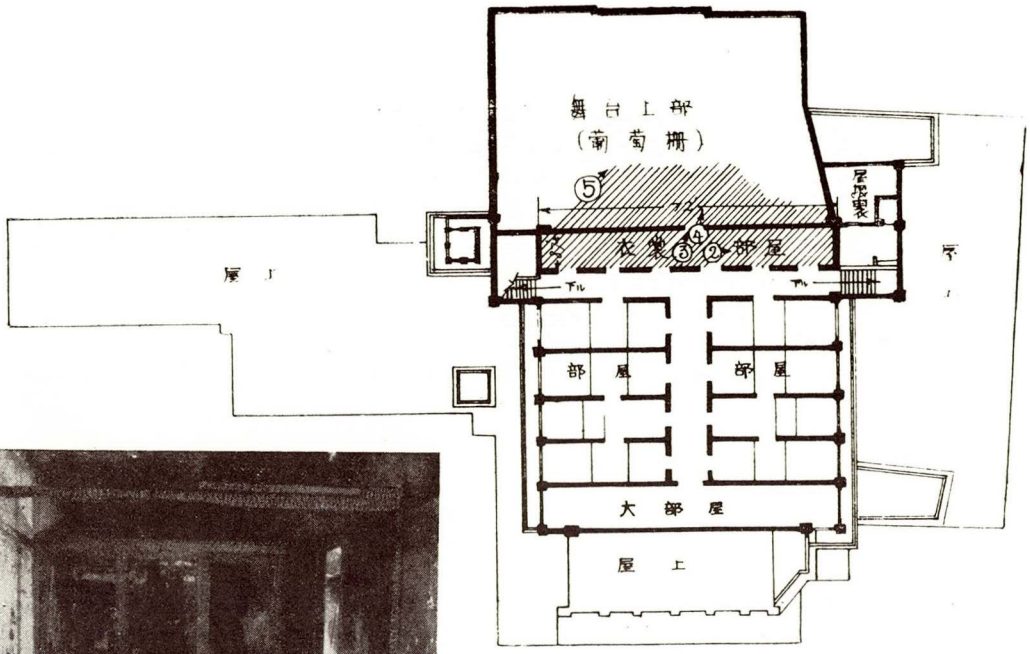


第4圖　同　上
本流狂奔の痕跡を下手から望む。全壞家屋の殘骸が前面に取殘されてある。遠く高尾山の峯を望む

京都市四條通り南座の火災

災害强度委員　中井新一郎
勾坂弘美

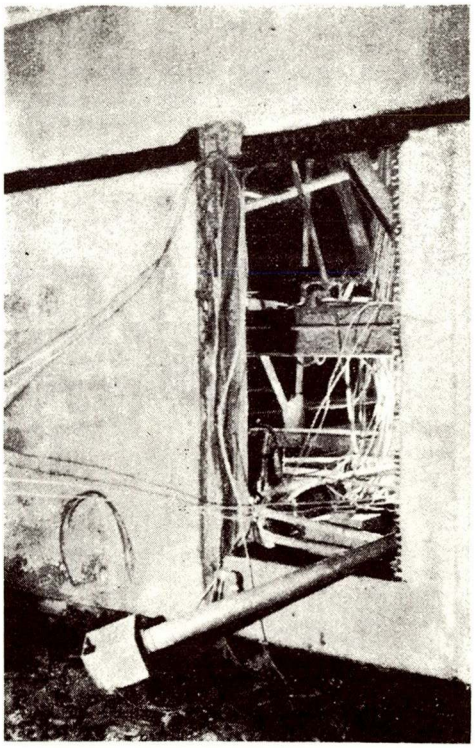
昭和10年8月15日午前10時10分出火同午後2時には全く鎭火せり。本劇場は日本屋根を有する桃山式5階建の鐵筋コンクリート造にして建築面積543坪、昭和4年11月總



4階平面圖



第1圖　衣裳部屋内部の被害
間仕切戸及び開口の扉はタイガーボード張りであつた



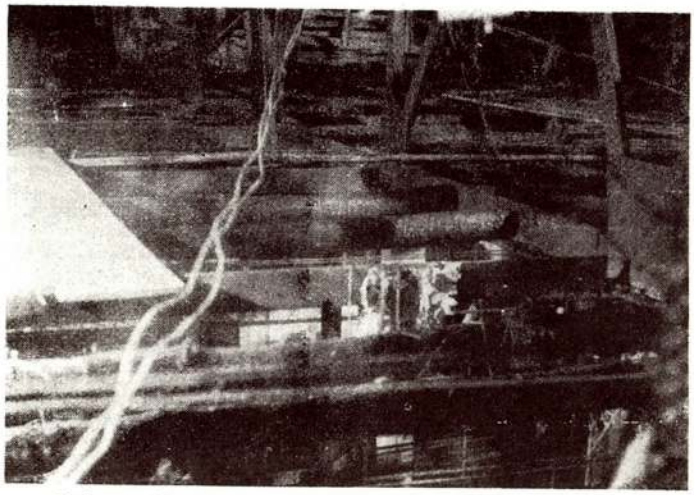
第2圖　衣裳部屋より舞臺上方に抜ける唯一の窓
當時開放されてあつたと云ふ

工費百萬圓を以て改築成る。

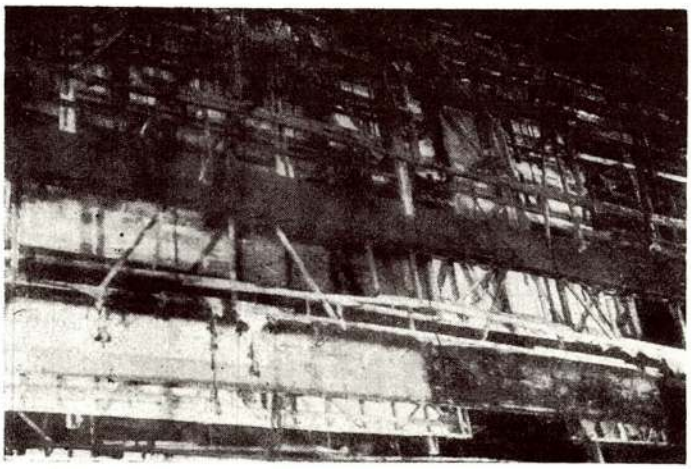
電氣アイロンの不始末によると云はれてゐる火は4階衣裳部屋より發し、コンクリート隔壁に設けられてあつた唯一つの窓口を通つて舞臺上方の葡萄棚を焼き、それに吊下げられてある大道具類及び丁度引下げられてあつた緞帳を甜め盡した。この間大道具類の燒滓は舞臺上に落下し、一方黒煙は觀客席に滿ちわたり、建物正面の窓口及び屋上の櫓から噴出した。プロセニアム・アーチにある防火扉は平常から使用されてゐなかつた由である。

觀客席は直接の火害を受けなかつたが注水による被害は可成りのものであつた。

衣裳部屋と約 10 糎のコンクリート壁で隔てられゐる廊下は黒煙のために煤つてゐるに過ぎない。

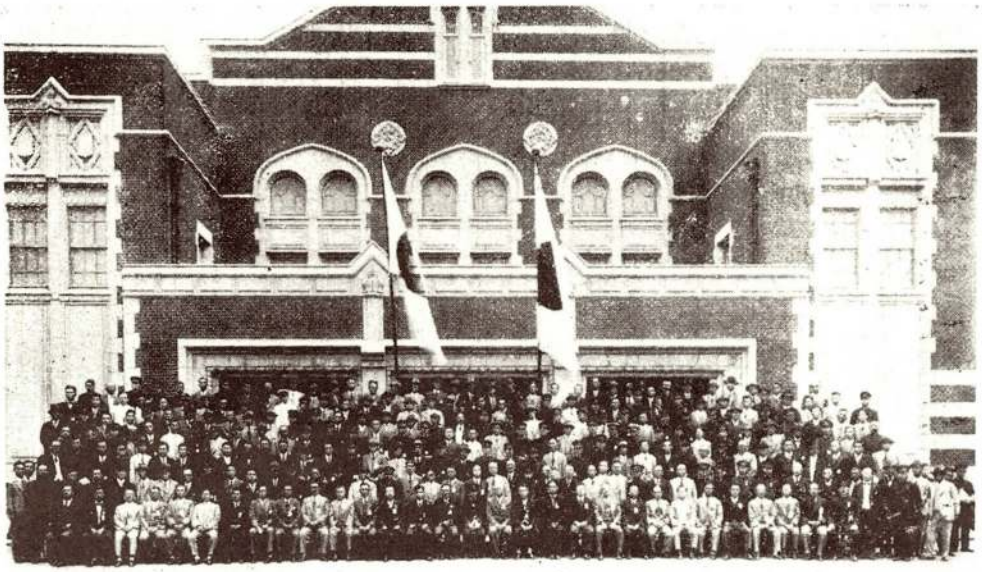


第3圖・第2圖の窓口より葡萄棚を望む
木材部分の表面は炭化してゐるが鐵骨部には被害がない



第4圖・舞臺より大道具類の殘骸を見上ぐ

第二回四建築會聯合大會略記



臺灣高等學校々庭に於ける第2回建築會聯合會出席者

日本建築協會、滿洲建築協會、朝鮮建築會、臺灣建築會の4會聯合大會は、昭和10年10月28日臺北高等學校構堂に於て臺灣總督代理其他來賓臨席のもとに開催さる。會する者、日本建築協會員松室祕書關長外10名、滿洲建築協會員村田常務外2名及朝鮮建築會員笹會長外17名主催者側臺灣建築會員井手會長外230名。午前9時半國歌合唱の後、臺建、宇敷主計開會を宣す。劈頭井手臺建會長主催者としての挨拶をなし、次で總督代理として平塚總務長官の祝辭あり、特に建築を國防より見て重大視されたるは我等の最も意を强うするところなり。引續き臺北州知事、臺北市尹の祝辭の後、會議に移り日建松室氏全員一致を以て議長に選任され先づ滿場拍手裡に下記の宣言をなす。

宣　　言

日本建築協會、滿洲建築協會、朝鮮建築會及臺灣建築會の4會は時勢に鑑み益々品位の向上に努め、協心戮力建築界の堅實なる發達を圖り以て東洋文化の伸展に寄與せむことを期す。

右宣言す

昭和10年10月28日

日本建築協會
滿洲建築協會
朝鮮建築會
臺灣建築會

次に滿建村田氏より第1回4會聯合大會の報告あり續いて議事に入り下記事項を可決確定す。

1 本大會をして益々有意義ならしめ斯會並に國運の隆昌に寄與せむが爲、建築學會の參加を勸誘し以て日本建築聯合大會と改稱しその目的を貫徹せむとす。而して本部を日本建築協會に置く尙聯合大會規約の作製並に建築學會加入勸誘方を日本建築協會に一任する事に確定さる。

村田氏より「4會の聯合提携を一層助長する意味に於て各會員は他會員となり、雜誌を實費を以て頒布を受ける樣致度」との建議あり。これにて會議を終る。小憩の後講演會に入り下記演題のもとに各講師それぞれ蘊蓄を傾けらる。所定の時間に餘裕少なく、何れも臺建雜誌に詳細寄稿を約して內容を節約せられざるを得ざりしを遺憾とす。

1 滿洲に於ける建築構造に對する重要問題に就て

南滿中央試驗所技師

工學士　布施　忠司

2 朝鮮に於ける鐵筋混凝土工事の現況

京城高工教授　葛西　重男

3 滿洲に於ける建築事情

南滿工專教授　工學博士　村田　治郎

4 建築の國民性と國際性に就て

京都高工教授　工學士　本野　精吾

5 改隷40年間の臺灣に於ける建築の變遷

臺灣總督府技師　工學士　井手　薰

こゝで附記して置きたいのは遠隔の地より參會した者から云へば、主催地以外の餘りに地方的内容を持つた講演は貴重な時間を利用する意味に於て御遠慮を願ひたいと思ふ。主催地の地方的特徴を持つた講演はこれに反して觀察見學上大いに必要である。これは今回の滿鮮建築會員の御講演の内容に就て批判したのではないからこの點不惡御了承を願ひたい。

零時半講演會終了、一同紀念撮影の後、臺建主催の午餐會に出席、萬歲を三唱して散會。（この稿終り）

四建築會聯合大會臺灣瞥見記

日本建築協會常務　清　水　榮　二

10月24日（木）　晴

一行11名中10名は各自神戸港第1突堤横着の郵船朝日丸に乘船、正午過ぎ協會職員及各自家族友人等に見送られ出帆す。海上は秋晴の上天氣、船は鏡の上を滑る如く諸事愉快に第一日の船旅を終る。

10月25日（金）　曇後雨

朝來風强く曇勝、午前6時門司着、正午出帆迄の碇泊時間を各自の自由に利用す。

協會一行の1名、滿洲建築協會一行3名、朝鮮建築會一行18名何れもこゝより同船、2等食堂は我等同志の一行斷然他客を壓す。午後3會の旅行



臺北所見……本島人の簡易食堂

團世話人相會し見學先の希望、大會議題等に就協議し、臺灣建築會宛打電す。

天候蒸暑く夕食後雨となる。夜9時頃より風雨强くなり船の動搖烈しく船室卓上の茶瓶等顚落す

26日（土）　雨

午前零時に時計を30分遲らす、朝來天候暗憺として時々驟雨來る。風浪少しく衰へたれど終日靜まらず。昨夜滿員なりし食堂も今日は空席多し。一日中陸地を見ず。ベツドに寢轉びて雜談と雜誌の拾讀みに費す。

10月27日（日）　曇時々雨

午前零時再び時計を30分遲らし、臺灣時間となる。波は餘程靜かになり、船にも慣れて今朝は皆元氣よく食堂賑ふ。3建築會員の顔つなぎを行ふ。

午前11時過ぎ船の行手に臺灣の陸地朧氣に見え初め、2時船は基隆の岸壁に安着。臺灣建築會の井手會長初め幹部諸氏の出迎へを受く。直ちに汽車で臺北に向ふ、車窓を横ぎる双思樹の影、雨に煙る本島人の農家等既に臺灣の風物を偲ばす。

臺北停車場は各地よりの觀光客にて混雜を極む臺建用意の自動車で先づ臺灣神社に詣ず。明日は同神社の大祭日とて町角にはのぼり旛を樹て、御輿を擔ぎ廻る樣内地神社の祭禮と少しも變らず臺灣在住の内地人は氏神樣としてかしづけるらしく覺ゆ。



建 功 神 社

古き competition drawing の記憶殘れる、總督府、ローマネスクで統一した臺大校舍、和漢洋折衷の建功神社、熱帶味豊な植物園、よきも惡しきも支那趣味の龍山寺等を見學して、料亭竹の家に於ける臺建の招待會に臨む。

散會後臺北銀座の榮町通を一巡して割當の旅宿日の丸館に案內され、一浴して數日振に疊の上に蚊帳を釣りて寢る。

10月28日（月） 晴

午前8時半臺建差廻しの自動車で高等學校講堂に於ける4建築會聯合大會に出席す。引續き講演會に移り午後零時半終了。紀念撮影後臺建主催の午餐會に望み、午後2時より臺灣博覽會第1會場を見學。交通土木館、產業館、林業館、興業館、糖業館等臺灣ブロパーのもののみを瞥見す。

次に板橋に於ける林本源主催の博覽會協賛鄉土館(林家邸宅)並に同家庭園を見る。林家庭園は所謂支那箱庭式のものにして隨處にその特徵が覗はれる。

午後6時より江山樓に於ける懇親會に出席。藝妲(ゲイト)(ワン)の餘興に興じつゝ臺灣料理を味ひ、會員相互の懇談に時の移るを忘る。9時散會、賑かな大稻埕の本島人街を見物して歸宿。

10月29日（火） 曇

午前中各自自由に臺博第2會場を見る。こゝは臺灣の歷史及博物資料並に文化施設館があり、併せて各地特設館がある。

午前11時アルテツクスの製造元柏熊氏の招待午餐會に出席。午後1時臺博南方分場を見學す。之は南支、シヤム、印度、馬來諸島等の產業、文物等出陳され中々に興味深し。それより臺灣に於ける國立公園の候補地の一、大屯山彙の一部なる、草山及北投をドライブす。このドライブエイは往還路を異にし勾配ゆるやかにアスフアルト鋪裝を施し綠濃き山谷の景觀、さては廣濶なる臺北平野の展望を滿喫し得、加ふるに草山及北投温泉は何れも湯量豊富且清澄水充分にして、地獄の如きも箱根、別府に勝るとも不劣、一は家族的にして靜寂、他は大衆的にして温柔、交通に、風光に、設備に、實に國立公園候補地の一たるに恥ぢず。

6時半鐵道ホテルに於ける臺灣土木建築協會の招宴に臨み、10時半臺北發の列車にて臺建幹部の東道のもとに南部地方へ出發す。

10月30日（水） 晴後曇

午前5時半嘉義着臺建支部の厚意により驛構內で朝食をしたゝめ、6時登山鐵道により阿里山へ向ふ。この鐵道はロツキー同樣シエー型汽關車により運轉され、阿里山產出の木材運搬を元來の目的とし傍ら登山客を便乘せしむるものである。延長40數哩中60數個の隧道を有しスパイラル線の如き難所あり、車窓の眺望頗る壯大なり。阿里山驛を通過し車中晝食2時新高口に着く。

目通1米、高さ40米、樹齡500年の伐木現場を見る。大木の切り倒さるゝ瞬間の音響は一種云ふ



龍 山 寺 所 見

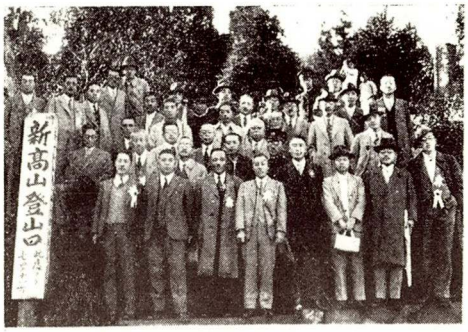
べからざる悲壯味あり。これに從事する人々樹齡塔を建立して大樹の靈を祀るのもうなづかれる。引續き高山野流の木登り術及集木の實況を見學。4 時再び阿里山驛に引返し、高山資料館を見て阿里山神社、阿里山寺に詣で阿里山ホテルに落着き、溫泡姿で鷄のすき燒に舌鼓を打ち、明朝の祝山登山を期して早やく寢る。

10月31日（木） 晴

4 時過宿の女中に起され、一行中數名を除き暗闇の道を祝山に登る。ここは海拔2,500米、新高連峯を指呼の間に見る。日の出を待ちつゝ朝食の辨當をパクつく。待つこと しばし山顚に浮べる雲赤紫色を呈し山容次第に鮮かに雄渾の氣天地に滿つ。

山をバツクに一同記念撮影の後阿里山驛に下り7 時半乘車下山の途につく。亞熱帶、熱帶と下るに從ひ段々氣候は暑くなり、1 時半北門につく頃は再びワイシヤツ1枚の夏姿になる。

貸切バスで農事試驗場と製材所を分れて見學。嘉義市街を一廻して2時半嘉義發南下して、本旅行の最南部高雄に向ふ。4 時半高雄着臺建支部差廻しの自動車で波止場を一巡の後嘉義神社參拜、續いて壽山にドライブす。この道は日本西端の要港を守るため軍部の建設したものでゴルフリンクを右に見て、約20分で壽の峯に達す。こゝは海拔350 米餘海岸に屹立し高雄市及その附近の風光を一望のもとにをさむ。海水浴場のある西仔濱へ降る道路は、奇巖波をくだき風光絶佳、加ふるに自然住の猿、キヨン等が棲息してゐる。一行10數臺の自動車を列ねて通行するに際しても數度その影を間近に認め得た。6 時過ぎ市營浴場に成るべき臺博觀光館に到着。汐湯に一浴して珍果マンゴーに舌鼓を打ち、臺建支部の心盡により特に浴衣がけで夜の市街を車上より見物し乍ら、新市街地丸中樓に於ける臺建支部主催の歡迎會に出席す。9 時閉會再び市中をドライヴして臨海ホテルに投宿



阿里山驛に於ける視察團一行

11月1日（金） 晴

午前7時半高雄發。8 時過臺南着、臺建臺南支部の案内で、一行自動車を列ね先づ臺博歷史館を見學の後臺南神社に參拜、續いて北白川宮薨去の御遺跡を拜觀、その御簡素なるに感激す。次で鄭成功を祀る開山神社及文廟中全島第1と稱せらるゝ孔子廟に詣で、蘭人の築造せるプロヴイデンヂア城趾赤嵌樓を見學。樓上に小憩、本島固有の町並を眺めながら、臺灣水瓜の美味にしばし暑さを忘る。再び自動車をかり廣大な虱目魚養魚場を左右に見乍ら安平に到り、ゼイランヂア城址に臺灣歷史館分館を訪うて、濱田彌兵衛奮闘の遺蹟を偲び、城壁に登つて高雄にその發展を奪はれ荒廢せる安平港の跡を弔ふ。


新高最高峯をバツクとして一行の記念撮影

市街を車上より見物しつゝ臺灣樓到着。臺建支部有志の歡迎午餐會に出席。正午の汽車で臺南を辭去3時前二水着。約1時間の乘換時間を利用して增澤氏邸植物園を見學。同氏の案内により熱帶果樹の智識を擴む。再び水里坑迄汽車をかり貸切バスに乘りかへ6時日月潭涵碧樓に到着宿泊。

11月2日（土） 晴

早朝起床。宿は日月潭に臨み湖面よ



日月潭にて化蕃と共に記念撮影

り百尺餘高く、珠仔島を前に湖水の全景を一望のもとにをさむ。朝霧にかすむ湖面の小波、湖上に小さく一文字を引きて進む化蕃の獨木舟、あちこちに浮ぶ浮草の小島、只靜寂そのものである。やがて東の空は次第に明るみ、珠仔島の山陰より斜に湖水をかすめる旭日の影、景觀の緑は段々鮮さを增して來る。

7時モーターボートにより滿水の爲、社殿のみ殘れる中ノ島明神より月潭を迂回して石印蕃社に上陸、化蕃の杵歌、舞踊に興じ記念撮影をなし再び乘船、水力電氣注水所に廻つて出發點に引返す。貸切バスにて魚池に出て、本島人手押の臺車（トロッコ）に乘り途中日月潭水力發電所を見て11時半外車埔に達す。暫く休憩の後汽車で二水に達し汽動車に乘り換へ3時半臺中に到着す。

臺建支部の出迎へを受け用意の自動車に分乘。先づ臺中神社に詣で公園及公館地區を一巡。臺博山岳館、バナナ檢査所、本島人の豪家吳氏の住宅を拜見、一旦旅館春田家に小憩、6時半より臺灣料亭醉月樓に於ける臺建支部有志の歡迎會に臨み散會後市中夜景を見物、各自土産物等をととのへ再び旅館に休憩午前2時半發の夜行列車で臺北へ歸る。

11月3日（日） 晴

午前7時臺北着割當旅館にて休憩の後、正午より鐵道ホテルに於て・日滿鮮三建築會視察團聯合にて、臺建井手會長初め幹部諸賢を招待簡素なる午餐會を催し、着臺以來御斡旋の勞を深謝す。2時過の列車にて基隆に向ひ4時半臺建會長初め幹部の御見送りを受け、郵船吉野丸に離臺す。日滿鮮三建築會とも同船、本協會員中7名は個人的の所用或は上海方面へ廻遊の爲袂を分つ。

これにて我等待望の臺灣視察旅行も無事終局を告げた譯である。

後 記

思へば去月27日午後渡臺してより偖々8日間、その間に呑氣な旅をし乍ら隨分各所を見學して視察の能率を上げたものである。

船の都合で滯臺日數を一日繰り上げたゝめ日本の最南端鷲鼻へこそ行けなかつたが、臺北では博覽會で臺灣の全貌をよく承知した上、都市では臺北を初め新進明朗の高雄、古都の香高く歷史に豊富な臺南、其他それぞれ特色のある嘉義、臺中。山では山岳美の新高連峰。大木伐採の阿里山。勝地では幽寂境日月潭。温泉では靜かな草山、温柔鄉の北投等、臺灣のグリンプスはこれで一通出來た譯であらう。これと云ふのも臺灣建築會の井手會長初め幹部の方々、視察地の支部の方々が折柄開催中の臺灣博覽會の御用件で一際御多忙中にも不拘殆どかゝり切りと云へる程に御世話を願つた賜である。博覽會開期中で觀光客の一層混雜して居る折柄、前記皆樣の御盡力と總督府としての御斡がゝりがなかつたならば我々はウンと苦んで、この半分も視察の効果を擧げ得なかつたであらう。此誌上を借りて到る處御馳走に與つたのと共々深甚の謝意を表するものである。10年程前建築學會と共に招れて滿洲へ行つて御歡待に與つた時も感じた



臺南市商品陳列館（臺博歷史館）前に於ける視察團一行



看牛兒（臺北郊外）

のであるが、到底内地へ御出かけ下すつても團體的にはあれだけの御返しは出來ないと思ふと實に汗顏の至である。準備の統制がキチンと出來るのは勿論皆樣の努力によるが一には各地に支部が設けられてこれがよく統制がとれてゐるからだと思ふ。我等の取つて以て範とし度いところである。それから今一つは10年前の滿洲は滿鐵、今の臺灣は總督府の御蔭である。これは夫々も羨しい次第である。

偖て瞥見後の臺灣の印象、筆者は北海道、樺太、南洋新領土等は未だ知らない。比較し得るのは前記10年前の滿洲だけであるが、どちらも内地より行つて先づ感ずる事は殖民地は呑氣だなあ、と云ふ事である。臺灣だけに感じた事は歷史的に面白いこと。蕃人なんかゞ居て人種的になつかしみを感じたこと。口いやしい點では果物が豐富なこと（これに關聯して滿洲の洋酒や、外國煙草の安いことが思ひ浮ぶ）緑の色の濃さが非常に鮮やかで氣持のよいこと。どちらでも共通に考へさせられた事は内地人の殖民が生活程度で到底競爭が出來ぬため、結局土民の腹を肥すのが落であると云ふこと、どちらでも不愉快なのは郊外の土ホコリの烈しいこと。

歸途船中の4日間。あはたゞしく見て來た臺灣の印象が走馬燈の樣に次から次へと浮んで來る。船が神戸へ着けば半ケ月スツボカしてをいた雜務が待ちかまへてゐるだらう。あゝ又内地のセセッコマしさだ。臺灣の人が羨やましい。

歸ればとても旅日記なんかの筆は取る氣になれない。思ひ出すまゝを船に搖られ乍ら只事務的に書き記す。

建築法規に關する質疑應答欄

應答　法制委員會

問　施行令第十三條第二項中にある「社寺建築物」の適用範圍如何、神社、寺院と名のつくものに非ざれば不適用なりや、基督教、天理教、東郷神社金光教、人の道教等は許可申請不可能なりや單に有資格神社、佛教寺院に限るや、その理由如何、京阪神行政官廳の許可方針範圍承り度し。

答　施行令第十三條第二項中にある「社寺建築物」とは神社及寺院建築物に限られたるものであります、即ち神社法令により登錄されたる神社並に宗教法規により登錄されたる佛教寺院の意であり、從て基督教、天理教、金光教、人の道教等の建築物は「社寺建築物」に包含されないのであります。

問　府細則第十六條の規定にある階段踊場に付ての大さの制限はありませんか

例へば有効中１米200の場合及１米500、２米の場合に於ける最小限度の長を？

答　大さは幅と長さに分解されますが幅に就ては施行規則第二十五條及府細則第十六條に依て規定されて居る通りです。

長さに就ては別に規定されて居りませぬ。

但し京都府及兵庫縣では長さの規定がありますから附記して置きます

大阪府令第十六條に於て

1.　階段及踊場の幅は內徑90センチメートル以上と爲すこと

京都府令第十九條に於て

公衆用の階段は踊場及昇り口又は降り口の足溜は其の幅及長を階段の幅以上とすること

兵庫縣令第二十五條

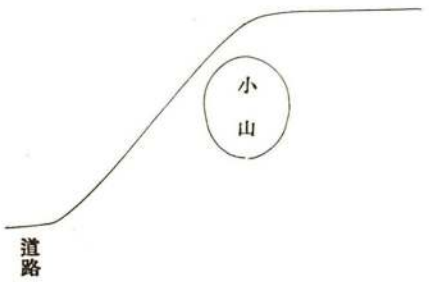
2.　多人數の使用に供するものは其の階段幅、踊場の長及幅は各內法１メートル以上と爲し廻階段と爲さざること

問　住居地域にて規定の４割の空地なき儘、現在商店とし營業して居る建物を飮食店として用途變更は許可なるものなるや

答　支障ない見込であります

但し大阪府では飮食店に依つては住居地域內には用途、空地の如何を問はず許されないものがあります

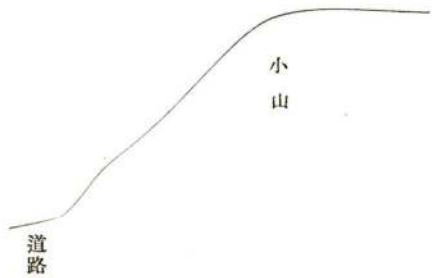
問　道路面上30尺以上の小山の上の建物の高さの制限はどうなりますか



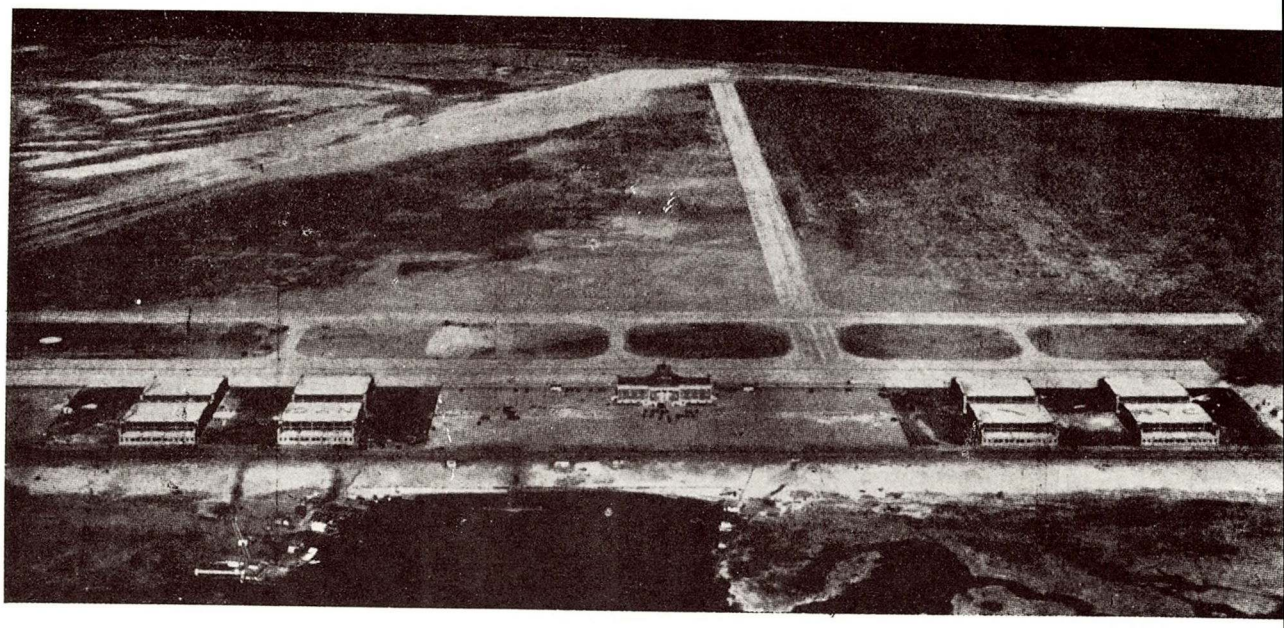
答　大阪府令市街地建築物法施行細則第十一條に御尋ねの事項を大體解決する條文があります、即ち30尺より１米を控除し殘りの２分の１高き位置を地盤とする事が出來まするが故に、30尺−3尺3寸＝26尺7寸　26.7÷2＝13尺35　13尺3寸5分現在地盤より高くなります位置が地盤と考へて下さい、施行令第五條の御研究を御願します

問　道路に面した高さ10餘尺の高地に於て境界線には溝を付けなければならないか

但し町村道に面する所にて



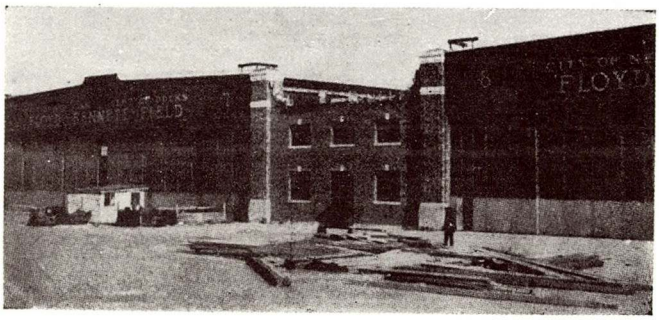
答　細則第十三條に依り施工は必要です



第 1 圖

第1圖 北東より見た Floyd Bennett 空港の全景、イーストリバー上空より空中撮影によつて旅客輸送の爲めの水上機の傾斜路（ramp）の設備を示す。

第2圖 格納庫の間に挾まれた倉庫と店舗



第 2 圖

ニューヨークの主空港として有名な Brooklyn の Flatbush に於ける Floyd Bennett 空港は、失業救濟事業として豫算 1,000,000 弗乃至 1,500,000 弗を以つて改良事業が去年の 10 月組織され、500 人の勞力と 60人の技術者並に化學者を以つて、此の改良工事が冬期中に完成された。

改良工事への職工の種類

1. 熟練機械工勞働日數割當　　毎 1 ケ月に付 5 日間
2. 普通勞働者勞働日數　　毎 1 ケ月に付 15 日間

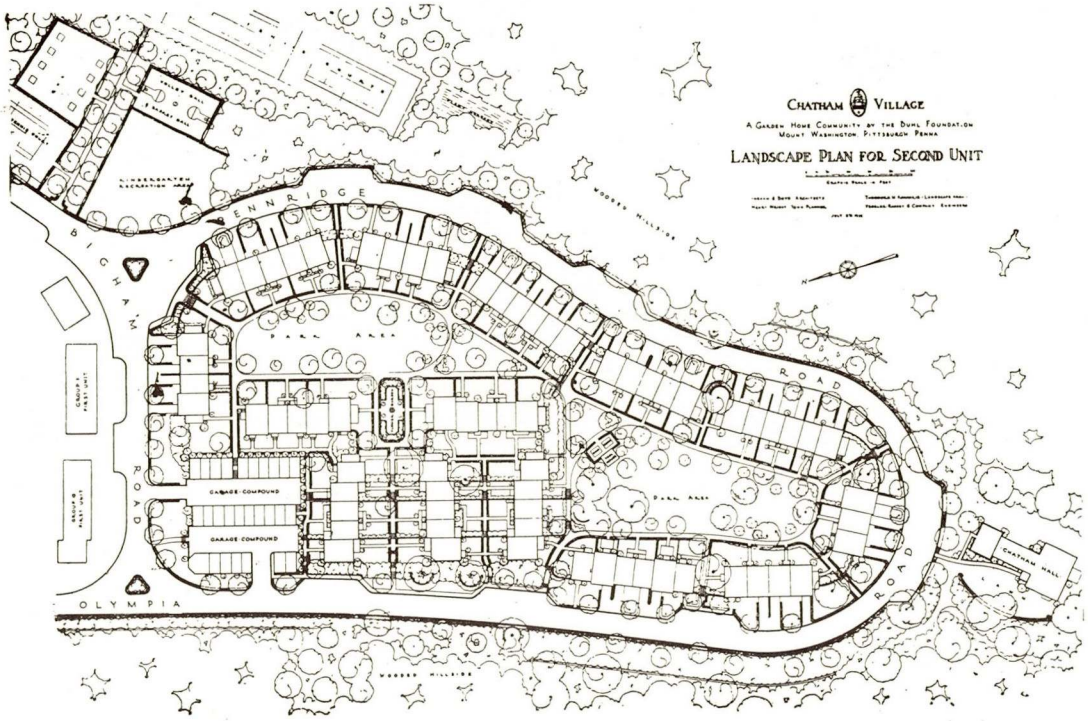
其他に煖房工（Steam fitters）、煉瓦工、大工、電氣工、鉛管類布設工等の新しい勞働隊が毎週雇はれて來た。

設備概要

1. 4 個の格納庫と管理局（administration building）へ配給し得る 400 馬力の煖房裝置を有するボイラー室と店舗
2. 凡ての建物へ接續し得る長 3,000 呎のパイプトンネル
3. 遠距離操作用ラヂオ（remote-controlled radio）用建物……3
4. 局部的に信號所（又は燈臺）のある走行路……1
5. 居住人用の事務所
6. 60,000 ガロン貯藏し得る貯油所
7. 旅客、郵便及速達等の爲めのレストラント、切符扱ひ場及地下の荷物搭載場等と交互に組合された管理局
8. 敷地排水用の傾斜、地平均及空堀
9. 3,500 呎ある走行路

（American City 誌より　龜井幸次郎）

（アメリカ） 失業救濟事業に於ける空港の改良工事



Pittsburgh の Buhl 財團による實驗的住宅計畫の建設費として Chatham Village へ 550,000 弗の增額がなされ直ちに工事が始められた。

新築住宅は全部 1936 年 5 月前後までに準備される事になつてゐる。

Chatham Village の總事業費（或は總事業基本金）第 1 期及第 2 期共 1,600,000 弗

新築住宅數（第 2 期）　197戸　　同　ガレーヂ數（同）　185

第 1 期に於て、1932 年の春までに 129 戸の住宅が完成したが、たちまち 99% の頗る付きの結果を持つて寒がつて仕舞つた。Chatham Village に於ける建物は 31 年の年賦償却であり、管理に就ては此の年賦費を含めて凡て負擔額の 5% の純利益がある。Chatham Village の住宅は賣却されるのではなく貸與されるのである。

經營地の面積は 43 エカーあり、Pittsburgh の中心地より僅かに 2 哩しか離れて居らぬ。

内　譯

16 エカー 住宅地　4 エカー 慰樂休養地　23 エカー 森林地の附屬地　計 43 エカー

本計畫に參與せる人々

Henry Wright ; New York, Clarence S. Stein; 敷地計畫監督者 Charles T. Ingham; William Boyd Pittsburgh の建築家

註、上記の兩氏最近 Chatham Village への所謂 the Better Homes in America small house Competition に於てアメリカ建築學會のメタルを授與されて居る。

Theodore M. Kohankil; Pittsburgh 造園家

施 設 概 要

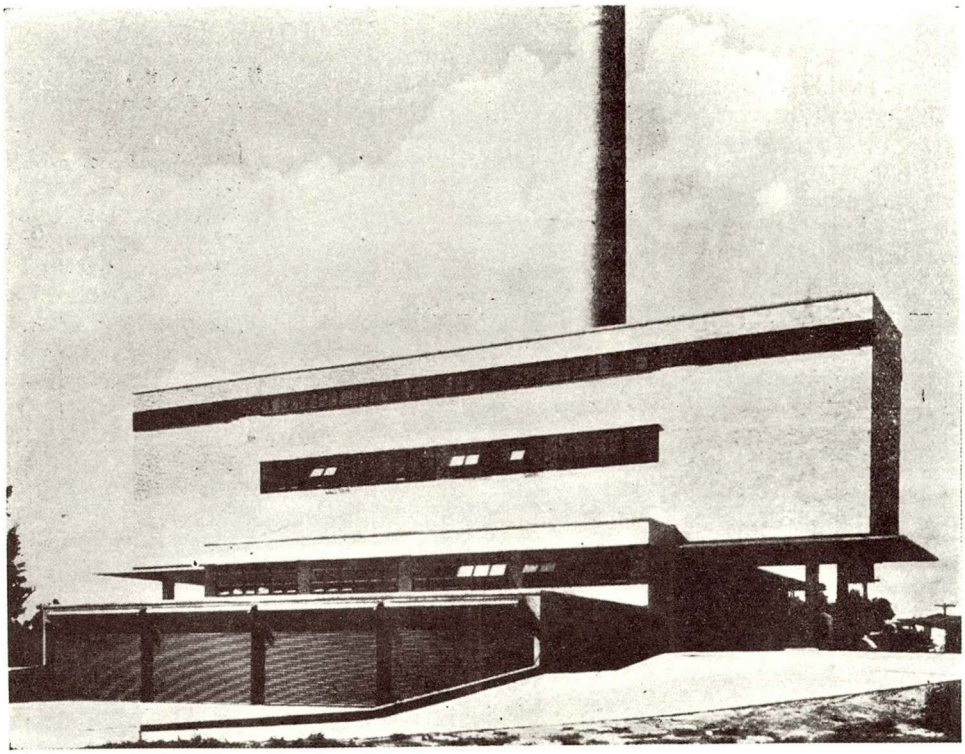
テニスコート	4	鐵環投場 (guoit court)	4
マツシボールフイルド	1	男 女 遊 園	1
保姆の監督の下にある幼兒用遊園	1		
社交並修養の爲めの12室を有すクラブハウス	1		

住　民　　主として勞働者　　Pittsburgh の下町から來た小官吏

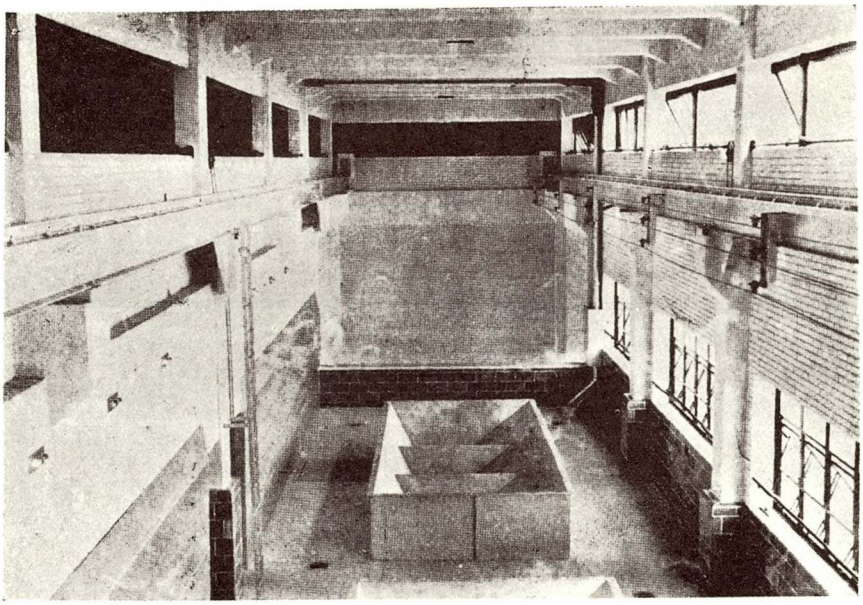
大學や其他の學校の敎授又は敎員

家　賃　　平均 1 ケ月一室 10 弗位になつてゐる。

第 1 圖
都市塵芥燒却場の正面



第 2 圖
塵芥燒却場の内部、ボツパー及クレーンレールを示すもの。(註ボツパー…漏斗様の塵芥受器)



Shreveport 塵芥燒却工場の將來

Shreveport 塵芥處理工場の設計者達は、此の單一の建物は嘗て建築された事のなかつたところの或る重要な型式の組合さつたものであると信じて居つた。然し更によい型式のものを增築するとせば、先決問題として次の事項を認識することが必要である。

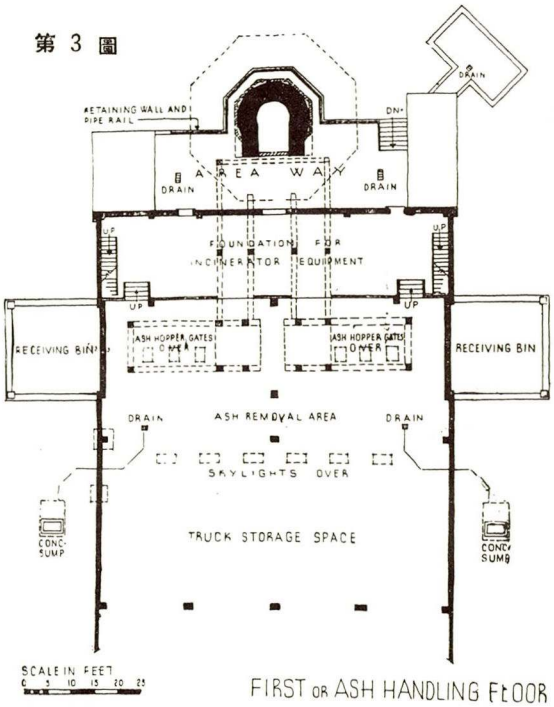
1. 塵芥受箱(receiving bins)を1個使用する代りに2個使用すること。
2. 爐から灰燼受(ash hopper)を通過して灰燼處理トラツクまでの灰燼用の Direct gravity passage を設ける事。
3. 狹いクレーンの橋 (narrow crane bridge) を設ける事。
4. 火焚場の爲めの風による直接換氣裝置をなす事。
5. 塵芥運搬用トラツクの爲灰燼積込場を作業休止の時トラツク用の車庫に代用する事
6. 經費の安い構造法を採用すること。

此の場合鐵骨構造の代りに鐵筋コンクリート骨組による構造を採用した。

(American City 誌より 龜井幸次郎)

(アメリカ) Louisiana に於ける Shreveport の都市塵芥燒却爐

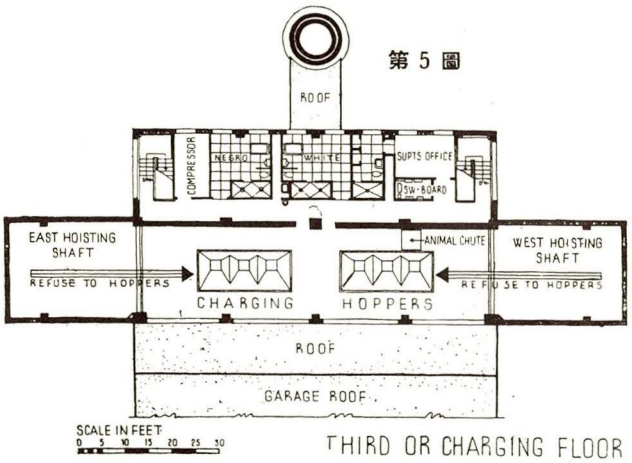
第 3 圖



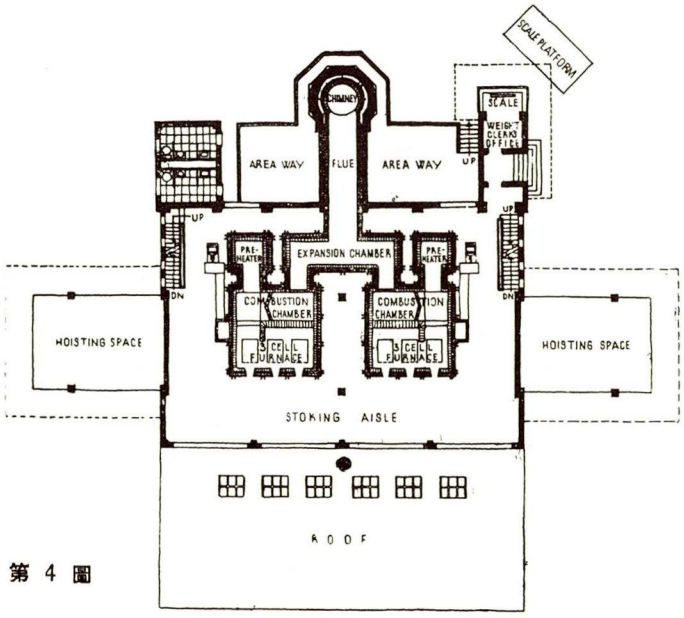
FIRST OR ASH HANDLING FLOOR

第3圖は、第1階又は灰燼積出階で、兩側に塵芥を受取る爲めのコンクリートのビンが、1個づゝ2個ある。此のビンよりクレーン又は摑機バケツ（Grab buckets）より塵芥を取り出し階上まで運搬され2組の積込ホツパーの中へ投込まれるのである。光による信號は如何なる種類の塵芥を必要として居るかを操作技師に通告するのである。すると技師は壓搾空氣操作ホツパーゲートを操縱して要求の塵芥を積込むのである。此のホツパーゲートは水蒸氣又は煙が爐から積下室に這入つて來ない樣に設計されて居る。監督事務所は、從業員への便所又はシヤワー等と同樣に此の階に配置してある。此の配置方法は必ずしも必要と云ふのではないが、望ましいものである。此の特殊な平面圖を見るに是等のサーヴスの配置が極めて好都合に行はれて居る。

第 5 圖



THIRD OR CHARGING FLOOR



SECOND OR STOKING FLOOR

第 4 圖

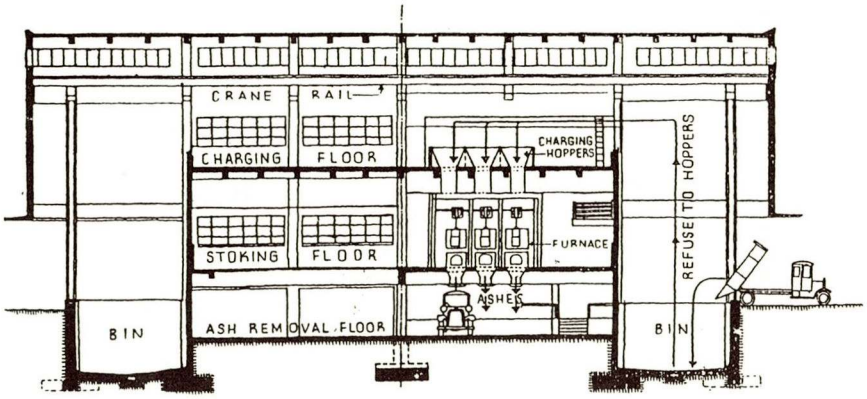
第4圖は、第2階又は火焚階で本階は燃燒設備によつて組織されてゐる。塵芥處理工場の理論は、爐の中で充分なる火力を得る爲め何等の燃料を加へる必要がないと云ふ事である。好く設計がなされ且つ操作の行きとゞいて居る燒却爐に於ては、全く好都合に實際の仕事がなされてゐるのである。

燃燒を助成すべき豫熱裝置は常に不變の狀態で加熱されねばならぬ。是等の裝置は多くのパイプより構成され且つ燃燒により加熱された瓦斯が貫通するのである。外部より這入つて來た空氣は是等のパイプの周圍を通り而して溫度約 1450°F まで昇るのである。然る後に加熱された此の空氣が爐の中に吹き込まれるのである。此の燃燒室に於ては瓦斯が煙突へ出るまでに完全に燃燒される必要がある。さもなくば處理工場の周圍が惡臭に惱まされる事になる。

瓦斯膨脹室は瓦斯が煙突へ行く前に此の室で膨脹し得る爲めの裝置にして、煙突まで達する長い煙道も亦此の作用への備へである。此の場合瓦斯は煙突に達するまでに充分冷却されてないので、耐火煉瓦で積み上げその周圍を鐵のコルセットで卷き保護して居るのである。採光と通風は普通以上に窓より取る事が出來且つ火焚室は充分廣く取つてある。

第5圖は、第3階又は塵芥積下階

xii 106 （アメリカ）Louisiana に於ける Shreveport の都市塵芥燒却爐　建築家　Jones, Roessle, Olschner 及 Wiener

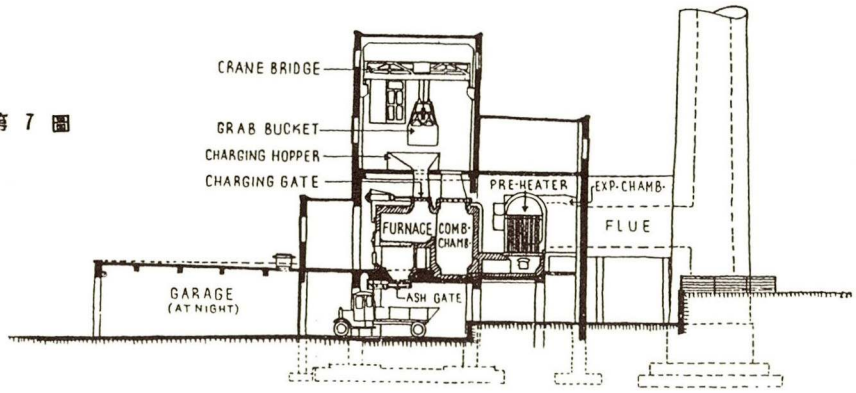


第 6 圖 LONGITUDINAL SECTION

第6圖縱斷圖は、トラックよりビン或は上部の積下しホツパー、下部の爐を通貫して灰燼受ホツパーへそして是等の灰燼が再びトラックによつて運び出されるまでの經過を明瞭に示して居る。此の灰燼を直接處理する方法は、時間、面積及經費を節約し且つ手による操作を最低にまで減ずることが出來るのである。此の灰燼積出の階は夜間はトラックの車庫に充當して來たのである。

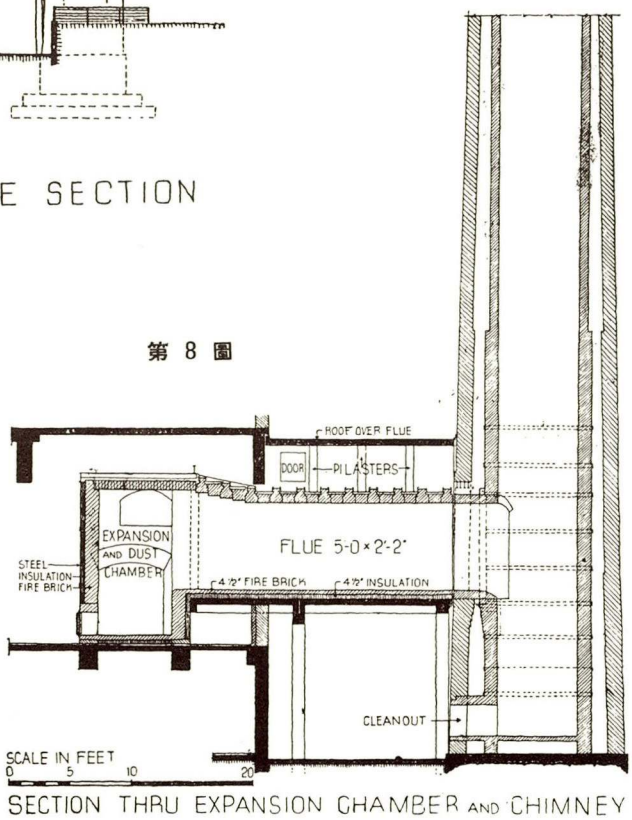
第7圖橫斷圖は爐及豫熱裝置を通して爐、燃燒室、豫熱室、膨脹室及煙道等の間に於ける關係を示して居る。此の燃燒式爐及他の部分は鐵筋コンクリートの大なる梁及柱にて支承され且つそれ等の梁及柱が第1階の大部分を占めて居る。

第 7 圖



TRANSVERSE SECTION

第 8 圖

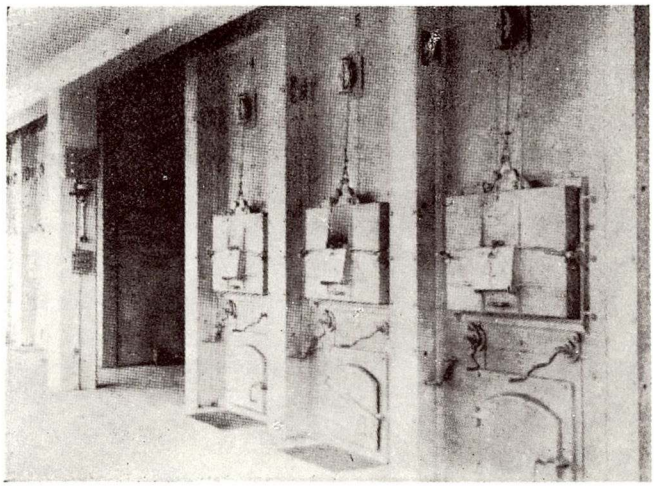


SECTION THRU EXPANSION CHAMBER AND CHIMNEY

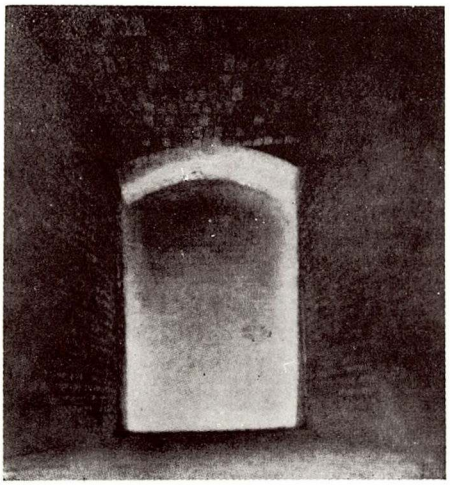
第8圖は膨脹室及煙突の斷面で建物の中心より取つたもので、燃燒室及豫熱室に殘された燃燒瓦斯の處理の爲めの設備の詳細を示すものである。煙突底部の點線は煙道の周圍に卷付けてある鐵の補强材の位置を示してゐる。

（American City 及 Architectural Forum 誌より 龜井幸次郎）

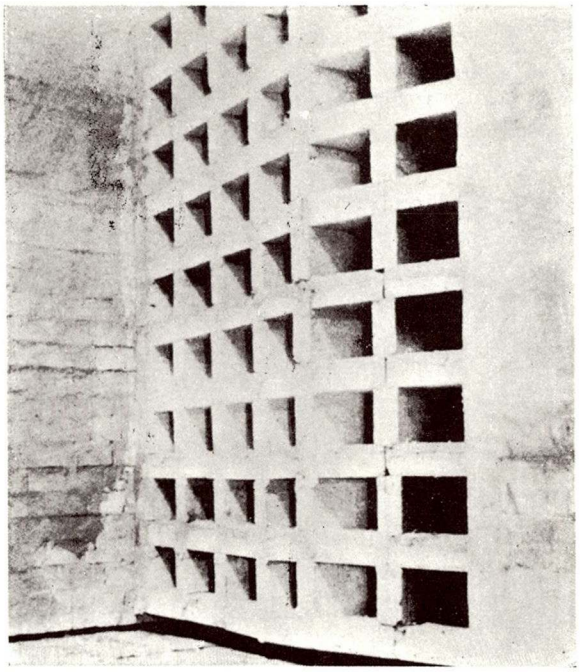
（アメリカ） Louisiana にけるShreveportの都市塵芥燒却爐 建築家 Jones, Roessle, Olschner 及 Wiener



第 9 圖　爐の焚口の扉

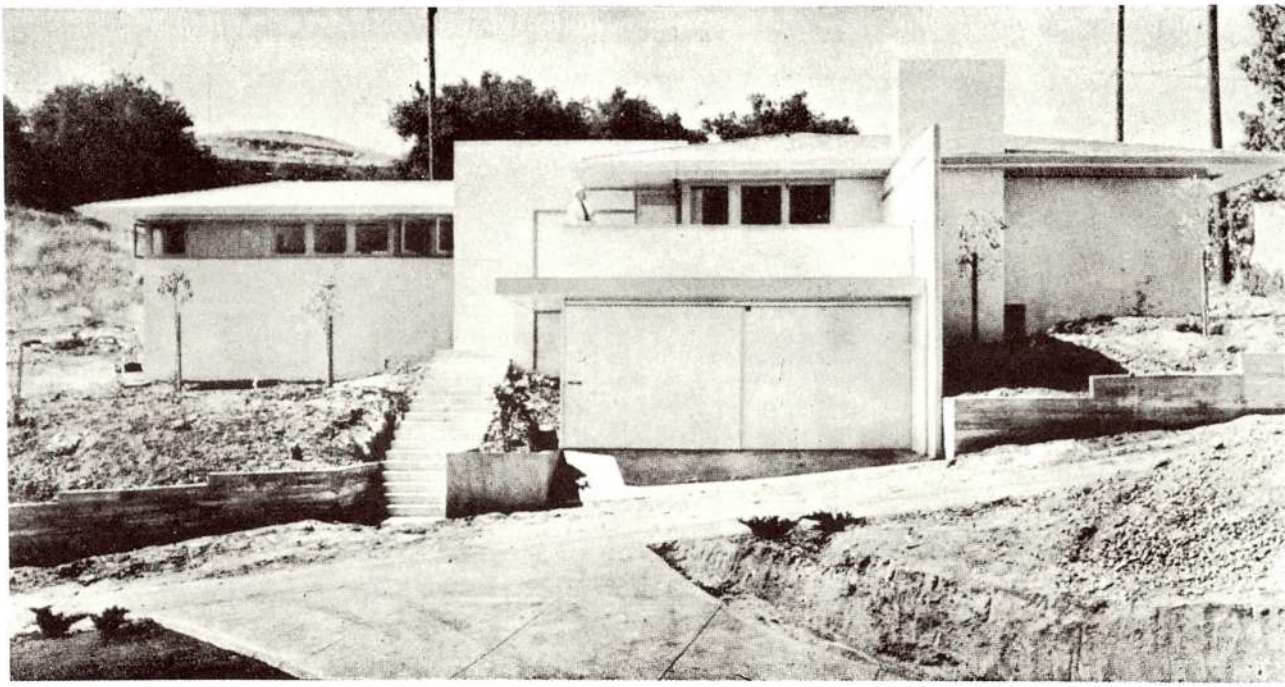


第 10 圖　煙　突

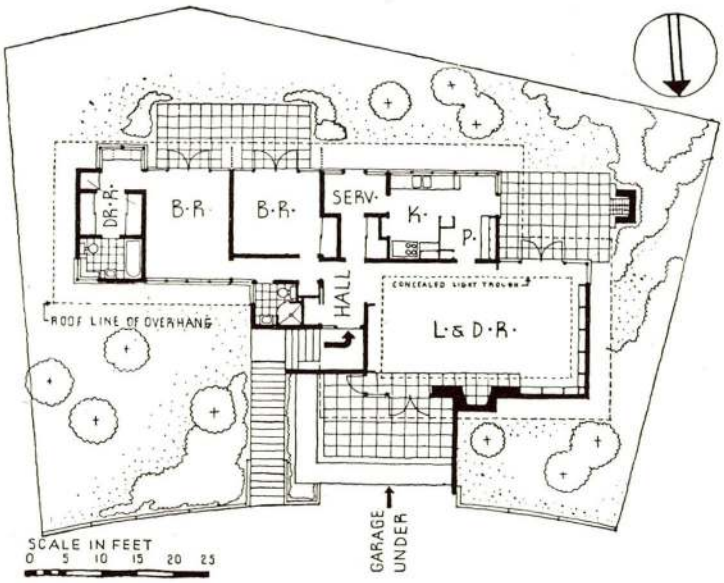


第 11 圖

　（アメリカ）　Louisiana に於ける Shreveport の都市塵芥燒却爐　建築家　Jones, Roessle, Olschneri 及 Wener

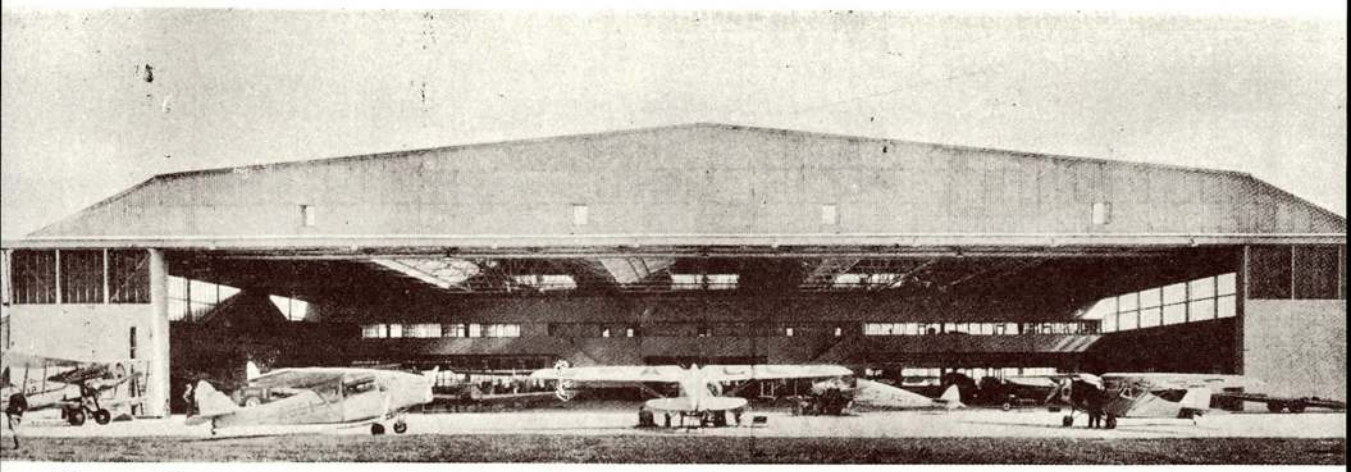


外觀

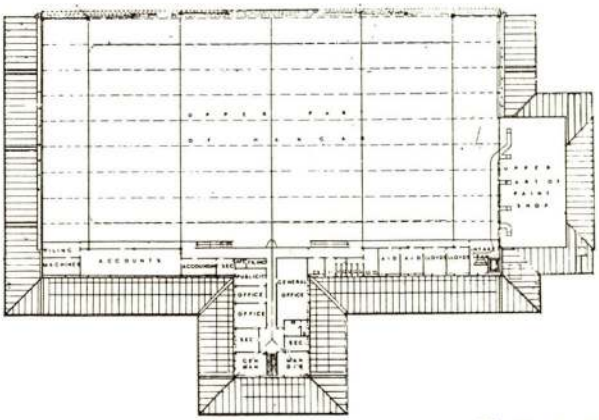


平面圖

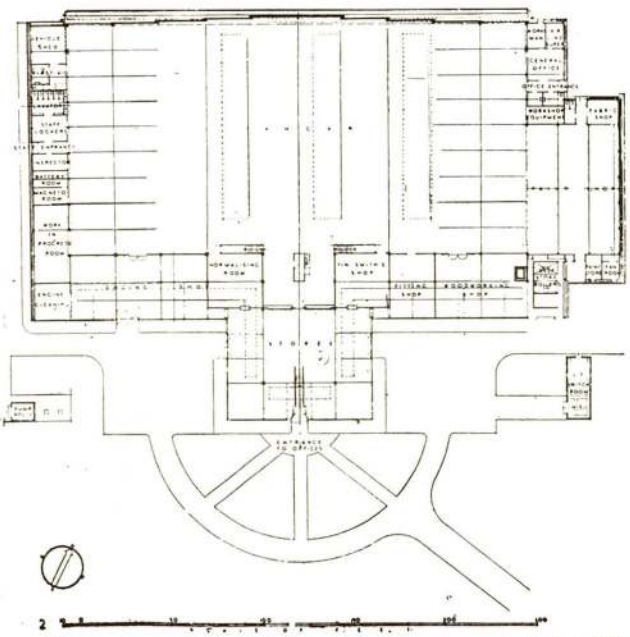
(アメリカ) グラハムレイング氏邸　設計者 Harivell Hamilton Harris



外　　觀



平面上部

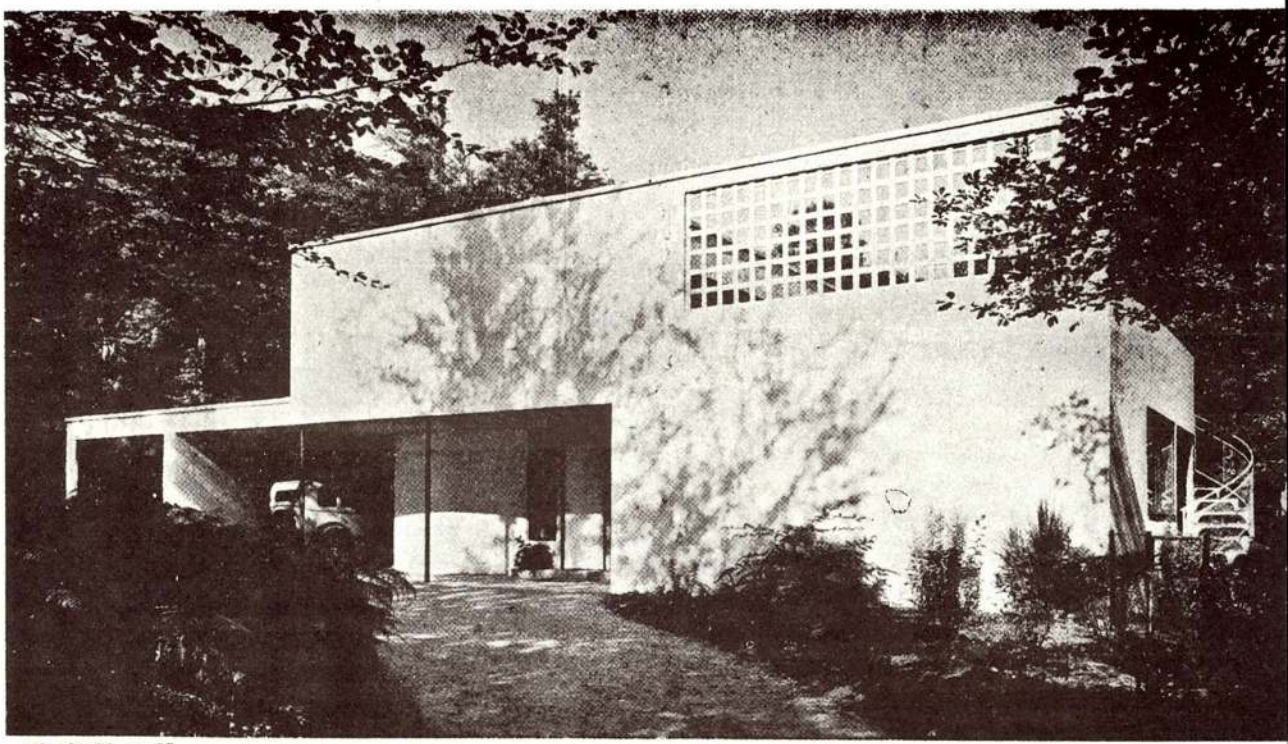


平面下部

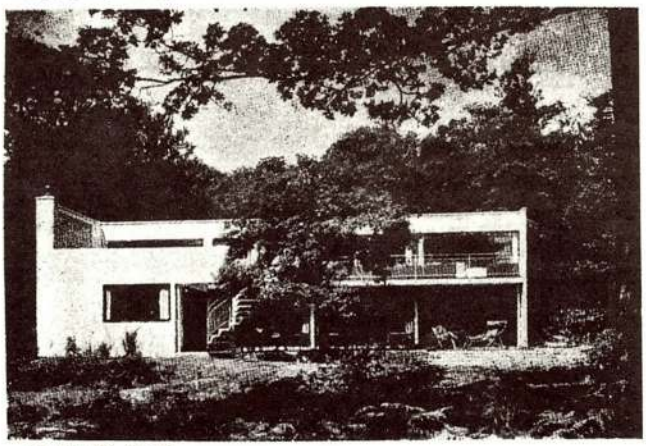
此格納庫は初め飛行機所有者のクラブとして、1929 年頃から着工されたものであるが、その後飛行場は度々擴張され、現在は英國第二の航空港となつたものである。此の格納庫全體の延面積は 60,600 平方尺、格納庫の部分だけでも 32,450平方尺の床面積を有し、飛行場側の開口はスパン 200 尺、高さ 30 尺で英國第一のものである。ドア 8 枚を手動によつて開閉する。

（Architectural Review 誌より　本多正道）

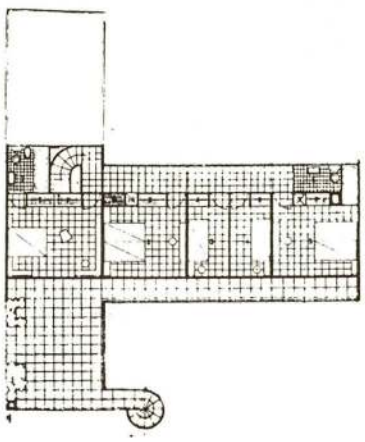
XII 110　（イギリス）ヒーストン航空港の格納庫　　建築家　Graham Dawbain



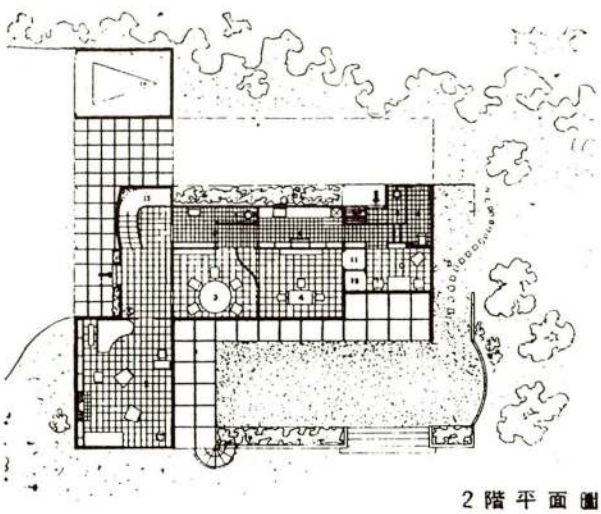
道路側外觀



庭園側外觀



1階平面圖



2階平面圖

夫婦と子供二人の家族に適はしいやうに設計されたもので、主要室は南東に面し、日光を充分にうけて而も夏の午後の暑い日照をさける事が出來る。

2 階　1. 2. 3. 4. 5. 寢室、6. 7. 浴室、8. 9. 戸棚、10. 醫療戸棚。

1 階　1. ホール、2. 居間、3. 食堂、4. 小兒室、5. 洗面所及通路、6. 豪所、7. 押入及冷藏庫、8. 便所、9. 煖房室 10. 女中室、11. 12. 13. 戸棚、14. 車庫

（Architectural Review 誌より　本多正道）

（イギリス）　フアーンハムの住宅

建築家　Harding 及 Tecton



外　　觀

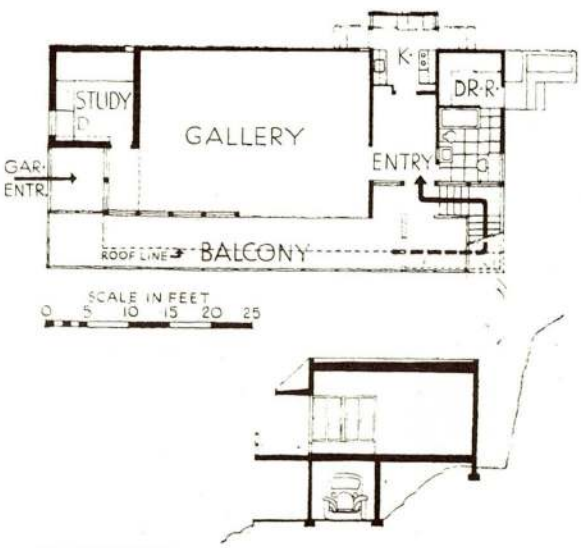
サンタモニカ山脈中の最も高い頂上に建てられ、遙か雲霧の彼方に大平洋が眺められる。

建物の主は近代美術の蒐集家であるから、この住宅も陳列室を中心とし、陳列室が居間にも食堂にも兼用せられる。陳列室の3方は Klee, Kandinsky, Picasso 等の近代畫家の繪を陳列する爲に大部分壁面となつて居るが、他の一方海に向ふ方向はテラスに接して全部硝子張で、長さ 16 呎の引戸が取附けられて居る。眺望を妨げない爲に硝子は極度に大きな磨き硝子が使用せられて居る。

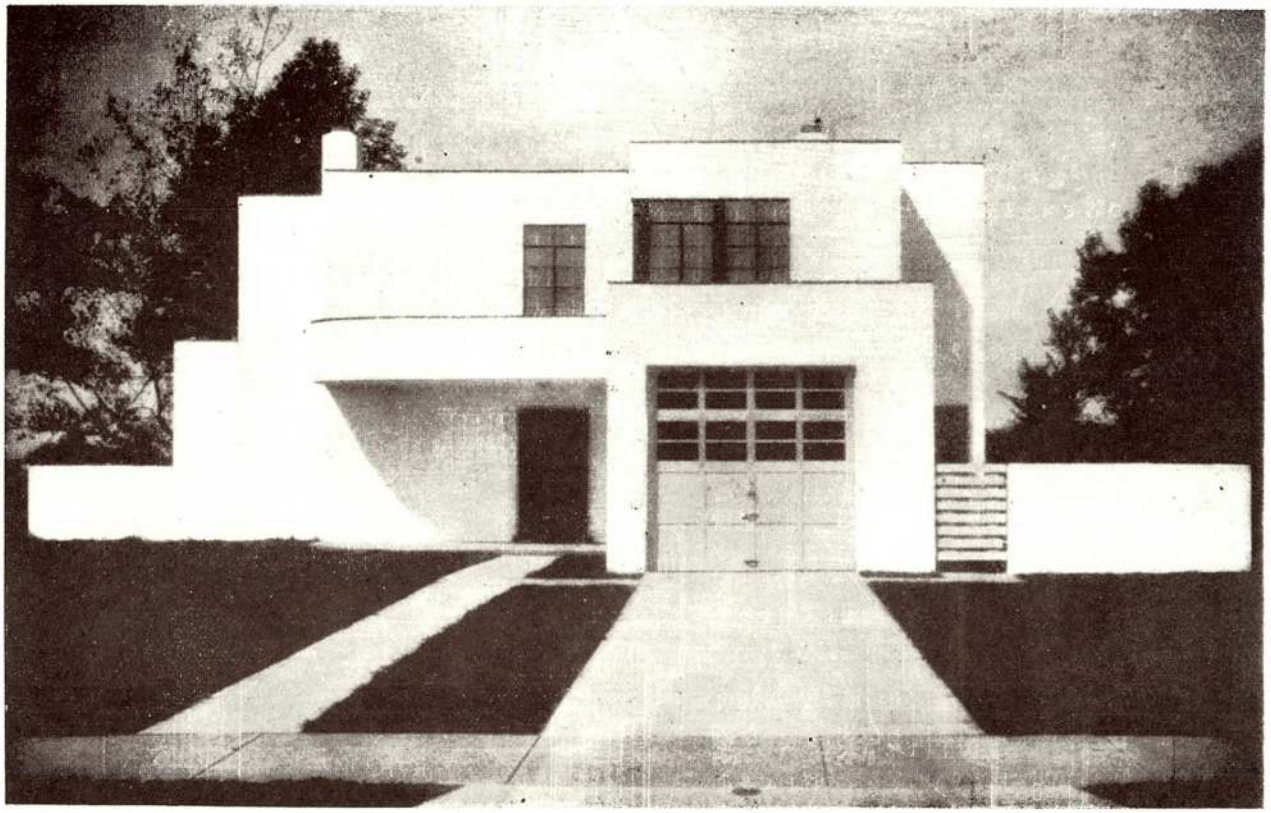
屋上庭園は建物後方の丘とレベルに聯絡して居る。

工費總額 3,000 弗、正味床面積 1 平方呎に對して約 2.75 弗の割合である。

（Architectural Forum 誌より　新名種夫）



平面圖及斷面圖



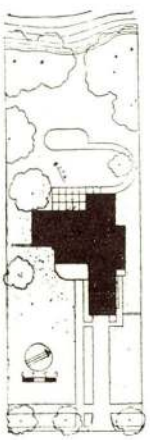
主として鐵とコンクリートと硝子とで組立てられた近代住宅。自動車庫の位置と臺所、洗濯場、玄關、勝手口の關係によく注意が拂はれて居る。

敷地の後方は斜面で1階のテラスや2階の露臺の上から流れの眺望を恣にすることが出來る。

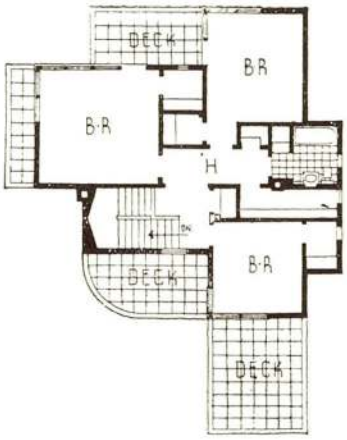
外壁はスタッコ仕上、スチール・サッシュ附。

工費 9,100 弗、立方呎當り 34 セントの割合である。

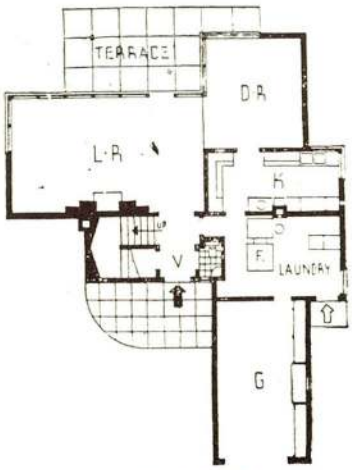
(Architectural Forum 誌より　新名種夫)



配置圖

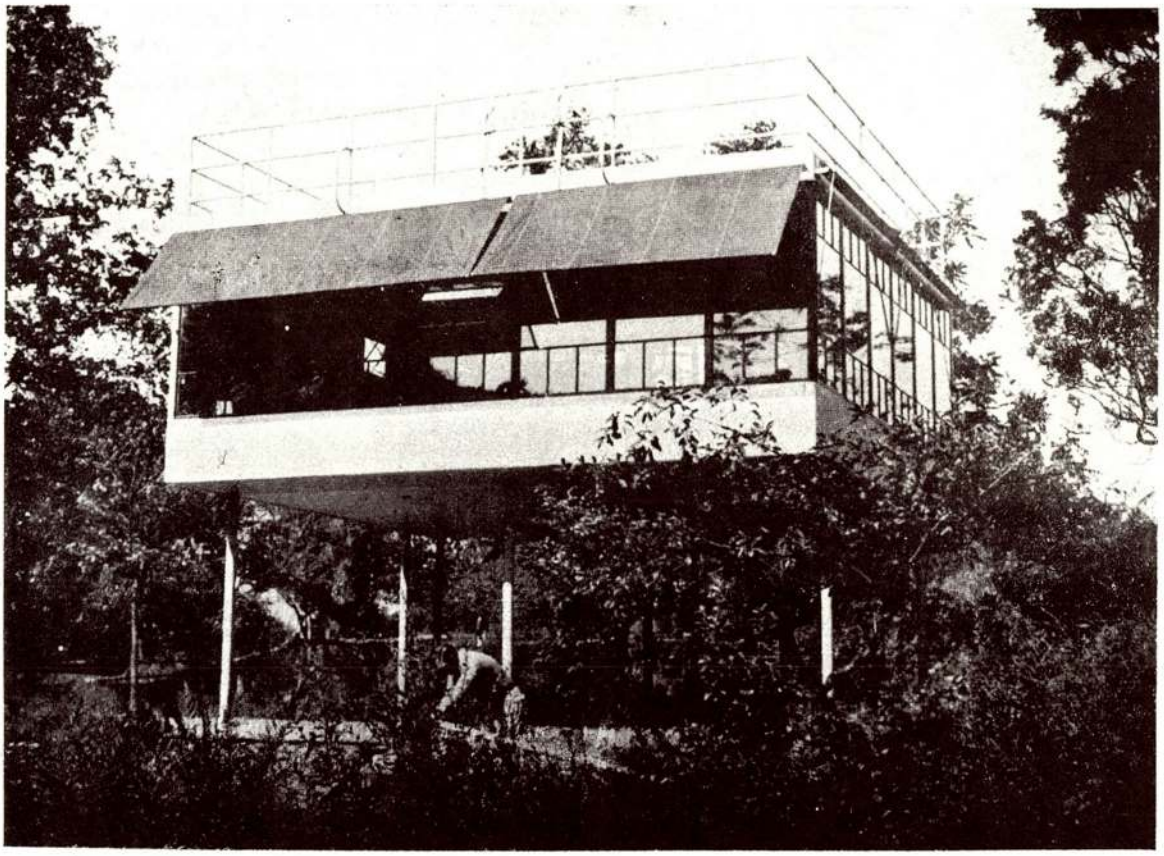


2階平面圖



1階平面圖

(アメリカ) ウイスコンシンの住宅　　建築家 Hillard Russel



外　觀

工費の節約の爲と空面積を有効に使ふ爲に、平面圖に見られる如く四角く、浴室以外は1室主義に計畫せられた住宅である。必要に應じてカーテンを引くと何れも直接浴室に通じ得る3つの寢室が出來る樣になつて居る。

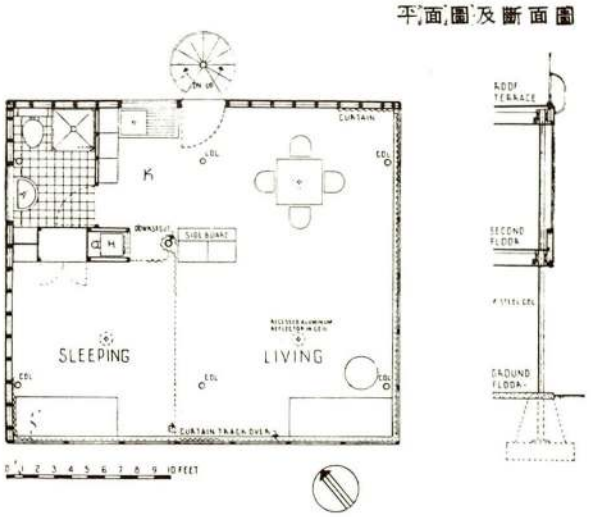
構造が亦非常に面白い。即ち建物は外徑4吋の6本の鋼鐵柱を以て支へられ、2階のみある住宅の觀がある。床下はポーチともなり自動車の置場ともなる。屋上は日光浴場ともなり夏季午睡の場所ともなる。

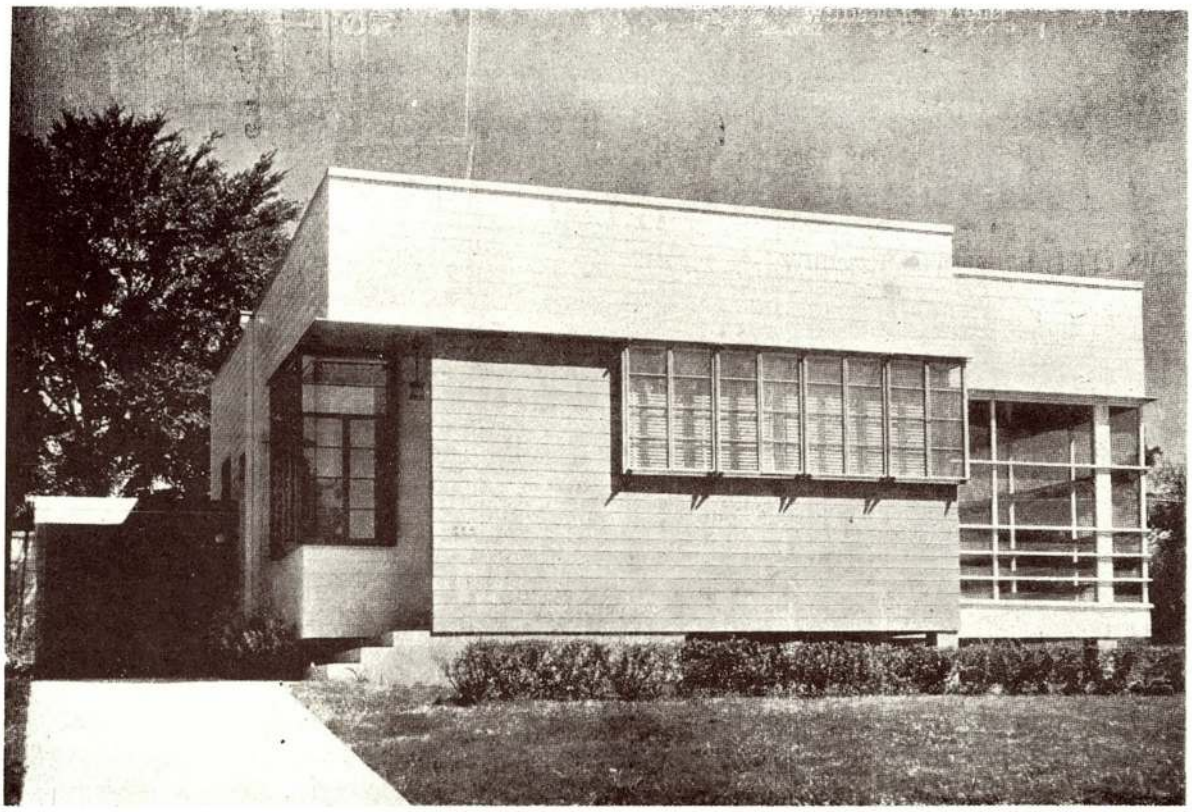
東及南面は全部硝子窓で、日覆とカーテンとで日照を調節する。他の2方は殆んど壁で外部はレッドウッドのフロアリングを斜に打付けた上に厚いカンバスを張りペンキを塗る。內部厚¼吋のベニヤ板張とし內外壁の間にアルミニウムの箔を挾んで熱の逃出すことを防いで居る。床下の天井はメソナイト仕上。

工費は家具裝飾を込めて982弗。

(Architectural Forum 誌より　新名種夫)

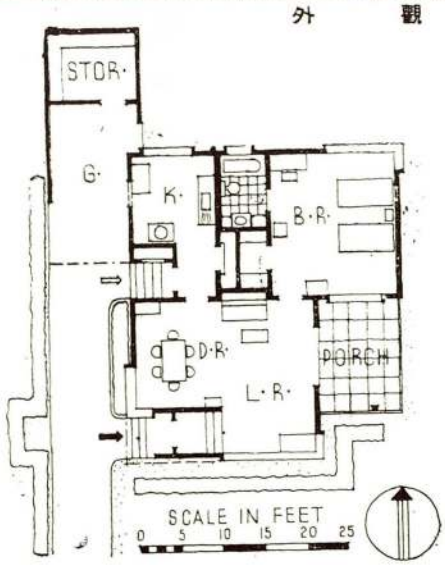
平面圖及斷面圖



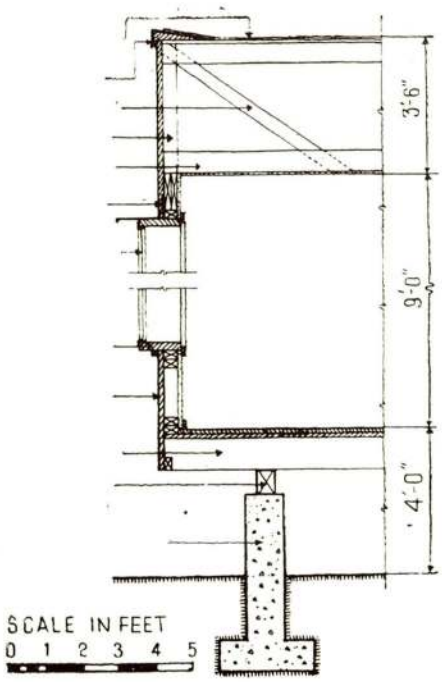


外觀

コンクリート基礎とスチール・サツシユを除くほか全て木造の住宅である。木材は床がオークである以外殆んど松を使用。
工費 3,638 弗、立方呎當り 20 セント。
(Architectural Record 誌より 新名種夫)



平面圖

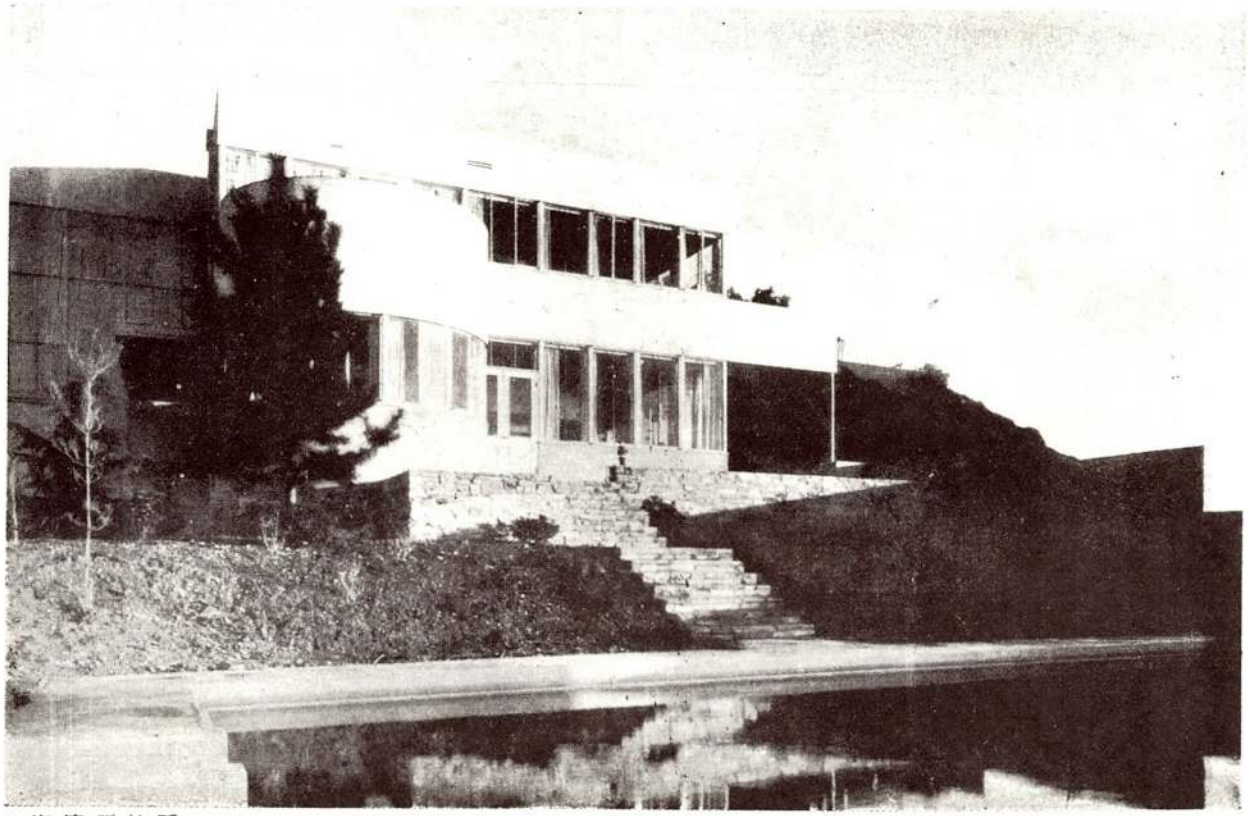


防水層
亜鉛引鐵板
1″×4″ 筋違
2″×4″ 間柱
2″×6″ 梁
亜鉛引鐵板
2″×12″ 枠
1″×6″ 羽目板
2″×10″ 梁
6″×8″ 土臺
12″×12″ コンクリート柱

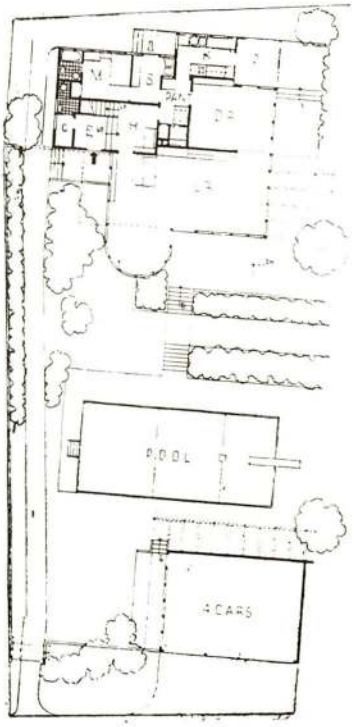
斷面圖

(アメリカ) シユワーブボートの家

建築家 William B. Wiener



海濱側外觀



配置圖

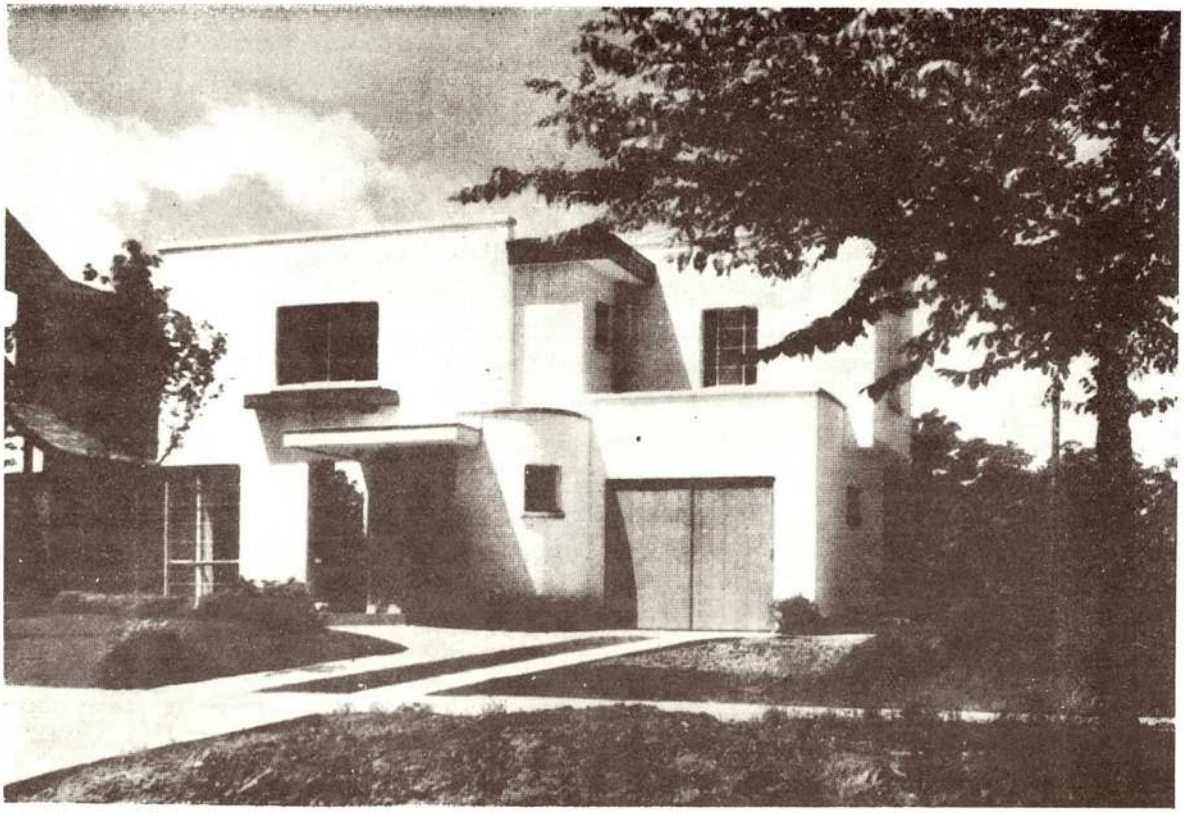


2階平面圖



平面圖にも見られる如く、極度に廣い窓全體に大きな硝子を嵌め込んだノイトラの設計一流の住宅である。

（Architectural Forum 誌より　新名種夫）



外　觀

シカゴの William Joerm 父子の工務店が宣傳の爲に建てて賣つた住宅。

大きさの割に非常に安いと言ふ意味で注意さるべき住宅の1例である。

屋根の部分が木造のほかは耐火構造、スチールサッシュ附。

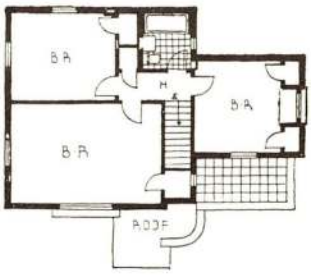
外壁はポートランド・セメント・スタッコ仕上。内部壁はプラスター床はコンクリートの上にカーペット又はリノリウム敷。

價格 7,250 弗、立方呎當り 34.8 セント。

(Architechtural Forum) 誌より　新名種夫)



1階平面圖



2階平面圖



地階平面圖

(アメリカ) Earl Krupp 氏邸

建築家　William F. Kramer



外　　觀



2 階 平 面 圖

1. ロンヂ、2. 食堂、3. 研究室、4. ホール、5. 玄關、6. 臺所、7. 物置、8. 車庫、9. 外套室、10. ロジヤ、11. 寢室、12. 客室、13. 小兒室、14. 客室兼衣裳室、15. 女中室、16. 17. 浴室、18. 倉庫、19. ポーチ、20. 渡廊下

（Architectural Review 誌より　本多正道）



1 階 平 面 圖

會　報

定款一部變更の件

豫て本協會定款一部變更に付申請中の處今回下記の通認可書交付ありました。

工第 1885 號

昭和10年11月26日

大阪府知事㊞

社團法人日本建築協會會長殿

認可指令書交付ノ件

豫テ認可申請中ノ處今般別紙之通認可有之候條指令書交付候也

追テ申請書改正條項中「但シ本改正ハ昭和11年度ヨリ之ヲ實施ス」トアルヲ削除シ附則トシテ「本改正ハ昭和11年度ヨリ之ヲ實施ス」ヲ追加スルモノトシテ認可セラレタル義ニ付御了知相成度

（別紙寫）

收社第 895 號

大阪府大阪市北區中之島３丁目３番地

社團法人　日本建築協會

昭和10年９月７日附申請其ノ法人定款變更ノ件認可ス

昭和10年11月12日

内務大臣　後藤文夫㊞

（參考）

定款一部變更條項

第11條第１項中「18圓」トアルヲ「12圓」ニ改ム

同　　條第２項中「9圓」トアルヲ「8圓」ニ改ム

第12條第２項中「8圓」トアルヲ「6圓」ニ改ム

附則トシテ「本改正ハ昭和11年度ヨリ之ヲ實施ス」ヲ追加

評　議　員　會

1 昭和10年11月18日大阪市北區中之島3ノ3朝日ビルヂングに於て評議員會を開會す

1 評議員の出席者下記12名

評議員　武田　五一　　伊東宗太郎

池田　宮彦　　北垣熊之介

清水　榮二　　島田　良馨

谷　　隆夫　　中澤誠一郎

藤本賢太郎　　松久保敬三

松井清之助　　山口久五郎

監　事　岡部　顯則

1 午後６時５分評議員會長片岡安缺席に付き評議員副會長武田五一議長となり同議長より只今評議員の出席者12名なるも本日の評議員會は再度の招集なるにより定款第24條但書により定數に依らず評議員會は成立の旨を告げ豫て通知したる如く下案より議することに致します

議案第５號　昭和11年度收支豫算の件（原案各員に配布）

1 次で清水主計より收支豫算に付詳細說明あり二三質問應答ありたる後議長より採決異議者なく原案可決す

議案第６號　會費滯納者整理に關する件

1 清水主計より會員賛助員にして會費の延滯するものあり之れ既に會員の義務を怠るものにして定款第14條により除名すべきものなるも此等會員には本人より退會届提出方慫慂して尙提出せざるものは除名し整理したきことを詳細說明あり是亦一、二質問應答の後可決す

報告　定款一部變更認可の件

中澤主記より願書提出後の經過及大阪府の指示により願書の一部變更したること等報告あり

1 上記にて評議員會終了の旨を議長より告げ閉會す時に午後７時

1 尙本議事錄の代表署名者に付議長より之を諮り下記２氏を指名す

池田宮彦氏　　島田良馨氏

常　務　會　（第21回）

時　　11月8日午後5時20分　8時

所　　建築倶樂部

出席者　理事　片岡會長

監事　岡部監事　　澁谷監事

常務　伊藤主記　　池田主記

北垣主記　　中澤主記

伊東主計　　清水主計

谷　主計　　新名編輯

島田編輯

議事

1 11月例會に關する件（前回決議の伊藤博士講演は取止め）
2 昭和11年度豫算に關する件
3 評議員會並通常總會日取に關する件
4 會員委員會より委員增員要求の件
5 法制委員會より各府縣市街地建築物法細則蒐集したるにより之を單行本として發刊の件
6 木材市場品規格調査委員會より調査研究終了に付報告の件
7 會費滯納者に關する件
8 會員詮衡

報告

1 秋季大會決算報告

常　務　會　（第22回）

時　11月18日午後7時—7時45分
所　建築倶樂部
出席者　理事　武田副會長
常務　池田主記　中澤主記
伊東主計　清水主計
谷　主計　島田編輯

議事

1 木材市場品規格調査委員會報告に係る成案を會誌にて發表するの件
1 會費滯納者に對し會員の取扱ひ一時中止に關する件
1 會員詮衡
1 其他

報告

1 10月分會計報告

會員動靜

入　會　者

會　員

猪瀨幸太郎君　兵庫縣武庫郡瓦木村高木字東犬飼336（株式會社大林組）
池永　恒男君　住吉區阪南町東1ノ24　（白陽工務店）
岩井　正明君　西區京町堀上通2ノ22（大阪市營繕課）
大曾根昌平君　北區神山町26（自營）
荻野　賀一君　普通贊助員より變格
小泉嘉四郎君　住吉區松崎町1丁目東亞園アパート（大阪市臨時校園建設所）
小山亥智郎君　兵庫縣武庫郡甲東村段上字新田74（合名會社竹中工務店）
杉山　七藏君　住吉區阿倍野筋2ノ33鹿島組內（株式會社鹿島組）
田中　直君　兵庫縣武庫郡鳴尾村西畑2番ノ5（株式會社長谷部竹腰建築事務所）
富田　宗七君　西宮市松原町16（富田建築事務所）
中川　匠君　兵庫縣川邊郡小濱村米谷石田18（大阪市營繕課）
西村　信一君　浪速區新川3ノ623（大阪市電氣局高速鐵道建設部
福田　政治君　住吉區昭和町東2ノ3（關西土地株式會社工務課）
藤田　辰三君　普通贊助員より變格
藤岡　忠義君　東淀川區長柄中通4ノ89（關西土地株式會社）
增田　建司君　住吉區阿倍野筋2ノ33（鹿島組內）

地方會員

石井　富司君　普通贊助員より變格
池村吉之助君　岐阜市本莊町溝畑新興人絹株式會社岐阜紡績工場監督事務所（池村建築事務所）
池內　久夫君　大津市役所建築課（大津市技手）

特別贊助員

龜山　武男君　府下北河內郡門眞村門眞1006
山中鹿太郎君　兵庫縣武庫郡芦屋御所ノ內854ノ1（關西ペイント株式會社）

普通贊助員

奥野　正三君　此花區吉野町1ノ74（大阪市經理部土地課）
嘉村春五郎君　愛媛縣新居郡西條町（嘉村建築事務所）
工藤　潔君　此花區上福島南3ノ83（大阪市驛前整理事務所）
岸川　武夫君　兵庫縣武庫郡大庄村西字東之口3ノ12（大阪市驛前整理事務所）
小杉　清秀君　住吉區桑津町37（大阪市驛前整理事務所）
安田　眞伸君　尼崎市難波新町1ノ126（日本タイル工業株式會社）
田中庄太郎君　西區北堀江御池橋1ノ20（尼崎市役所營繕課）

狹間　清一君　港區入船町3ノ16蔦方(大阪市臨時校園建設所)
正木　常也君　北區東梅田町47日本タイル工業株式會社大阪出張所內(日本タイル工業株式會社)
吉田　東君　東淀川區十三西之町3ノ12 三宅鎗三方(佐納建築事務所)

退會者

地方會員　野上登米二君
特別贊助員　織田秋之助君
普通贊助員　間宮益二君　島末盛市君

死亡

終身贊助員
坂本已之松君　(昭和10年8月23日逝去)
特別贊助員
横田佐右衛門君　(昭和10年10月28日逝去)
普通贊助員
河杉　親一君　(昭和10年11月23日逝去)
(謹んで哀悼の意を表す)

轉居轉勤

會員
高橋　誠義君　京都市上京區紫竹初音町61ノ2 村上善之助方
伊東宗太郎君　兵庫縣伊丹町阪急新伊丹西3丁公園南
野田　義雄君　住吉區播磨町西2ノ2
德永　隆俊君　岡山市大供100
山田　誠君　西宮市川西町46
加藤　庄記君　旭區新森小路北3ノ51
保田虎太郎君　南區鰻谷仲ノ町30
西本　繁君　東成區勝山通5ノ5843
神田　省三君　神戸市林田區寺池町2ノ16
地方會員
藤田　元吉君　福岡市東露町137
江島　正則君　福岡市社家町21清水組博多支店
遠山　久君　尼崎市難波中通5ノ113
平野　彌助君　川崎市大宮町1295
山本　良一君　新京市永昌胡同代用官舍260(滿洲國國務院總務廳需用處營繕科)
岩崎甚太郎君　西宮市今津町字今津巽1718
上東　辰登君　府下中河內郡布施町荒839
普通贊助員
臼井　健三君　新京特別市興安大路1006
坂野　彥一君　神戸市須磨區離宮前町96
阿部　茂君　哈爾賓市龍江街17ノ2
飯野　藤吉君　岡山市福島松ケ鼻中國レーヨン株式會社岡山工場新築工事場大林組出張所
松山　愛三君　府下泉北郡濱寺町諏訪ノ森808ノ2
片山　一郎君　奈良縣吉野郡丹生村丹生

本號執筆者紹介

五十音順

勾坂弘美	東帝京國大學建築學科卒	大阪府技師
清水榮二	東京帝國大學建築學科卒	清水榮二建築事務所所長
中井新一郎	東京帝國大學建築學科卒	大阪府技師
松井清之助	京都帝國大學建築學科卒	大阪府技師
元吉勇太郎	東京帝國大學建築學科卒	大阪府技師

12月號

編輯後記

◆12月號は例年の通り常設委員會委員諸兄の、1ケ年の努力の結晶である報告書で滿たしてありますから、御熟讀願ひます。

◆來年の1月號は、都市美座談會、神戸菊水樓の寫眞並に說明等、其他新年號にふさわしい原稿を收錄する事に成つてゐます。從來の特輯號を中心とする編輯方針を改めて其月々に適合した新しい材料を中心として編輯し特輯號は年に3.4回とする方針になつてゐます。

◆昨年は防空演習、風水害等で建築家の健在なりし處を見せましたが、本年も又例に無い各所の水害は、技術家に對して多大の敎訓を與へられ、災害は吾等を玉にすとでも云ひませうか、來るべき年も亦災害防止は我等の努力すべき1つの方向でなければなりません。

◆會費の値下斷行の爲に來年度の“建築と社會”の內容體裁に不安を持つ方々もあるやうですが、實は本年下半期は値下後の編輯豫算で進んで居ますので、御心配になるやうな大變化はないと思ひます。

◆“建築年鑑”並に“建築と社會”“建築學研究”等の編輯方針に就て、御意見があればどしどしお伺ひいたしたいと思ひます。

◆本年秋、週間朝日を通じて脚本を公募して以來 P.C.L に命じて製作中であつた映畵——全ての災害に對して安全なる都市を建設せよとの理想を盛つたもの——も12月中旬には完成、近く「愛の設計圖」なる題名にて封切せられる筈であります。

◆昭和10年を送るに際し、大家族的な會員諸氏の御幸福をお祈りする次第であります。

（島田）

建築と社會

第18輯第12號

毎月1回1日發行　定價　1册 .50圓(郵稅2錢)　12册 6.00圓(同 24 錢)

昭和10年11月25日印刷　昭和10年12月1日發行

發行・編輯　小板常男
印刷人
大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　大阪活版所
大阪市東區內淡路町1丁目7番地

發行所　財團法人 日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪 39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀 2440番
振替口座大阪 2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15.00
普通	½頁	1回	8.00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45.00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40.00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25.00
アート（中挿）	½頁	1回	20.00
表紙2	1頁	1回	60.00
表紙3	1頁	1回	45.00
表紙4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
（建築關係業者案內）	1欄	1回	5.00

廣告掲載御申込は本會直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

建築材料陳列場出品者

棚番號	材料種別	出品者
1・6	鋼製建具建築材料	三機工業株式會社
2～4	ギルソイドルーフキング	田島應用化學工業所
2～4	エターナイト	木下謹三商店
5	合板寄木フローリング	富士建築工藝株式會社
7	リノリユーム其他附屬品	東洋リノリユーム株式會社
8～9	六甲スレート日本石綿盤六甲タイル	野澤幸三郎商店
10	トラバーチン	金王石工所
11	ロールプラッグストツプリーグ	ユニオントレーヂングコンパニー
12	チツソライト板	日本窒素肥料株式會社
13～14	銅眞鍮アルミニウム	古河電氣工業株式會社
15	特許能美式自働火災警報裝置及消火裝置其他	合資會社能美商會
16	衛生器具	大阪城口研究所
17	衛生器具	株式會社須賀商會
18	衛生器具	西原衛生工業所
19	テツクス、コルク板、ルーフイング、スレート	佐藤合名會社
20～21	衛生陶器附屬品	東洋陶器株式會社大阪出張所
22	銅鐵製窓枠	榮進社大阪出張所
23	內裝用藥掛タイル	淡陶株式會社大阪支店
24	カールプラグ及カールエキスパンシヨンボールト	合名會社小野逞三商店
25	タイル	山本窯業商店
26	各種タイルテラカツター	大阪窯業株式會社
27～28	テラカツター衛生陶器	大阪陶業株式會社
29	タイル	有田製陶所
30	洋家具裝飾	船木由松商店
31	テラカツタータイル等	伊奈製陶株式會社
32	金庫寫眞カタログ	大谷金庫店
33	硝子製品、旭ラツカー	旭硝子株式會社
34	ドアーチエツク、フロアーヒンヂ、スプリングヒンヂ	日本ドアーチエツク製作所
35	町野式水道消防器具	ヂヨイント商會大阪支店
36	ドアーハンガー	平松釣戸車製造所
37	建具金物	近江セールズ株式會社
38	大理石及人造石	矢橋大理石商店
39	大理石	大理石工業株式會社
40	建築參考塗料見本	關西ペイント株式會社
41	木工品	日本樂器製造株式會社大阪支店
42～43	建築用金屬材料ホワイトブロンズ水道鋼管	住友伸銅鋼管株式會社
44	プリズム硝子、鑄造硝子、彫刻硝子其他各種建築用硝子	岩城硝子製造所
45～46	ラス類一式	奥村重兵衛商店
47	スチールサツシユ、シヤツター見本	合名會社汎建製作所
48	板硝子	日本板硝子株式會社
49	ケンテキス	淺野物産株式會社建材部
50	建築金物	大塚定治郎商店
51	ベニヤ板及加工品	ベニヤ商會
52	金屬天井板	佐渡島西店建材部
53	各種マーブリツク	守谷建材株式會社大阪支店
55	石綿スレート	淺野スレート株式會社
56		
57	オリエンタルメタル浪板	オリエンタルメタル製造所
58	ベニヤ板見本ドアーセクシヨン	內外木材工藝株式會社
59	專賣特許特殊ゴム床敷物	ライトラバー工業合資會社
60	田中式カストストーン	合名會社田中タイリング商會
61	アスファルト	榎商店
62	屋根瓦各種	高松菊治郎商店
63	ルーフキング	佐久間パプコ工業株式會社
64～65	キングブロックアスファルト鐵鋼類	マルエス工業株式會社
66	纖維製絕緣板、エールテツクス	株式會社大同洋紙店
67	建築諸材料	合資會社建材社
68	セメント防水劑モリノイト保溫盤ウオータイト	日本セメント防水劑製造所
69	防水劑ロータス	關城化學工業株式會社大阪營業所
70	スカイライト、エービーメタル	內外土木建築材料合資會社
71	日之出アスファルト加工品	日本建築紙工大支店
72	硝子製品	株式會社島田硝子製造所
73	洋瓦各種	宇野洋瓦株式會社
A		
B. 1	リーダ液防水劑	ヒーロ特許工業所
B. 2	美　素	美素工業所
B. 3	清光塗料　其他	清光社
B. 4	人造大理石	旭マーブル研究所
C		
D. 1	ステインレス、スチール及グラナイト	モンソン商會

建築と社會第18輯第12號　廣告索引

ア　有田製陶所……49
旭硝子株式會社……47
朝日建材株式會社……表紙 2
淺野スレート株式會社……15
淺海商會……34
イ　岩元商店建材部……34
池田組……2
伊藤元商店……38
エ　榮進社……24
英進商會建材部……41
荏原製作所……6
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
大阪伊丹商店……14
大阪組立コンクリート製作所……28
大野製作所……前附 1
奥村重兵衛商店……31
大阪アスファルト商會……7
カ　關城化學工業株式會社……表紙 4
金岡養樹園……中挿
キ　木下謹三商店……10
桐田商會……35
協和製作所營業部……28
ク　黒川化學工業所……17
久保商店……26
窪島プレス工業所……48
コ　後藤商店……14
小坂井組……3
工英社……54・55
サ　佐渡島西店……43
佐久間パブコ工業株式會社……50
坂本商會大阪支店……30
坂田ベンチレーター製作所……41
シ　島貿易株式會社建材部……51
ス　須賀商會……44
セ　政正合資會社……12
清光社……26
タ　田島應用化學工業所大阪支店……56
ダンロップ護謨株式會社……中挿
タカラ商會……21
田村商會……39
田中昌司商店……40
チ　チヨーホー商會……38
ト　東洋リノリユーム株式會社……37
東洋洋瓦株式會社……5
東京電氣株式會社……32
ナ　內外土木建築材料合資會社……36
名古屋製陶所……9
南滿鑛業株式會社……23
中井商店大阪支店……53
中野石材販賣店……40
ニ　日本建築紙工株式會社……12
日本建材工業所……中挿
日本ドアーチエツク製作所……20
日本パイプ製造株式會社……42
日本ノンスリツプ商會……52
日本窒素肥料株式會社……表紙 3
日本洋瓦株式會社……13
日本セメント防水塗料商會……11
西原衛生工業所……25
西孫南店建築金物部……21
ノ　野澤幸三郎商店……22
ハ　汎建製作所……49
ヒ　日立製作所……46
美素工業所……前附
フ　福原商會大阪支店……19
マ　マルエス工業株式會社……18
松井商店……17
松信工業社……30
丸善株式會社……4
ミ　三井物產株式會社……29
ミネライト工業所……8
ヤ　矢橋大理石商店……16
山本藤助商店……8
山本窯業商店……19
山田工務店……11
大和護謨製作所……27
ヨ　横河橋梁製作所……33
米本榮商店……16
ラ　ライトラバー工業合資會社……45
レ　玲光社(木內眞太郎)……23